

平成 24 年度

# 沖縄美ら海水族館年報

第 9 号



---

ANNUAL REPORT OF OKINAWA CHURAUMI AQUARIUM

No.9 April 2012 – March 2013

---

## 目次

I	名称・所在地・営業資料.....	2
II	沿革.....	2
III	管理・運営.....	3
	(1) 組織.....	3
	(2) 入館者数.....	4
	(3) 業務入館.....	4
	(4) 取材状況.....	6
	(5) 主な活動・出来事.....	9
	(6) 主な長期飼育動物・繁殖動物.....	13
	(7) 学会発表、講演等.....	13
IV	業務報告.....	16
	(1) 調査研究活動.....	16
	(2) 教育普及活動.....	32
	(3) 開館 10 周年記念業務.....	43
V	付属資料.....	47
	(1) 飼育生物一覧.....	47
	(2) 取水海水温.....	58
	(3) 水槽規格.....	59

表紙写真  
裏表紙写真

オキナワクルマダイ *Pristigenys meyeri* (撮影：東地拓生)  
リュウキュウスガモ *Thalassia hemprichii* (撮影：若井万里子)

## I 名称・所在地・営業資料

名称 沖縄美ら海水族館  
 所在地 〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川 424  
 (国営沖縄記念公園海洋博覧会地区内)  
 電話：0980-48-3748 FAX：0980-48-4444 (代表)  
 電話：0980-48-2742 FAX：0980-48-4399 (魚類課)  
 HP：http://oki-churaumi.jp

開館時間 通常期 (10月 - 2月) 08:30 - 18:30  
 夏期 (3月 - 9月) 08:30 - 20:00

休館日 12月の第一水曜日とその翌日

入館料金

	入館時間			年間パスポート
	8:30 - 16:00 (通常料金)		16:00 - 入館締切 (4時からチケット)	
	一般	団体 (20名以上)		
大人	1,800円	1,440円	1,260円	3,600円
中人 (高校生)	1,200円	960円	840円	2,400円
小人 (小・中学生)	600円	480円	420円	1,200円
6歳未満	無料			—

## II 沿革

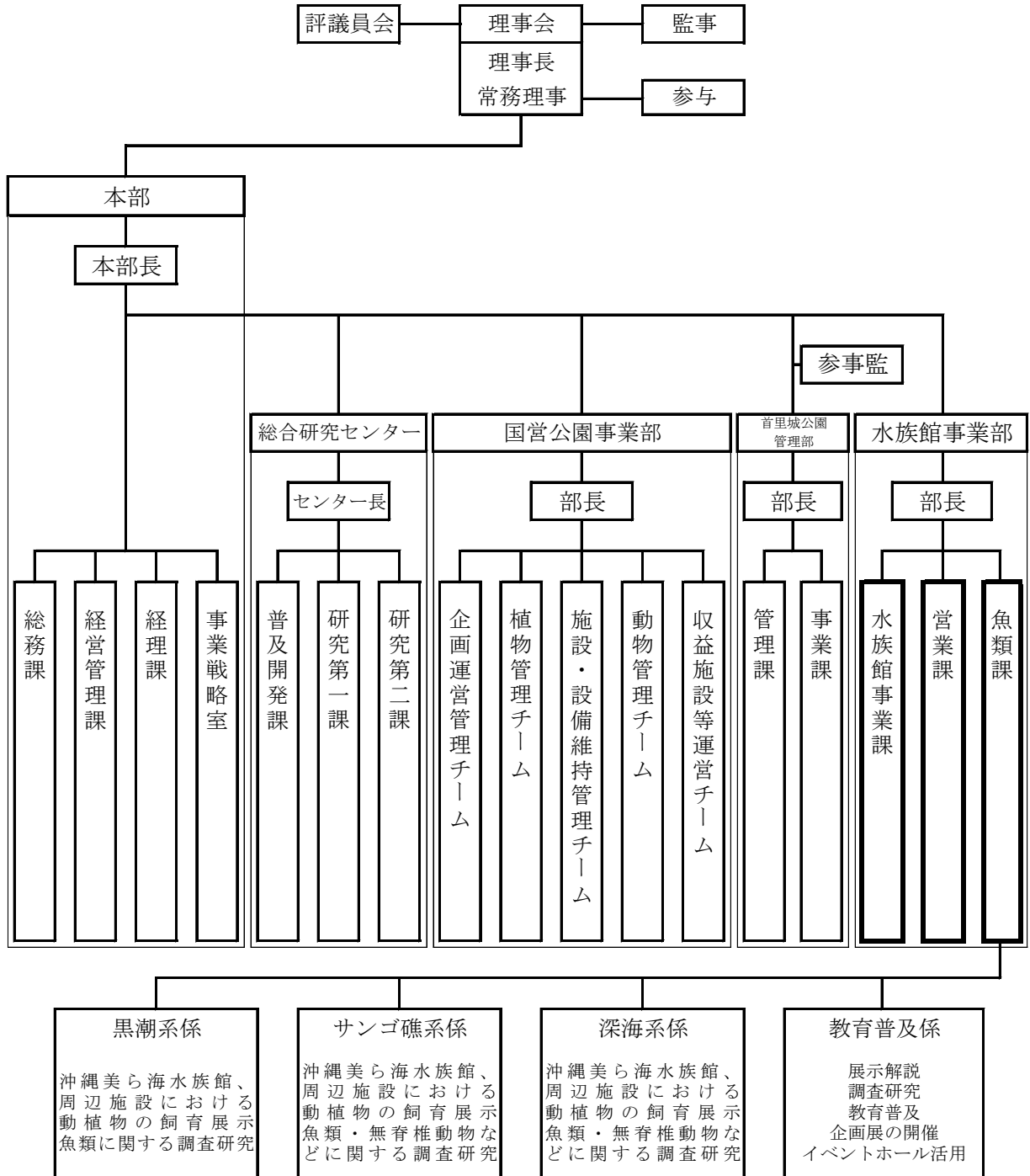
昭和 63年度 海洋性大規模集客施設整備構想  
 平成 元年度 海洋性大規模集客施設基本計画策定  
 平成 6年度 新水族館基本設計 着手  
 平成 7年度 新水族館実施設計 新水族館工事前道路工事 着手  
 平成 8年度 新水族館基盤整備工事 着手

平成 14年11月 1日 新水族館開館、愛称を「沖縄美ら海水族館」とする  
 平成 15年 2月28日 入館者 100万人達成  
 平成 15年 3月25日 沖縄美ら海水族館博物館登録  
 平成 15年 7月26日 入館者 200万人達成  
 平成 15年12月 6日 入館者 300万人達成  
 平成 16年 5月 4日 入館者 400万人達成  
 平成 16年10月24日 入館者 500万人達成  
 平成 18年11月11日 入館者 1,000万人達成  
 平成 20年 7月23日 入館者 1,500万人達成  
 平成 22年 3月30日 入館者 2,000万人達成  
 平成 24年 2月 3日 入館者 2,500万人達成

### III 管理・運営

#### (1) 組織

一般財団法人 沖縄美ら島財団 組織図  
並びに 沖縄美ら海水族館 飼育・展示関係業務所掌



平成 24 年 10 月 1 日現在

## (2) 入館者数

月	有料	無料	合計
4	203,067	23,767	226,834
5	188,457	34,076	222,533
6	162,258	19,109	181,367
7	213,379	26,990	240,369
8	265,210	26,533	291,743
9	209,957	22,647	232,604

月	有料	無料	合計
10	228,695	23,100	251,795
11	211,753	19,594	231,347
12	193,841	18,549	212,390
1	192,510	19,076	211,586
2	200,908	19,355	220,263
3	266,174	22,475	288,649
計	2,536,209	275,271	2,811,480

## (3) 業務入館

月日	来館者	人数	業務内容
4月 2日	沖縄県ユースホステル協会リーダー	3	2012年春休み青少年支援プロジェクトの引率
4月 3日	沖縄県ユースホステル協会理事	1	2012年春休み青少年支援プロジェクトの引率
4月 6日	沖縄少年院法務教官他	4	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
4月 7日	日本獣医生命科学大学名誉教授他	2	飼育・健康管理に関する情報収集
4月 7日	フジテレビ放送代表取締役社長他	9	飼育展示・管理運営状況の視察
4月 10日	ラド観光開発営業部長	1	下見
4月 11日	建設局次長他	4	飼育展示・管理運営状況の視察
4月 12日	日本旅行東日本営業本部副本部長他	11	視察研修
4月 15日	沖縄ツーリスト 関係職員他	34	新人職員の視察研修
4月 19日	関係職員他	109	担当職員の視察研修
4月 23日	JTBメディアリテリングリーダー他	3	下期商品設定の為の下見
4月 26日	都市再生機構沖縄都市再生事務所主幹	1	飼育展示・管理運営状況の視察
4月 27日	ジェイティービー沖縄国内商品事業部課長他	2	エース商品設打ち合わせの為
5月 6日	メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン	6	ウィッシュチャイルドの夢実現
5月 11日	ナニフツーリスト本部部長他	2	下期商品造成打ち合わせの為 (ANA タグアップ 商品)
5月 11日	ジェイティービー沖縄国内商品事業部課長他	3	エース商品設打ち合わせの為
5月 12日	メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン	4	ウィッシュチャイルドの夢実現
5月 14日	ジェイティービー沖縄国内商品事業部課長他	2	エース商品設打ち合わせの為
5月 14日	メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン	5	ウィッシュチャイルドの夢実現
5月 15日	葛西臨海水族園教育普及係長他	2	教育普及活動・移動水族館に関する意見交換
5月 17日	関係職員他	27	視察研修
5月 18日	関係職員他	19	視察研修
5月 19日	ジェイティービー東日本商品事業部課長他	2	エース商品設打ち合わせ、MICE 関連打ち合わせ
5月 26日	ジェイティービー沖縄国内商品事業部長	1	ジェイティービー 100周年事業下見打ち合わせの為
5月 29日	ジェイティービー沖縄国内商品事業部課長他	2	ジェイティービー 100周年事業打ち合わせ・MICE の下見
6月 1日	国土交通省係長他	7	ASEAN エクスカーションの事前視察
6月 12日	ハワイ州高校他	27	沖縄県高校生海外雄飛部プロジェクトに係る見学
6月 13日	重慶風行下旅行社有限公司他	27	中国重慶市旅行社の商品造成の為の視察
6月 13日	関係職員他	24	視察研修
6月 15日	みちのくエイサー隊美ら海沖縄大使他	10	沖縄視察研修の一環としての視察研修
6月 15日	画家 鎌滝由美他	2	熱帯トリエンターテインメント講師、他施設確認
6月 16日	日本政府観光局コンベンション誘致部誘致推進グループ	1	飼育展示等の視察
6月 19日	那覇空港観光案内所	1	最新情報を学び、今後の案内業務に役立てる為
6月 20日	沖縄少年院法務教官他	3	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
6月 20日	JTB 西日本海外旅行西日本支店	16	MICE 事業の一環としての視察
6月 20日	日本旅行東北青森支店他	27	全国教育旅行担当者の視察研修
6月 21日	那覇空港観光案内所	3	最新情報を学び、今後の案内業務に役立てる為
6月 23日	East Afrika Whaie Shark	3	教育普及活動・移動水族館に関する意見交換
6月 24日	JTB 東日本団体仕入企画課長他	3	JTB 扱い下期団体送客目的とした下見
6月 25日	グローバルマーケティングトラベル社長	1	旅行商品成約特典・MICE パッケージ実施要領確認
6月 27日	北海道南富良野町児童生徒他	39	本部町親善交流事業の一環としての見学
6月 27日	沖縄少年院法務教官他	7	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
6月 27日	国土交通省国際統括官他	58	国土交通省が所管する日 ASEAN 次官級の視察
6月 30日	ノラン風船	8	旅行商品造成
7月 1日	フィリピン協和国駐日大使他	8	飼育展示・管理運営状況の視察
7月 4日	都市再生機構九州支社九州公園事務所支社長他	5	飼育展示・管理運営状況の視察
7月 4日	JTB 沖縄国内商品事業部課長他	3	下期商品造成打ち合わせ・水族館グッズ 購入確認
7月 5日	上海中国青年旅行社担当職員他	24	飼育・健康管理に関する情報収集
7月 6日	ATR 会社 (中国上海)	5	視察研修
7月 8日	名桜大学学生課他	31	ウミガメ放流会協力団体の見学
7月 11日	インターコンチネンタルホテルズマネージャー	1	下期イベント商品造成下見の為 (クボン契約等)

月日	来館者	人数	業務内容
7月 14日	JTB 沖縄国内商品事業部課長他	3	下期 MICE ハンドリング調査の為
7月 21日	一般社団法人公園財団事業推進部長他	4	飼育展示・管理運営状況の視察
7月 26日	ドイツ連邦協和国海外参加者他	40	ウチナー・ジュニアステイ事業の一環としての視察
7月 28日	オーストラリア各国の記者他	15	視察団（記者）の視察
7月 28日	被災地児童招待事業ボランティア	3	被災地の活動支援、交流事業実施の為
7月 31日	中国吉祥航空沖縄支店支店長他	10	商品造成に繋げるための視察
7月 31日	イスラエル大使館特命全権大使他	7	飼育展示・管理運営状況の視察
8月 3日	メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン	5	ウィッシュチャイルドの夢実現
8月 5日	帝京大学教授他	3	飼育・健康管理に関する情報収集
8月 5日	在日台湾商工会議所会頭他	12	飼育展示・管理運営状況の視察
8月 9日	沖縄少年院法務教官他	4	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
8月 14日	中国北京市の旅行社他	12	中学、高校の修学旅行視察
8月 16日	海外青年ブルネイ他	80	アジアユース人材育成プログラム事業の一環
8月 24日	兵庫県青年他	46	沖縄県友愛提携の交流事業の一環
8月 27日	名鉄観光サービス(株)営業本部担当職員他	23	沖縄へ誘致促進の一環としての視察研修
9月 4日	国立水産学院未来養殖研究センター水産研究者他	2	生物飼育のための資料収集及び視察
9月 4日	沖縄少年院法務教官他	4	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
9月 9日	中華航空他	19	中華 PAK 商品化に向けた視察
9月 11日	JTB GMT 法人営業部他	3	MICE のオプションツアーの下見
9月 13日	那覇バス観光部	4	バスガイドの案内研修
9月 13日	株式会社ジャルパック総括マネジャー他	7	視察研修
9月 13日	日本コンベンションサービス	3	MICE の会場下見
9月 15日	中国第一歴史档案馆他	5	飼育展示・運営管理状況の視察
9月 26日	東亜関係協会（台湾）	5	国際交流の促進及び観光客誘致に役立てる為
9月 27日	沖縄県産業振興公社他	17	本部町の地域資源視察会
10月 13日	㈱ジンジントラベル営業部他	10	視察研修
10月 15日	㈱ジンジントラベル他	25	視察研修
10月 28日	韓国の旅行会社他	17	沖縄美ら海水族館の知識取得の為の視察研修
11月 1日	鹿島建設㈱本社他	5	飼育展示・運営管理状況の視察
11月 8日	済州道自治政府	13	飼育展示・運営管理状況の視察
11月 10日	㈱アーク・スリー・インターナショナル	8	今後のツアー造成のための視察研修
11月 11日	㈱アーク・スリー・インターナショナル	22	今後のツアー造成のための視察研修
11月 15日	㈱JTB 西日本姫路支店	6	今後のツアー造成のための視察研修
11月 15日	ハナツアー他	16	商品造成及び販売を促進する為の視察
11月 20日	富士フィルム イメージングシステム	1	視察研修
11月 22日	沖縄少年院法務教官他	8	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
11月 26日	マレーシア旅行社他	64	視察研修
11月 28日	吉林省環境国際旅行社他	13	ツアー造成のための視察研修
11月 29日	株式会社 JTB 西日本姫路支店	10	視察研修
12月 1日	香港旅行社他	13	香港旅行社の個人旅行商品の造成の為
12月 1日	㈱四季の旅	1	商品造成及び販売を促進する為の視察
12月 1日	㈱JTB 北海道 北海道航空事業部	7	視察研修
12月 9日	㈱JTB 北海道 北海道航空事業部	14	視察研修
12月 12日	全日本航空㈱大阪支店	7	KOBE 神戸未来号・沖縄添乗の視察
12月 15日	ホテルラッソ那覇松山	2	宿泊プラン造成を目的とした視察
12月 15日	エスピートラベル 大阪支店他	21	視察研修
12月 16日	外国外国観光局協議会他	3	外国人有識者視察調査の為の視察
12月 16日	㈱JTB 北海道 北海道航空事業部	12	視察研修
12月 17日	東京エ・ジェント支店	19	電話・予約センター・セールス社員の視察
12月 17日	株式会社 JTB 西日本姫路支店	10	視察研修
12月 19日	外国旅行社他	8	視察
12月 20日	公立大学法人首都大学東京産業術大学院大学	4	国際会議主催者の MICE 会場の視察
12月 21日	沖縄工業高等学校専門学校機械システム工学科	44	水族館の電気・機械設備の見学
12月 27日	函館市立中部小学校他	16	沖縄県豆記者交歓会交流事業の一環
1月 13日	中部老人クラブ連合会事務局長他	3	老人クラブ等の見学に伴う下見
1月 17日	㈱ジェイアール東海ツアーズ	34	今後の送客に役立てる為
1月 17日	ミスおきなわ	4	知識収集の為
1月 18日	沖縄少年院法務教官他	4	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
1月 18日	一般財団法人公園財団本部総務課長他	2	飼育展示・運営管理状況の視察
1月 25日	dmg Events Japan	4	大型団体対応する為の下見研修
1月 26日	国旅集団上海有限公司	10	MICE 誘致に繋げる為の視察
1月 27日	JTB GMT 他	5	視察研修
1月 27日 - 2月 11日	第 11 回アジア太平洋洋蘭会議 ・第 27 回沖縄国際洋蘭博覧会関係者等	450	視察
1月 27日	営業部販売促進課他	4	視察研修
2月 2日	北九州旅行九州団体旅行支店	17	視察研修
2月 3日	日本洋蘭農業協同組合他	8	世界らん展事務局の視察
2月 6日	名古屋市議会	1	飼育展示・運営管理状況の視察
2月 7日	名古屋市議会	1	飼育展示・運営管理状況の視察
2月 10日	HIS 国内旅行事業部沖縄地区仕入企画責任者他	3	沖縄素材下見
2月 12日	近畿日本ツーリスト個人旅行販売(株)	6	カウンターセールスに役立てる為の視察研修
2月 13日	沖縄少年院法務教官他	4	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
2月 15日	JTB CMT 他	4	ボラント・アメリカン社の寄港担当者による視察

月日	来館者	人数	業務内容
2月17日	韓国の旅行会社他	13	韓国からの集客の為
2月18日	沖縄ツアーリスト他	18	インドのアウトバウンド旅行社の研修
2月20日	水産省 国際水産資源研究所	5	情報収集及び情報交換の為
2月25日	沖縄県農林水産部農政経済課	2	飼育展示・運営管理状況の視察
2月27日	Global Basecamus 他	9	観光客誘致の基盤を形成する為の視察
3月1日	内閣府政策統括官(沖縄政策担当) 参事官他	5	沖縄振興事業に関する実施視察
3月2日	HIS 西日本管理部長代理他	31	視察研修
3月3日	米国東海岸旅行会社	11	観光客誘致基盤を形成する為の視察
3月3日	他 沖縄観光コンベンションビューロー他	9	日本政府主催、国際会議海外キープ・アップの視察
3月4日	シンガポール・インドネシア旅行社他	22	商品開発の下見
3月4日	JTBGMT 他	4	寄港予定クルーズ船、沖縄ツアー視察に伴う見学
3月5日	太地町立くじらの博物館	5	海洋生物の飼育・健康管理に関する情報収集
3月5日	太地漁協いさな組合	24	海洋生物の飼育・健康管理に関する情報収集
3月8日	他 トップトラベルサービス	19	販売拡大に役立てる為の視察研修
3月11日	事業団視察	6	沖縄県の事業に係る視察・招聘ツアー
3月15日	中国東方航空客運営業委	25	視察
3月21日	フリーランス他	6	観光客誘致の基盤を形成するための視察
3月22日	ANA セールズ株式会社	23	視察研修
3月22日	沖縄少年院法務教官他	4	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
3月23日	沖縄ツアーリスト観光部	4	ドリームとのセット券実証実験の確認と下見
3月28日	郵船クルーズ株式会社	1	MICE 会場の視察
3月29日	香港航空他	4	更なる促進を図る為の視察
3月31日	メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン	5	ウィッシュチャイルドの夢実現

#### (4) 取材状況

実施日	区分	媒体	目的・内容等
4月4日	PV	ジャルバック店頭用放映ビデオ	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
4月7日	CM	中国の粉ミルク CM	館内撮影
4月9日	TV	あいテレビ「キャッチあい」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
4月10日	新聞	読売新聞大阪本社	入館者数の取材
4月12日	カタログ	Nikon カメラカタログ	館内撮影
4月13日	TV	沖縄テレビ	北朝鮮人工衛星打上に伴う入館予約取消状況取材
4月13日	機関誌	三菱重工労働組合誌夏季号	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
4月16日	素材映像	NTT ドコモ試作サービスコンテンツ	館内撮影
4月16日	TV	TOKYO MX テレビ「さすらい犬の種まき」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
4月16日	新聞・雑誌	中国雑誌・新聞	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
4月16日	その他	共同通信社那覇支社	NR「新種チヨコリエイ発見」への打ち返し
4月17日	Web	HP「素顔の沖縄情報サイトおきなわん」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
4月17日	TV	NHK 沖縄放送局	NR「新種チヨコリエイ発見」への打ち返し
4月17日	新聞	琉球新報北部支社	NR「新種チヨコリエイ発見」への打ち返し
4月18日	新聞・雑誌	中国雑誌・新聞	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
4月19日	新聞	沖縄タイムス北部支社	NR「新種チヨコリエイ発見」への打ち返し
4月20日	TV	NHK 沖縄本土復帰40周年記念ドキュメンタリー番組	復帰当時の番組出演者が観覧する様子を撮影
4月21日	TV	中国瀋陽テレビ「吉日启程」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
4月22日	雑誌	オペラ専門誌「ACT4」・中国メディア	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
4月23日	雑誌	角川マガジンス「レタスクラブ」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
4月25日	新聞・雑誌	中国雑誌・新聞	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
4月27日	TV	フジテレビ「スーパーニュース」	2千円札使用の様子と水族館紹介カットを撮影
4月27日	その他	株式会社ファッションキャンディ	水族館オリジナル商品パッケージ用画像を撮影
4月27日	機関誌	「西宮文化協会」会報誌	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
4月29日	新聞	沖縄タイムス北部支社	NR「リュウキュウアユ放流」への打ち返し
4月29日	TV	琉球朝日放送北部通信員	NR「リュウキュウアユ放流」への打ち返し
4月29日	新聞	琉球新報北部支社	NR「リュウキュウアユ放流」への打ち返し
4月29日	TV	沖縄テレビ北部通信員	NR「リュウキュウアユ放流」への打ち返し
4月29日	TV	NHK 沖縄名護報道室	NR「リュウキュウアユ放流」への打ち返し
4月29日	新聞	琉球新報社	4/29の入館者数について取材
4月30日	新聞	沖縄タイムス北部支社	4/28・29の入館者数と入り込み状況の取材
5月1日	TV	NHK 沖縄名護報道室	NR「GW イベント危険生物展」への打ち返し。
5月4日	新聞	琉球新報社	GW 期間の入館者数について取材
5月5日	TV	NHK 沖縄名護報道室	GW 期間の入館者数について取材
5月7・11日	書籍	ハゴロモ 2013年「沖縄美ら海水族館カレンダー」	生物写真撮影
5月12日	書籍	ガイドブック「ゆるかわおきなわ」	水族館を紹介
5月13日	TV	四国放送「ゴジカル」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
5月17日	TV	NHK 沖縄名護報道室	NR「ウコンハネガイ展示中」への打ち返し
5月18日	TV	琉球放送「南の島のミスワリン」	海の危険生物について紹介
5月24日	新聞	沖縄タイムス	知念定置入網のジンハエ標識放流について取材
5月25日	新聞	日本経済新聞那覇支局	水族館の年間入館者数概数について取材
5月25日	新聞	琉球新報	知念定置入網のジンハエ標識放流について取材
5月30日	新聞	読売旅行	福岡市議会議員の視察について取材
5月31日	TV	NHK 沖縄名護報道室	ハブクラゲの生態について紹介
5月31日	TV	北陸放送「旅・度につぼん 2012plus」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介

実施日	区分	媒体	目的・内容等
6月1日	雑誌	茨城・栃木・福島県内地元情報紙	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
6月4日	TV	琉球朝日放送	「日中ジャーナリスト交流会」同行取材
6月4日	新聞	沖縄タイムス北部支社	NR「サンゴの幼生観察会」への打ち返し
6月5日	TV	沖縄テレビ北部通信員	NR「オオタルマワシ登場」への打ち返し
6月5日	新聞	沖縄タイムス北部支社	NR「オオタルマワシ登場」への打ち返し
6月6日	TV	NHK 沖縄名護報道室	NR「オオタルマワシ登場」への打ち返し
6月7日	新聞	琉球新報北部支社	NR「オオタルマワシ登場」への打ち返し
6月7日	TV	韓国テレビショッピング	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
6月8-22日	書籍	「沖縄美ら海水族館ガイドブック」	生物写真撮影
6月9日	TV	テレビ東京「夏休みのススメキッズの大冒険」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
6月10日	その他	琉球大学工学部	参考資料として魚を写真と動画で撮影
6月11日	新聞	沖縄タイムス北部支社	NR「材木ヅメ3世代展示」への打ち返し
6月11日	TV	情報バラエティー「ジョシスタ」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
6月12日	TV	沖縄テレビ北部通信員	NR「材木ヅメ3世代展示」への打ち返し
6月12日	雑誌	雑誌「Hanako」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
6月12-13日	TV	東海テレビ「ぐっさん家」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
6月13日	TV	琉球朝日放送北部通信員	NR「材木ヅメ3世代展示」への打ち返し
6月14日	TV	NHK 沖縄名護報道室	NR「材木ヅメ3世代展示」への打ち返し
6月15日	新聞	沖縄タイムス北部支社	NR「サンゴの放卵放精確認」への打ち返し
6月17日	TV	琉球放送北部通信員	NR「材木ヅメ3世代展示」への打ち返し
6月21日	雑誌	沖縄県広報誌「美ら島沖縄」	リユウキュウアユの復活を紹介
6月23日	カタログ	FinPix 新商品カメラのカタログ	館内撮影
6月23-26日	展示映像	シーアグリウム 2012 のショールーム用展示映像	館内撮影
6月24-25日	展示映像	シーアグリウム 2012 のショールーム用展示映像	館内撮影
6月28日	PV	大和ハウスのプロモーションビデオ	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
6月29日	TV	熊本の情報番組「テレビタミン」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
6月29-30日	TV	BS日テレ「それいけ!アンパンマンくらぶ」	水族館を紹介
7月4日	Web	NTTドコモのアプリケーション「ご当地ガイド」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
7月4-5日	TV	フジテレビ「めざまし土曜日」	水族館を紹介
7月5日	Web	北丘自動車学校HP「合宿免許」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
7月6日	Web	ソフトバンク携帯動画「Poketトラベラー」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
7月7日	雑誌	中国・青島市の新聞・雑誌	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
7月9日	TV	韓国KBS	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
7月10日	雑誌	雑誌「まっふるマガジン沖縄2013」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
7月11日	雑誌	韓国ワイン雑誌「Wine an'City」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
7月12日	Web	全日空Webサイト「Is JAPAN COOL?」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
7月17日	新聞	琉球新報 仲村	NR「MICE 受付開始」への打ち返し
7月18日	TV	韓国のテレビショッピング	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
7月20日	新聞	イギリス新聞「Financial Times」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
7月21日	TV	香港のテレビ番組「Happy Earth in Okinawa」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
7月23-24日	TV	BSフジ「イノセント・キョウトその時、私は」	内田詮三顧問を紹介
7月24日	TV	福島テレビ観光地紹介番組	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
7月25日	TV	テレビ朝日「スーパーJチャンネル」	「沖縄のサメ」特集で状況を紹介
7月27日	雑誌	ミトシロ書房「水族館ムック」	にて、海の生き物と触れ合える水族館を紹介
7月27日	TV	ミヤギテレビ「OH!バンデス」	「沖縄遊・YOU塾」参加者の様子を同行取材
7月28日	Web	沖縄観光コンベンションビューローHP「夏キャンペーン」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
7月28日	雑誌	中国雑誌「上海文芸風像」スペシャル号	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
7月28日	TV	琉球朝日放送北部通信員	NR「あなたの知らないサメたち」への打ち返し
7月29日	TV	株式会社中海テレビ放送	サマースクールに参加者に同行撮影
7月30日	TV	中国テレビ「食尚玩家」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
7月30日	TV	NHK「こんにちは! 動物の赤ちゃん 夏 水族館」	マンタの出産について紹介
8月3-4日	新聞	琉球新報「子ども新聞」	飼育員の仕事について子ども記者が取材
8月4日	Web	シーサーパーク琉球窯HP	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
8月5日	新聞	琉球新報社会部	台風11号の影響による入館者数について取材
8月5日	TV	とちぎTV「おきなわ遊・YOU塾」	参加者の様子を同行取材
8月6日	Web	観光庁「台湾向け訪日キャンペーンHP」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
8月6日	TV	NHK 沖縄名護報道室	NR「あなたの知らないサメたち」への打ち返し
8月10日	TV	沖縄テレビ北部通信員	NR「ドウケツエビ展示中」への打ち返し
8月13日	TV	中国・四川テレビ	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
8月16-17日	ポスター	沖縄県の海外プロモーション用ポスター	館内撮影
8月18日	Web	エルボ株式会社	NR「ハブクラゲ展示」への打ち返し
8月20日	TV	香港ドラマ「童話恋曲 201314」	館内撮影
8月22日	TV	琉球放送株式会社	移動水族館について取材
8月24日	TV	ロシアテレビ番組「Stream TV」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
9月3日	素材映像	眼科医療機器「フック」使用風景	館内撮影
9月3日	PRDVD	「沖縄 MICE プロジェクト 2012」PRDVD	チームビルディング体験プログラム参加者を撮影
9月4日	雑誌	旅行雑誌「るるぶ沖縄'13」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
9月5日	TV	SBS オーストラリア「Asia Travel Japan」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
9月5日	新聞	沖縄タイムス北部支社	NR「オキナワクルマダイ展示」への打ち返し
9月5日	新聞	琉球新報北部支社	NR「オキナワクルマダイ展示」への打ち返し
9月7日	雑誌	中国映像製作者向け雑誌「The Chinese Film Market」	ロケ地として水族館を紹介
9月8日	TV	NHK 沖縄名護報道室	NR「オキナワクルマダイ展示」への打ち返し
9月10日	雑誌	旅行雑誌「地球の歩き方 Cheers!沖縄」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介



実施日	区分	媒体	目的・内容等
9月10日	新聞	沖縄タイムス北部支社	NR「宝石サンゴ新種発見」への打ち返し
9月10日	新聞	琉球新報北部支社	NR「宝石サンゴ新種発見」への打ち返し
9月12日	TV	K-POP イベントの事前取材	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
9月11日	ラジオ	RBCi ラジオ	9月のイベント内容についてのインタビュー
9月12日	雑誌	雑誌「北海道ウォーカー、東海ウォーカー」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
9月12日	TV	NHK 沖縄名護報道室	NR「宝石サンゴ新種発見」への打ち返し
9月13日	ラジオ	ラジオ沖縄	9月のイベント内容についてのインタビュー
9月13日	ラジオ	株式会社エフエム沖縄	9月のイベント内容についてのインタビュー
9月17日	TV	フジテレビ	NR「9/15・16の臨時休園・休館」への打ち返し
9月19日	TV	青森テレビ「ニュートンのリンゴ」	「サンゴ礁の不思議」について館内撮影
9月26・27日	TV	関西テレビ「世紀の逆転ファイル」	旧水族館から新水族館への移行について取材
10月2日	PV	海外向けPR映像	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
10月3日	雑誌	旅行ガイドブック「じゃらん 沖縄2013-2014」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
10月5日	雑誌	タイの旅行雑誌	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
10月5日	Web	土佐珊瑚協同組合	NR「宝石サンゴ新種2種を発見」への打ち返し
10月6日	雑誌	オーストラリア旅行雑誌「Signature Travel & Life Style」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
10月19日	書籍	「2013年ユニチカカレンダー」	館内撮影
10月21日	新聞	株式会社沖縄タイムス社	難病指定 ALS 患者夫妻の沖縄旅行に同行取材
10月21日	TV	琉球放送株式会社	難病指定 ALS 患者夫妻の沖縄旅行に同行取材
10月22・23日	雑誌	JTA 機内誌「Coralway」	沖縄美ら海水族館特集
10月24日	雑誌	ジャルパック「AneCan」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
10月24日	雑誌	中国雑誌沖縄紹介記事	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
10月25日	TV・雑誌	ベトナムのTVおよび雑誌	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
10月25日	TV	山陽放送「イブニング5時」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
10月29日	TV	東京MXテレビ「テリー伊藤の世界のタビセツ」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
10月30日	雑誌	スカイマーク機内誌「SKYMARK」	海洋博公園特集
10月30日 - 11月1日	その他	修学旅行の記録DVD	修学旅行に同行取材
10月31日	TV	テレビ東京「大人の極上ゆるり旅」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
10月31日	Web	株式会社沖縄インデックス	NR「開館10周年」への打ち返し
10月31日	新聞	日本経済新聞那覇支局	NR「10周年」、「ジンベエジェット」への打ち返し
10月31日	新聞	沖縄タイムス	NR「ジンベエジェット就航」への打ち返し
10月31日	新聞	共同通信社	NR「ジンベエジェット就航」への打ち返し
10月31日	Web	日報ビジネス	NR「ジンベエジェット就航」への打ち返し
11月1日	TV	沖縄テレビ北部通信員	NR「開館10周年」への打ち返し
11月1日	TV	NHK 沖縄放送局	NR「開館10周年」への打ち返し
11月1日	TV	琉球朝日放送北部通信員	NR「開館10周年」への打ち返し
11月1日	新聞	沖縄タイムス北部支社	NR「開館10周年」への打ち返し
11月13日	PV	東芝TV等の店頭販売促進用映像	館内撮影
11月13日	TV	NBC 長崎放送「あつぷる」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
11月14日	Web	NIKON 新製品カメラのWeb用動画	館内撮影
11月23日	新聞	沖縄タイムス南部通信員	移動水族館を取材
11月30日	書籍	書籍「ひとつぶの海」	館内で内田名誉館長らの対談の様子を撮影
12月1日	雑誌	欧米人向け雑誌「Time Out 上海版」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
12月2日	TV	台湾の釣り番組「寶島漁很大」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
12月9・10日	TV	テレビ西日本「沖縄DX弾丸ツアー」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
12月9日	PRDVD	人工透析患者向け沖縄旅行紹介DVD	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
12月10日	TV	テレビ愛知「黒ちゃんねる年末スペシャル」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
12月13日	PR資料	沖縄リゾートウエディング紹介	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
12月16日	Web	じゃらんWebムービー「色旅」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
12月18日	TV	北海道テレビ「遊びなDJサタデー」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
12月19・22日	PR資料	株式会社デイリー・インフォメーション	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
12月21日	TV	韓国テレビショッピング「現代ホームショッピング」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
12月22日	雑誌	外国人向け雑誌「att.OKINAWA」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
12月22-24日	TV	テレビ朝日「奇跡の地球物語」	水生生物への医療行為について獣医に密着取材
12月26日	新聞	韓国の新聞「中央日報」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
12月26日	TV	琉球朝日放送	韓国メディアの沖縄観光取材ツアーに同行取材
12月28日	新聞	沖縄タイムス北部支社	NR「干支水槽展示」への打ち返し
12月29日	CM	沖縄観光コンベンションビューロー韓国向け沖縄紹介CM	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
12月29日	TV	琉球朝日放送北部通信員	NR「ジンベエザメ繁殖に向けて始動」への打ち返し
12月29日	TV	沖縄テレビ北部通信員	NR「干支水槽展示」への打ち返し
12月30日	TV	琉球新報北部支社	NR「ジンベエザメ繁殖に向けて始動」、「干支水槽」への打ち返し
1月3日	TV	NHK 沖縄名護報道室	NR「干支水槽」への打ち返し
1月8日	TV	NHK 沖縄名護報道室	NR「ジンベエザメ繁殖に向け始動!」への打ち返し
1月10日	TV	G-whiz	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
1月11日	TV	テレビ朝日「奇跡の地球物語」	獣医師の仕事に密着取材
1月12日	新聞	神戸新聞社	「KOBE 夢未来号」参加者に同行取材。
1月12日	新聞	沖縄タイムス	「KOBE 夢未来号」参加者に同行取材。
1月16日	その他	沖縄県「外客接客マニュアル」	水族館事業部長へのインタビュー
1月17日	TV	フランステレビ番組「JAPAN IN MOTION」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
1月19日	TV	財団法人沖縄観光コンベンションビューロー	韓国旅行会社の視察に同行取材
1月19・21日	TV	フジテレビ「空旅をあなたへ-PREMIUM SKY-」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介

実施日	区分	媒体	目的・内容等
1月21日	雑誌	台湾の旅行社・雑誌社	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
1月23日	TV	NHK「ひるブラ」	生き物について飼育員にインタビュー
1月27日	新聞	オーストラリアの雑誌「The Sunday Telegraph」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
1月31日	TV	テレビ北海道「旅コミ北海道 じゃらん DE GO」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
2月1日	TV	沖縄県観光誘客香港キャンペーン「JP TIME TV」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
2月5日	機関誌	全トヨタ労連の会報誌「ZONE」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
2月6日	雑誌	雑誌 L+bike レディースバイク」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
2月9日	Web・冊子	海外向け HP・冊子「Okinawa brand book」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
2月13日	機関誌	ミツカン水の文化センター機関誌『水の文化』	水族館特集で紹介
2月15日	PRDVD	サザンツーリスト人工透析患者向け沖縄旅行紹介 DVD	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
2月17日	TV	北海道放送 HBC テレビ	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
2月17日	新聞	八重山毎日新聞	石垣市「ベストスタッフ教育祭」での講演会の取材
2月17日	新聞	八重山日報社	石垣市「ベストスタッフ教育祭」での講演会の取材
2月18日	雑誌	アマガのクルーズ雑誌「Cruise Travel Magazine」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
2月19日	雑誌	雑誌「サンチャイルド・ビックサイエンス 8月号」	水族館の清掃について取材
2月19日	TV	新潟総合テレビ「スマイルスタジオ NST」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
2月19日	雑誌	雑誌「新潟 Komachi」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
2月20日	素材映像	鍼灸治療院「和良楽」内リラクゼーション映像	館内撮影
2月21日	Web	オーストラリア Web サイト「yahoo7 The Sunday Telegraph」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
2月22日	TV	タイのケーブルテレビ「Green Channel TV」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
2月22日	雑誌	中国の雑誌「行楽」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
2月22日	TV	BS TBS「ストライク☆ガール」	出演者が観覧する様子を撮影
2月23日	TV	NHK「ニュース沖縄 610」	食物アレルギー児の沖縄ツアーに同行取材
2月23日	TV	RBC「The ニュース」	食物アレルギー児の沖縄ツアーに同行取材
2月23・25・26日	TV	朝日放送「土曜ワイド劇場～ハワイの語り部～」	館内撮影
2月27日	雑誌	アメリカのクルーズ雑誌「Porthole」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
2月27日	Web	沖縄観光コンベンションビューロー Web サイト「おきなわ物語」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
3月4日	TV	フジテレビ	ハレルツアー参加者に同行取材
3月5日	雑誌	タイのファッション誌	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
3月5日	雑誌	観光雑誌「るぶドライブ沖縄 14」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
3月9日	雑誌	中国のゴルフ雑誌・上海航空の機内誌	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
3月15日	新聞	沖縄タイムス	移動水族館について取材
3月15日	新聞	琉球新報社	移動水族館について取材
3月15日	PV	AKB48 の新曲プロモーションビデオ	館内撮影
3月16日	機関誌	キューサイ協会報誌「笑顔のために」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
3月16日	TV	NHK 沖縄名護報道室	NR「自然教室 沖縄の深海魚」への打ち返し
3月18日	TV	読売テレビ関西ローカル番組「かんさい情報ネット ten!」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
3月19日	TV	テレビ東京「しまじろうのわお!」	水族館の海の生き物を紹介
3月21日	TV	BS 日テレ「イチオシ!2 泊 3 日の旅」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
3月23日	新聞	株式会社岩手日報社	岩手日報「沖縄 YOU・遊塾」への同行取材
3月24日	TV	琉球朝日放送北部通信員	NR「10 周年記念講演会開催」への打ち返し
3月24日	TV	株式会社山形テレビ	山形テレビ「沖縄 YOU・遊塾」への同行取材
3月27日	TV	株式会社福島中央テレビ	福島中央テレビ「沖縄 YOU・遊塾」への同行取材
3月29日	新聞	日本経済新聞那覇支局	NR「外貨両替機を設置」への打ち返し

※ NR：ニュースリリース

## (5) 主な活動、出来事

月日	内容	場所
4月9日	カエデコケムシ展示	水族館
4月10日	オオバウチワエビ幼生搬入	水族館
4月19日	移動水族館 デイサービスとよみの杜	豊見城市
4月23日	久米島深層水輸送	久米島町
4月23日	オオメジロザメ第3世代展示	水族館
4月25日	カスリハタ卵巣部分切除手術	蓄養棟
4月28日 - 5月6日	GW 特別企画「海の危険生物展」	水族館
4月28日	ROV 採集 (コシオリエビ・カイロウドウケツ等)	恩納村沖
4月29日	リュウキュウアユ放流会	名護市
5月7日	マダライルカ輸送調査	恩納村
5月8日 - 9日	日本同部展水族館協会教育委員会	東京都
5月8日	移動水族館 デイサービスセンターたんぼぼ	読谷村
5月9日	移動水族館 老人ホーム大名	那覇市
5月10日 - 13日	神戸国際大学講演・新興真菌感染症会議	兵庫県、栃木県
5月10日	読谷定置網ナンヨウマンタ確認	読谷村
5月11日 - 12日	硫黄島鳥魚類調査	久米島町
5月15日 - 17日	血中ホルモン測定講習会	水族館
5月15日	東京都葛西臨海水族園視察対応	水族館
5月17日 - 18日	ナンヨウマンタ輸送調査	福岡県、大分県
5月18日	移動水族館 老人福祉施設ヒルズガーデン	那覇市
5月18日	日本大学博物館企画展打ち合わせ	水族館
5月19日	移動水族館 介護老人保健施設若松苑	北中城村

月日	内容	場所
5月20日 - 26日	豊潮丸乗船 (中層性生物採集)	広島県～沖縄県
5月22日 - 25日	日動水総会	旭川市
5月23日	海外青年協力協会 研修対応	財団本部棟
5月24日	サンゴ産卵ワッチ開始	水族館・蓄養棟
5月24日	ミジュン採集	生糞
5月25日	触擦対応 長岡京市立長岡第三中学校	水族館
5月28日	講師派遣 名護小学校イノー体験	名護市
5月28日	オオタルマワシ展示	水族館
5月29日	インタビュー学習 貝塚市立第五中学校	水族館
5月29日	ハタンゴ産卵ワッチ (熱帯魚の海)	水族館
5月29日	触擦対応 山梨県立盲学校高等部	水族館
5月30日	サンゴ産卵	蓄養棟
5月31日	深海漁業調査 (糸満水産業改良普及センター) 打ち合わせ	糸満市
5月31日	マチ類資源調査 (水産海洋研究センター) 打ち合わせ	水族館
5月31日	サンゴ産卵	蓄養棟
6月1日	韓国済州道視察対応	水族館
6月4日 - 10日	サンゴの幼生観察会	水族館
6月4日	名護小学校イノー探検対応 (水族館見学)	水族館
6月5日	新興真菌感染症打ち合わせ (琉球大学)	西原町
6月5日	マチ類生殖腺調査採集 (シラマンゾ)	伊江島沖
6月7日	移動水族館 国立病院機構琉球病院	金武町
6月9日 - 10日	動物分類学会	千葉県
6月9日	移動水族館 介護老人保健施設やすらぎの里	那覇市
6月11日	職場体験 ウェルススポーツ専門学校	水族館
6月12日 - 13日	職場体験 有銘中学校	水族館
6月13日	理化学研究所九楽研究員来訪対応	水族館
6月14日	サンゴ一斉産卵 (サンゴの海)	水族館
6月14日	触察対応 神戸市立盲学校高等部	水族館
6月15日 - 12日	中国珠海水族館研修生対応	水族館
6月18日	職場体験 ウェルススポーツ専門学校	水族館
6月19日 - 21日	ジンベエザメ回遊調査打ち合わせ (近畿大学)	大阪府
6月25日 -	アカボウクジラ標本 CT 撮影	水族館
6月26日 - 27日	職場体験 上本部中学校	水族館
6月26日 - 27日	マダラトビエイ輸送実験	蓄養棟
6月26日	触察対応 埼玉県立特別支援学校埼玉一学園	水族館
6月28日	移動水族館 かりまた内科指定通所介護センター	浦添市
6月29日	移動水族館 介護老人保健施設 おおごと信和苑	南城市
6月30日	移動水族館 障害者通所支援センターこみかん	浦添市
7月3日 - 4日	職場体験 松島中学校	水族館
7月4日 - 5日	職場体験 本部中学校	水族館
7月5日	石垣島より生物搬入	水族館
7月8日	ウミガメ放流会対応	海洋博公園
7月8日	バックヤード案内 鳥取県立境港総合技術高校	水族館
7月11日	ノコギリザメ X 線検査	水族館
7月21日 - 9月2日	企画展「アナタの知らないサメたち」	水族館
7月22日 - 8月1日	学芸員過程博物館実習	水族館・海洋博公園
7月23日	マダラトビエイ輸送実験	水族館
7月25日 - 26日	職場体験 中部農林高等学校	水族館
7月26日	B&G 体験セミナー講演	本部町
7月26日	移動水族館 (介護老人保健施設緑寿園)	那覇市
7月27日 - 30日	ソニーアクアリウム講演・水槽管理	東京都
7月27日 - 8月2日	飼育実習 下関水産大学校	水族館
7月27日	移動水族館 沖縄病院	浦添市
7月27日	スク (アイゴ稚魚) 展示	水族館
7月28日	移動水族館 デイサービスやえせ	八重瀬町
7月30日	ROV 採集	伊江島沖
8月2日	東京芸術大学付属中学校教育実習対応	水族館
8月3日	B&G 体験セミナー講演	本部町
8月3日	琉球新報子供新聞インタビュー対応	水族館
8月4日	インタビュー学習 海外青年協力協会 (JICA)	水族館
8月4日	美ら海体験祭り	海洋博公園
8月5日	帝京大学 長谷川教授、日本大学 加納准教授案内	水族館
8月7日	セミエビフィロゾーマ幼生発送	水族館
8月10日 - 13日	ソニーアクアリウム講演・水槽管理	東京都
8月13日 - 16日	沖縄県国南丸乗船採集	糸満沖
8月15日	移動水族館 社会福祉法人ゆうなの会	恩納村
8月16日	移動水族館 介護老人保健施設エメロードてだこ荘	浦添市
8月17日 - 19日	ソニーアクアリウム講演・水槽管理	東京都
8月17日	JTB 講演対応	財団本部棟
8月18日	B&G 体験セミナー講演	本部町
8月21日	OIST サンゴ群体系展示に関する打ち合わせ	美ら海プラザ
8月22日	移動水族館 那覇市安謝福祉複合施設	那覇市
8月23日	移動水族館 特別養護老人ホーム首里偕生園	那覇市

月日	内容	場所
8月25日 - 26日	イオンレイクタウン沖縄フェア対応	埼玉県
8月26日 - 30日	マンタデータロガー測定	水族館、生簀
8月27日	インド太平洋魚類国際会議 組織委員会	東京都
8月29日	糸満海洋研究センター打ち合わせ	糸満市
8月29日	レモンザメ出産、取り上げ作業	水族館
8月30日	ヒフキアイゴ搬入(石垣)	水族館
8月30日	オキナワクルマダイ展示	水族館
9月1日 - 3日	ソニーアクアリウム講演・水槽管理	東京都
9月1日	海洋情報パネル展解説	水族館
9月4日	韓国水産研究所研究員案内	水族館
9月5日	盛川漁協案内	水族館
9月10日 - 11日	職場体験 今帰仁中学校	水族館
9月13日 - 14日	日動水教育委員会・編集委員会	大阪府
9月14日 - 16日	日本獣医学会	岩手県
9月15日	安波ダムまつり リュウキュウアユ展示	国頭村
9月18日 - 20日	のどじま水族館ジンベエザメ移動作業	石川県
9月19日	バックヤード案内 国立沖縄青少年交流の家(スリランカ中学生)	水族館
9月20日	移動水族館 身障者福祉施設 ソフィア	糸満市
9月20日	インド太平洋魚類シンポジウム組織委員会	山口県
9月21日	移動水族館 県立中部病院	沖縄市
9月22日 - 24日	旭山動物園くらぶ講演会	北海道
9月24日 - 25日	日動水種保存委員会	東京都
9月25日	触察対応 埼玉県立盲学校	水族館、美ら海プラザ
9月28日	移動水族館 南部医療センター	南風原町
10月1日 - 10日	ウミトサカ調査(サンゴ礁生物多様性調査)	公園地先海域
10月2日 - 3日	大型ブダイ類輸送・展示	石垣市
10月3日	インタビュー学習 大阪教育大付属中学	水族館
10月3日	ナンヨウマンタ大分向け輸送	大分県
10月5日	青年海外協力協会概要説明	水族館
10月6日	ディスカバーオキナワ公園PR活動	嘉手納町
10月10日	移動水族館 介護老人保健施設 東風の里	八重瀬町
10月10日	東京学芸大学付属特別支援学校 研修旅行対応	水族館
10月11日 - 17日	飼育実習 日本大学	水族館
10月11日	移動水族館 介護老人保健施設池田苑	西原町
10月12日	移動水族館 介護老人保健施設いしかわ願寿ぬ森	うるま市
10月15日	バックヤード案内 酪農大学生	水族館
10月22日 - 23日	ジンベエザメ移動	水族館～生簀
10月23日 - 25日	図南丸乗船採集	久米島沖
10月25日 - 26日	私立雲雀丘学園中学校出張講演	兵庫県
10月25日	触察対応 北海道盲学校	水族館
11月1日 - 2月20日	沖縄美ら海水族館10周年記念パネル展	水族館
11月1日	新規生物搬入(サンゴの海、熱帯魚の海)	水族館
11月5日 - 6日	職場体験 名護高校	水族館・海洋博公園
11月5日 - 10日	ブダイ類採集・輸送作業	久米島市
11月6日 - 7日	ナンヨウマンタ ロガー実験	生簀・水族館
11月6日	ウスエイ展示	水族館
11月7日 - 9日	職場体験 本部高校	水族館・園内
11月8日	移動水族館 沖縄愛楽園	名護市
11月13日 - 14日	職場体験 北山高校	水族館
11月13日	職場見学 今帰仁小学校	水族館
11月14日 - 20日	長崎丸乗船調査採集	東シナ海
11月14日	東京学芸大付属中学学習対応	水族館
11月16日 - 22日	マダライルカ輸送	和歌山県～水族館
11月17日 - 18日	豊かな海づくり大会出展対応	糸満市
11月19日 - 20日	職場体験 羽地中学校	水族館
11月19日 - 28日	博物館実習 琉球大学・東京農業大学	水族館・海洋博公園
11月19日	神戸市立雲雀丘中学校案内対応	水族館
11月22日	バックヤード・インタビュー学習 神戸動植物環境専門学校	水族館
11月23日 - 24日	科学ヘジャンプ・イン大阪講演対応	大阪府
11月23日	移動水族館 デイサービスステーションあい愛・び～す館	糸満市
11月23日	久辺テクノフェスタ2012(GODAC)	名護市
11月24日	移動水族館 介護老人保健施設にしばる	浦添市
11月24日	インタビュー学習 横浜市間門小学校	水族館
11月26日	JICA 研修対応	水族館
11月27日 - 12月3日	飼育実習 岡山理科大学専門学校	水族館
11月28日 - 29日	体験学習 屋部中学校	水族館
11月29日	安富祖中インタビュー対応	水族館
12月1日	移動水族館 中部病院	沖縄市
12月4日 - 6日	日動水水族館技術者研究会	北海道
12月7日 - 9日	日本板鯉研究会発表	大阪府
12月8日	筑波大付属盲学校武井氏案内	水族館
12月10日 - 22日	韓国チェジュ島水族館飼育実務研修	水族館他
12月10日	移動水族館 桜山荘ダイホームさくらんぼ	豊見城市

月日	内容	場所
12月11日	移動水族館 老人ホーム天久ヒルトップ	那覇市
12月11日	山梨県立塩山高校質問対応	水族館
12月12日	移動水族館 津嘉山の杜ヒルトップカシータ	うるま市
12月13日 - 19日	飼育実習 日本大学	水族館
12月13日	キカイウツボ属 sp. X 線撮影	蓄養棟
12月14日 - 15日	ブリジストン人工尾びれ他打ち合わせ	東京都
12月14日	インタビュー学習 静岡県立清水特別支援学校	水族館
12月15日	筑波大学元教授鳥山氏案内	水族館
12月18日	日動水協学術研究部会・日動水誌編集委員会	東京都
12月18日	リュウキュウアユ人工授精	水族館
12月19日	インタビュー学習 沖縄国際大学	水族館
12月21日	日中韓大型クラゲ国際会議エクスカージョン対応	水族館
12月21日	リュウキュウアユ会議	浦添市
12月23日 - 29日	飼育実習 ヤマザキ学園大学	水族館
12月25日	ヒメダイホルモン計測等	水族館
12月25日	移動水族館 特別養護老人ホーム おきなわ長寿苑	沖縄市
12月26日	移動水族館 特別養護老人ホーム 読谷の里	読谷村
12月28日	ハシキンメ仔魚育成開始	水族館
12月29日 - 1月6日	干支水槽展示	水族館
1月1日	リュウキュウアユ孵化	水族館
1月11日	館内繁殖用ヒメダイ採集	伊江島沖
1月12日	神戸夢未来号来館対応	水族館他
1月13日 - 14日	インド太平洋魚類会議組織委員会出席	東京都
1月13日	美ら海自然教室「深海サンゴ」	美ら海プラザ
1月15日	移動水族館 特別養護老人ホーム楽寿園	うるま市
1月15日	触察対応 筑波大学附属視覚特別支援学校	水族館
1月16日	移動水族館 介護老人福祉施設琉和の森	沖縄市
1月23日	外来生物展示コーナー設置	水族館
1月24日	岐阜アクアトヘオニボラ輸送	水族館
1月27日 - 28日	動物園水族館教育研究会・シンポジウム出席	愛知県
1月28日	マダライルカ体重測定	蓄養棟
1月31日	バックヤード案内 沖縄県立沖縄水産高等学校	水族館
2月2日	高円宮妃水族館視察対応	水族館
2月8日	漢那小学校キャリア教育研修対応	水族館
2月9日	日動水協 動水誌編集委員会・古賀賞選定委員会	東京都
2月10日 - 11日	ザトウクジラ・マンボウ探索調査	慶良間海域
2月10日	長崎ペンギン水族館シャコガイ輸送	水族館
2月12日 - 15日	世界ラン展水槽設置	東京都
2月16日 - 17日	国頭産業まつり対応	国頭村
2月17日 - 23日	飼育実習 立正大学	水族館
2月17日	沖教組・教育祭 講演会対応	石垣市
2月17日	ザトウクジラ・マンボウ探索調査	本部沖
2月18日	魚類稚仔魚育成餌料についての打合せ(水産研究所)	石垣市
2月24日	美ら海自然教室「サメの秘密を探る」	美ら海プラザ
2月25日 - 3月3日	飼育実習 宮崎大学	水族館
2月26日	鶴岡市立加茂水族館村上館長案内	水族館
2月27日	オオメジロザメ淡水実験	蓄養棟
2月28日 - 3月1日	マンボウ調査	座間味沖
3月3日	美ら海自然教室「コエダミドリイシの戸籍を探る」	美ら海プラザ
3月4日 - 7日	ウミショウブ採集(西表島)	竹富町
3月4日 - 10日	ウミトサカ調査	財団総合研究センター
3月4日 - 10日	飼育実習 宮崎大学	水族館
3月5日	太地町立くじらの博物館 飼育係研修対応	水族館
3月5日	太地漁港 いさな組合 案内	水族館
3月7日	葛西臨海水族園 案内	水族館
3月10日	概要説明 全国青少年の家	水族館
3月11日 - 15日	高知県御置瀬底曳き採集調査	高知県
3月11日 - 17日	飼育実習 宮崎大学	水族館
3月12日	夜間釣り採集	本部沖
3月15日	移動水族館 はえばる日の出園デイサービスセンター	南風原町
3月15日	バックヤード案内 シモゾノ学園	水族館
3月16日	移動水族館実施 デイサービスみかん	宜野湾市
3月16日	美ら海自然教室対応	美ら海プラザ
3月17日	バックヤード案内 シモゾノ学園	水族館
3月18日 - 24日	飼育実習 福岡コミュニケーション専門学校	水族館
3月19日	レモンザメ(メス)2尾展示	水族館
3月24日 - 30日	飼育実習(東海大学)1名対応	水族館
3月24日 - 4月7日	復興支援パネル展	美ら海プラザ
3月24日	10周年記念講演会	水族館イベントホール

(6) 主な長期飼育動物・繁殖動物

【主な長期飼育動物】

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

種名	性別	推定年齢	飼育年数	搬入年月日
トゲスギミドリイシ	不明	不明	17 年 6 ヶ月	1995. 9. 搬入
フカトゲキクメイシ	不明	不明	23 年 5 ヶ月	1989.10. 搬入
オオテンジクザメ	♂	不明	24 年	1989. 4. 10 搬入
トラフザメ	♂	21	21 年 6 ヶ月	1991. 9. 23 ふ化
ジンベエザメ	♂	不明	18 年	1995. 3. 13 搬入
オオメジロザメ	♂	不明	34 年 9 ヶ月	1978. 6. 21 搬入
ネムリブカ	♂	30	30 年 8 ヶ月	1982. 8. 3 出産
ナンヨウマンタ	♂	不明	20 年 10 ヶ月	1992. 5. 25 搬入

【繁殖動物】

完全哺育：6 ヶ月以上生存

種名	繁殖個体数	完全哺育数	種名	繁殖個体数	完全哺育数
ヒョウモンオトメエイ	7	3	ウスエダミドリイシ	*317	*208
マツカサウオ	約 600	8	コエダミドリイシ	*235	*56

\*サンゴ類については群体数

(7) 学会発表、講演等

【学会発表等】

日本動物分類学会（千葉）6 月 9 - 10 日

岸上が残した日本産サンゴ科（八放サンゴ亜綱：ウミトサカ目）標本による 3 種のネオタイプ指定と 2 未記載種の報告《口頭》。○野中正法、Katherine Muzik（Bishop Museum）、岩崎望（立正大学）。

東京都八丈島で採集された日本初記録種を含むツノサンゴ目の標本について《口頭》。○高岡博子・奥野淳兒（千葉県立中央博物館分館海の博物館）。

日本水産学会秋季大会（山口）9 月 14 - 17 日

軟骨魚類の鰓のミトコンドリアリッチ細胞とイオン調節機能《口頭》。○高部宗一郎、若林翠、渡邊太朗（東大大海研）、松本葉介、松本瑠偉、植田啓一、村雲清美、兵藤晋（東大大海研）。

日本魚類学会（山口）9 月 22 - 23 日

沖縄美ら海水族館で飼育されているオスのジンベエザメの成熟過程《口頭》。○松本瑠偉、鶴野淳企、青木一樹、朝比奈潔（日大生物資源）、松本葉介、植田啓一、佐藤圭一。

日本動物園水族館協会・水族館技術者研究会（北海道）12 月 5 - 6 日

深海性フエダイの一種ヒメダイの人工授精と初期発生《口頭》。○高岡博子、躍場秀兵、村雲清美、中村將。

ジンベエザメの飼育下繁殖に向けた取り組み（話題提供）《口頭》。○仲松由美子、松本瑠偉、朝比奈潔（日本大学生物資源科学部）、松本葉介、植田啓一、佐藤圭一。

日本板鰓類研究会シンポジウム（大阪）12 月 8 日

オオメジロザメはなぜ淡水にも適応できるのか《口頭》。○若林翠、高部宗一郎、渡邊太郎、角村佳吾（東大大海研）、植田啓一、松本葉介、松本瑠偉、村雲清美、中村將、兵藤晋（東大大海研）。

トラフザメの初期発生《口頭》。○古山莉奈・松本瑠偉・村雲清美・佐藤圭一。

超音波画像によるナンヨウマンタ胎仔の観察《口頭》。○村雲清美・植田啓一。

オオメジロザメ *Carcharhinus leucas* の成熟卵巣の組織学的特性 —硬骨魚の卵巣との比較—  
《口頭》. ○中村將、松本瑠偉、植田啓一、佐藤圭一、兵藤晋（東大大海研）.  
板鰐類研究における卓上型次世代シーケンサー（GS junior）の導入例《ポスター》. ○渡邊太朗、高部宗一郎、高木互、若林翠（東大大海研）、植田啓一、松本葉介、松本瑠偉、村雲清美、田中宏典（大洗水族館）、角村圭吾、長谷川久美、伊藤愛（東大大海研）、中村將（琉大）、兵藤晋（東大大海研）.

#### 日本水産学会春季大会（東京）3月26 - 30日

オオメジロザメが淡水環境に適応するための仕組み《口頭》. ○若林翠、高部宗一郎、渡邊太朗、角村圭吾（東大大海研）、植田啓一、松本葉介、松本瑠偉、村雲清美、中村將、兵藤晋（東大大海研）.

日本近海におけるジンベエザメ回遊調査《ポスター》. ○松本葉介、松本瑠偉、植田啓一.

#### 【講師派遣】

##### 名護小学校総合学習（名護市）5月28日

イノーにすむ生物について. 伊芸元.

##### B&G 財団（本部町）

今日からプチ飼育員 ～サンゴ編～. 金谷悠作. 7月26日

水族館のベビーシッター. 躍場秀兵. 7月31日

サンゴってなあに?. 若井万里子. 8月3日

サメの不思議. 野村有司. 8月8日

サンゴ礁の魚たちのふ・し・ぎ. 竹本淳史. 8月18日

##### 親子講演会「45<sup>th</sup> Sony Aquarium」（東京）

ジンベエザメ・マンタの秘密を探る!. 仲松由美子. 7月21・22日

サンゴは植物それとも動物?. 若井万里子. 7月28・29日

えびかにじゃんけんじゃんけんチョキ!. 東地拓生. 8月4・5日

イカ・タコ・貝のふしぎな世界. 伊芸元. 8月11・12日

食べる! 食べられる? ～サンゴ礁に暮らす生き物たちの食物連鎖～. 当真英之. 8月25・26日

##### 名桜大学 教育部 教育プログラム支援準備室（名護市）8月23日

水族館飼育係の仕事について. 伊芸元.

##### 旭山動物園くらぶ（北海道旭川市）9月23日

沖縄の自然とその恵み. 宮原和弘

沖縄のサンゴとサンゴ礁. 野中正法.

##### 私立雲雀丘学園中学校・高等学校（兵庫）10月26日

沖縄の海、サンゴ礁から深海へ広がる海の多様性. 佐藤圭一.

##### 大阪府立視覚支援学校（大阪）11月23日

視覚による観察や触察を中心としたワークショップ. 横山季代子.

##### 科学ヘジャンプ in 大阪 2012（大阪）11月24日

サメのヒミツ. 横山季代子.

##### ペスタロッチ教育祭（石垣市）2月17日

美ら海水族館の活動について. 野中正法.

#### 【原著論文等】

Osawa, M., and T. Higashiji. 2012. A new species of *Galathea* Fabricius, 1793 (Crustacea: Decapoda: Anomura: Galatheididae) from Okinawa, southern Japan. *Zootaxa*, 3264: 53-60.

Nonaka, M., K. Muzik, and N. Iwasaki. 2012. Descriptions of two new species and designation of three neotypes of Japanese Coralliidae collected by Kishinouye, introducing a statistical approach. *Zootaxa*, 3428: 1-67.

- Nonaka, M., M. Nakamura, M. Tsukahara, and J. D. Reimer. 2012. Histological examination of precious corals from the Ryukyu Archipelago. *Journal of Marine Biology*, 2012(519091): 1-14.
- Nonaka, M. and K. Muzik. 2012. Remarkable early studies of Japanese precious corals. *Proceedings of an International Precious Coral Forum 2012 in Kochi, 9 Mar. 2012*: 46-69.
- Nonaka, M. and K. Muzik. 2012. Systematic studies of the Indo-Pacific Corallidae. *Proceedings of an International Precious Coral Forum 2012 in Kochi, 9 Mar. 2012*: 70-84.
- Sawamoto, S. and R. Matsumoto. 2012. Stomach contents of a megamouth shark *Megachasma pelagios* from the Kuroshio Extension: evidence for feeding on a euphausiid swarm. *Plankton Benthos Res.*, 7(4): 203-206.
- Tomita, T., M. Toda, K. Ueda, S. Uchida and K. Nakaya. 2012. Live-bearing manta ray: How the embryo acquires oxygen without placenta and umbilical cord. *Bio. Lett.*, 8: 721-724.



## IV 業務報告

### (1) 調査研究活動

---

---

#### 造礁サンゴ増養殖技術の開発

---

---

##### 目的

沖縄美ら海水族館で展示するサンゴを確保するため、有性生殖及び無性生殖によるサンゴの増養殖技術を開発する。

##### 方法

###### (1) 無性生殖による増養殖

7科13属26種のサンゴ100群体を、ペンチ・カッター・ハサミを用いて小片を切り取り、株分けを行った。また、これまで株分けで増やした群体を、光量の調節や付着生物の除去などに注意して飼育を行った。

###### (2) 有性生殖による増養殖

飼育しているウスエダミドリイシとコエダミドリイシから得られた卵と精子を交配・定着させ、稚サンゴの育成を行った。

##### 結果

###### (1) 無性生殖による増養殖

- 株分けによる無性生殖サンゴ増養殖を試み、飼育中7科13属26種のサンゴ100群体を451群体に増やすことに成功した。うち、25群体は「サンゴの海」水槽で展示中である。

###### (2) 有性生殖による増養殖

- 5月24日 - 6月17日まで産卵観察を行い、大規模な放卵放精は6月13 - 17日まで（満月は6月20日）、21:00 - 22:30に観察された。
- 平成22年度に定着させたウスエダミドリイシの繁殖群体が初めて産卵を行った。
- 採卵トラップの改良を行い、朝まで配偶子をとどめることには成功したが、採卵部である標本ビンにうまく配偶子が集まらなかった。
- これまで行っていた0.2 $\mu$ mのフィルターによる海水濾過を省略したが、飼育には影響がないことが分かった。
- 流水水槽による幼生飼育は、腐敗した卵や、水面の油膜を効率的に除去することで可能なことがわかった。これにより、受精卵からプラヌラ幼生の定着およびその後の初期ポリプの飼育までを一つの水槽で行うことが可能となった。

##### 今後の予定

- 採卵トラップの改良。
- 流水による幼生の育成は、その時々により生残数に変動があるため、安定して幼生まで育成出来る技術を開発する。
- 株分けにより増養殖したサンゴを大きく育て、造礁サンゴの展示の充実を図る。
- 陸上蓄養施設屋上での飼育時と同じ色を維持し、展示できるように環境を整える。

---

---

## ジンベエザメの回遊調査

---

---

### 目的

ジンベエザメは世界の熱帯から温帯海域に広く生息し回遊することが知られているが、回遊ルート等はほとんど解明されていない。ポップアップタグを用い様々な生態情報を取得し、繁殖を目指す当館において飼育上重要な基礎データの収集を行うことを目的とする。また、得られた情報を公開することで個体数の減少が危惧されている中、保護活動等にも寄与することが可能であると考えられる。

### 方法

2010年5月から2011年12月にかけて沖縄県読谷村（3個体）、長崎県上五島町（1個体）および千葉県館山市（1個体）の定置網に入網した本種合計5個体（全長約3.7 - 7.6m、全個体オス）にポップアップタグ（Wildlife Computer社製MK-10PAT）を装着し、放流した。

### 結果

調査の結果、5個体中4個体から回遊に関するデータを得ることができた。沖縄県読谷村沖より放流した2個体は、高知県南方沖（放流15日後）およびルソン島西方沖（92日後）にそれぞれ達した。また、長崎県上五島町沖放流個体はパラオ北方沖（186日後）、千葉県波左間沖個体はグアム島東方沖（91日後）に達した。高知沖とグアム沖到達個体は、調査期間中毎日の位置情報を得ることができた。高知沖到達個体は直線距離で1日の移動距離が平均67.8km（最小25.8 - 最大123.1km）、平均時速2.8km（1.1 - 5.1km）であり、総移動距離880.9kmであった。グアム沖到達個体では、平均移動距離41.9km（4.3 - 101.2km）、平均時速1.7km（0.2 - 4.2km）、総移動距離3725.5kmであった。日周鉛直行動は、いずれの個体も1日の約5割以上を水深10m以浅で過ごすのが200m以上の深海へも潜水し、本調査4個体の最大潜水深度は496（水温10.3℃） - 1,816m（2.0℃）であった。高知沖個体では、10分毎の潜水深度データを取得し、日中と比較して夜間は、広い水深帯を利用する傾向が明らかとなった（U-test、 $p < 0.05$ ）。深海への潜水は日中が多く、1回あたりの潜水時間は約10分以内から最大約2.5時間で、水温は4.1 - 20.8℃であった。

既知の報告にあるオーストラリア西岸およびインド洋西岸海域での調査個体においては、水深10 - 15m以浅で40 - 60%を過ごすことが報告されており、本調査もほぼ同様の結果となった。しかし、既報告では深潜水を昼間と比べ夜間に行うことが報告されているのに対し、本調査では昼間に深潜水を多く行う傾向が認められた。また、本調査個体が日本近海より東南アジア周辺海域に達したことは、北西太平洋の熱帯・温帯海域に出現する本種がこれらの海域を広範囲に回遊する可能性も示唆される。

### 今後の予定

今後も調査対象個体を増やし、さらなる確信的な情報を得るために継続した調査が必要である。また、現時点では本種が既知の報告以上に深く潜水遊泳していることが明らかとなったが、何故そこまで深く潜るのかは未知のままである。今後はポップアップタグからの情報に加え、ジンベエザメに水中カメラを取り付け潜行時の様子をモニタリングすることも視野に入れ、調

査を進めていく予定である。これらの方法で今後得られた情報に関しても、学会等で公開していくとともに、来館者へジンベエザメの生態に関して情報提供していく予定である。

---

---

## ジンベエザメの生理学的調査

---

---

### 目的

ジンベエザメの槽内繁殖をめざし、未成熟個体と成熟個体の血液中のホルモン値を測定し分析する。また雄の交接器の形態学的分析も併せて行う。

### 方法

2008年4月より2013年4月まで、雄3個体に関しては毎月1回、未成熟の雌個体に関しては3ヶ月毎に1回採血を実施し、サンプルの採取を行った。採材した血液サンプルは日本大学生物資源科学部生物資源科学科水族生理学教室に血中ステロイドホルモン濃度（テストステロン、プロゲステロンおよびエストラジオール-17 $\beta$ ）の分析、解析を依頼した。また、黒潮水槽飼育の雄1個体（No.14）においては、交接器の伸長度合いを2005年10月から2010年10月までを毎年1回、2011年8月から現在までは毎月写真計測し、その変化を追跡調査している。

### 結果

成熟サイズの推定を目的とし、飼育ジンベエザメの血中ステロイドホルモン濃度を測定した。2008年4月から2013年4月まで飼育個体、雄6個体雌4個体（死亡個体を含む）より採取した血清サンプルをエーテル抽出し、血中ステロイドホルモン濃度を時間分解蛍光測定機で測定した。比較的大型の個体（全長6.2 - 8.5m）の雄では血中テストステロン及びプロゲステロン、雌では血中エストラジオール-17 $\beta$ が、水温と関連した変動をしており高水温時に高い濃度が測定される傾向にあった。これに対して小型の個体（全長4.0 - 5.1m）では水温との相関は確認されなかった。またNo.14（雄、全長8.5m）においては、2011年7月以降、交接器の急伸長に伴い、血中テストステロン濃度が水温変動との相関なく上昇し、伸長が止まった後も、高い数値を維持していることが明らかとなった。

### 今後の予定

- ・ 飼育ジンベエザメの定期採血を継続し、個体毎のデータの収集を行う。また野生ジンベエザメの血液データの収集を行い比較検討する。
- ・ 鎮静薬および麻酔薬を使用した維持麻酔技術を習得し、安全な輸送技術を確立する。
- ・ 交接器を始めとする外部形態の変化と血液データの関連性を解析する。
- ・ 雄個体No.14に関して、成熟に伴う交接器形態および血中テストステロン濃度変化を学術的に報告する。
- ・ 3年間で回収した4個体分のデータを取りまとめ、学会等で報告する。

---

---

## 白点病等疾病の予防と治療技術の開発

---

---

### 目的

海水性硬骨魚を飼育する際の疾病として、白点病は重大な被害を及ぼす寄生虫症の1つに挙げられる。その治療法は化学薬品による薬浴が主な治療法として確立されているが、無脊椎生物を混棲させている水槽ではその生物に影響を与えるため使用できず、無投薬による治療法が皆無に等しい。そこで白点病の原因虫である繊毛虫のライフサイクルを利用して、無投薬による白点病の予防と治療技術の開発を目的とする。

### 方法

サンゴ礁域に生息する硬骨魚類を蓄養する予備水槽において、白点病に疾患したライフサイクルの1つである被嚢体（シスト）が水底に集まる生理現象を利用してシスト数を把握する。次に、このライフサイクルには概日リズムが存在するか確認し、存在する場合は、その時間帯の特定を行う。この数値化したデータを基準に白点病の無投薬治療の効果を確認する。

### 結果

熱帯魚の海水槽内での白点病の発症の把握を行うため、客観的指標として白点虫の被嚢体（シスト）の数に測定する器材の開発を行い基本的データの収集を行った。またそれにより得られた情報をもとに、薬剤投与を行わず物理的現象を利用した微細エアによる白点病の予防技術のモニタリングを実施中である。

### 今後の予定

白点病のライフサイクルを利用した予防法の確立のためにはまだ実測データが少ない為、今後もモニタリングを継続して行くことにより、さらなる白点病予防の精度が上がると思われる。また、消耗品である白点虫シスト捕獲シャーレは手作りの為、作業効率とより均一な器材として製品化の検討も視野にいれたい。

---

---

## 板鰓類等大型魚類の鎮静剤による治療及び輸送

---

---

### 目的

大型の魚類である板鰓類の治療や輸送を行う際に、対象動物と作業を行う人の安全を目的とした鎮静処置を実施した。

### 方法

大型板鰓類の一種であるジンベエザメとナンヨウマンタ、及び危険ザメであるオオメジロザメとレモンザメに対して鎮静剤のミダゾラムを適量投与した。また魚類の開腹手術の検討としてカスリハタを用いて術式の検討を行った。

### 結果

ジンベエザメについては、平成24年9月20日に石川県立のとじま水族館で飼育中のジンベエザメ4.8mと平成24年10月22日に当館飼育の7.6mの個体に対して、ミダゾラム筋肉注射

にて鎮静を行い水槽より搬出した。

ナンヨウマンタについては、平成 24 年 10 月 3 日にシーパック輸送実験を実施、那覇空港から福岡空港を経て、大分マリーンパレスうみたまごまでの輸送期間中にミダゾラム筋肉注射を実施した。

オオメジロザメについては、平成 24 年 4 月 11 日にミダゾラム筋肉内注射を用いて鎮静を行い、危険ザメ水槽から陸上蓄養槽に移動した。

ツマグロについては、平成 24 年 8 月 14 日と 8 月 18 日にミダゾラム筋肉内注射を用いて鎮静を行い、熱帯魚水槽から陸上蓄養槽に移動した。

レモンザメについては、平成 25 年 3 月 18 日にミダゾラム筋肉内注射を用いて鎮静を行い、危険ザメ水槽から陸上蓄養槽、3 月 19 日に生け簀から陸上蓄養槽に移動した。

カスリハタにおいて、酪農学園大学泉澤教授を招聘し、平成 24 年 5 月 25 日に開腹手術を実施し、手術術式、器具選定を行った。

#### 今後の予定

板鰐類の沈静については、引き続き鎮静薬の投与量の調査を行う。

---

---

## リュウキュウアユ種苗生産と放流

---

---

#### 目的

沖縄本島のリュウキュウアユは、1980 年頃絶滅した。沖縄美ら海水族館では地域貢献事業と展示生物の確保の一環として、平成 20 年度よりリュウキュウアユの人工繁殖、種苗の放流及び展示を行った。

#### 方法

沖縄県福地ダムより親魚用のリュウキュウアユを採集し、乾導法により人工授精させ繁殖させた。受精卵は、合成樹脂性マットに付着させ、16℃の水槽で管理すると、ほぼ 2 週間で孵化した。孵化直後より海水を加え、5%とし、徐々に海水を追加して 10%で仔魚の飼育を行った。初期餌料としてシオミズツボワムシを与え、成長に応じて、アルテミア幼生・配合餌料を追加した。孵化後 90 日頃より淡水に馴致し、孵化後 100 日程で沖縄県北部の河川に放流した。

#### 結果

これまで人工繁殖させたリュウキュウアユ約 7,200 尾を放流した。平成 24 年には源河川で放流したリュウキュウアユが成長し、河川での産卵が確認された。平成 25 年 3 月には、稚魚の遡上も確認されている。種苗のうち一部は水族館内で飼育し展示中である。

#### 今後の予定

河川内での産卵と稚魚の遡上が確認されたため、モニタリングに移行するなど今後の方向性を協議する必要がある。

---

---

## 深海性フエダイ類（マチ類）繁殖技術開発

---

---

### 目的

深海性フエダイ類である「マチ類」の資源回復を目指すとともに、深海魚の繁殖への取り組みや、得られた仔稚魚についての展示をすることで、沖縄県の重要な水産資源をアピールする。

### 方法

当館では 2002 年の開館当初より、マチ類の資源回復に向けて、調査と長期飼育を続けてきた。今年度より、人工繁殖に関する基礎的なデータの蓄積を図ると共に、人工授精の技術向上と今後の応用について検討する。

### 結果

平成 24 年 8 月にヒメダイの乾導法による人工授精に初めて成功し、卵と仔魚に関する新知見を得ることができた。その結果を平成 24 年 12 月に第 57 回水族館技術者研究会で発表した。

### 今後の予定

来年度もヒメダイの人工繁殖技術の向上を目指す。また、得られた稚魚を展示し、沖縄県の水産資源をアピールするとともに、来館者の増加を図る。

改めて、マチ類の資源回復に向けて、沖縄県との研究協力について検討していく予定である。



初めて得られたヒメダイの仔魚



ヒメダイの人工授精作業

---

---

## 黒潮水槽における小型鯨類導入

---

---

### 目的

沖合生態系の再現を展示コンセプトとする黒潮槽では、ジンベエザメ、マグロ類等外洋性魚類を中心に展示構成を行っており、マグロ類等群れの展示やマンボウ類を新規展示生物として位置づけ、様々な取り組みを実施してきた。今後は、さらなる沖合生態系の再現を目指し、本生態系の重要な位置を占める鯨類の導入を検討し着手した。

### 方法

導入する鯨類は、鯨類の中でも小型種であり、黒潮槽内の同居魚への影響を最小限にすること、沖縄周辺に生息するマダライルカ（成獣の体長：1.5 - 2.5m）とした。本種は、和歌山県太地町立くじらの博物館でしか飼育されていないため、同博物館の協力を得て、飼育歴 4 年の雄

個体 1 頭、飼育歴 1 年の雌個体 2 頭の輸送、搬入を行った。以下に導入までの実施事項を記す。

## 結果

### (1) 和歌山県太地町における現地調査

平成 24 年 9 月 30 日 - 10 月 7 日 (9 日間)、和歌山県太地町立くじらの博物館へマダライルカ雌 2 頭、雄 1 頭の飼育状況及び雌 2 頭の移動後の摂餌状況について現地調査を行った。

### (2) 輸送ルートに関する調査

平成 24 年 6 月 7 日から 9 日にかけて、和歌山駅から太地町までの輸送ルートについてレンタカーを使用して調査を行った。

### (3) 輸送の実施に関する報告

平成 24 年 11 月 10 日：輸送資材の発送。

11 月 15 日：和歌山県太地町立くじらの博物館へ輸送資材着。

11 月 18 日：実施先発職員 (4 名) 太地町立くじらの博物館着。

11 月 19 日：実施後発職員 (4 名) 太地町立くじらの博物館着。

11 月 20 日：輸送トラックにて 3 頭輸送。大阪南港着後輸送トラックごとフェリーへ乗船。  
フェリー内では 10t マリントankへ移動。

11 月 21 日：船内ワッチ。

11 月 22 日：安謝港着。10t マリントankから 3 頭ともに輸送トラックへ移動。安謝港から輸送トラック美ら海水族館へ。蓄養槽 CO - 1 へ搬入。

### (4) 健康管理

血液検査、体重測定を 1 回/月で実施し、体調及び適正給餌量の把握に努めた。

### (5) 展示に向けた訓練

展示に向けた訓練として、採血や検温といった健康管理上必要な訓練と展示水槽と収容ゲージを行き来するゲート通過訓練を実施した。また、展示水槽を想定して、その他展示魚類との混合飼育訓練を実施した。結果は良好であった。

## 今後の予定

蓄養槽 CO - 1 で本種の受診訓練種目等を完成させ良好な状態で飼育をすると共に、魚類との同居飼育訓練が一定の目処がつき次第、黒潮水槽への展示を目指す。

---

---

## ナンヨウマンタの出産

---

---

### 目的

トビエイ目トビエイ科オニイトマキエイ属に属するナンヨウマンタ *Manta alfredi* は、世界の熱帯から温帯周辺海域に生息する。本種は成長すると体盤幅が 4 - 5m になる、大型種である。しかし、本種の生態学的情報は非常に少なく、これらを解明することは今後の保護・管理計画を策定するにあたって大変重要な情報となる。

### 方法・結果

個体番号 No.10 を水上エコー検査(給餌の際、水面に浮上してきた母体の背面から診る方法)

により本年も妊娠（通算 6 回目）していることを確認した。以後出産まで母体と胎仔の健康管理を目的に月一回のペースで検査を行った。しかし、血液検査は、本個体が人との接触を拒み、困難な状況であったため一度も実施できなかった。

平成 24 年 5 月 13 日（妊娠から 323 日目）の早朝、第六仔となる胎仔が黒潮水槽底で着底した状態で発見された。直ちに取り上げたが、すでに呼吸がなく、エコーで心臓の動きがないことを確認した。結果から、死産の状態であったことが考えられた。

死産個体は体盤幅 196cm、体重 49kg の雄、出産予定日は平成 24 年 6 月 24 日で、予定日より 42 日早い出産であった。

#### 今後の予定

母体の定期的な採血が困難であるため、エコー検査を強化する。胎仔が大きくなると、水上エコー検査だけでは体の一部しか確認できず、安否が確定的ではない。新たに、水中エコー検査（水中で母体と並走しながら、あらゆる角度から診る方法）で胎仔の成長と呼吸動作の確認を定期的実施する。



水中エコー（腹面）



水中エコー（背面）

---

---

## 日本動物分類学会

---

---

#### 期間および場所

平成 24 年 6 月 9 - 10 日 東邦大学（千葉県船橋市）

#### 要旨

##### 岸上に残した日本産サンゴ科（八放サンゴ亜綱：ウミトサカ目）標本による 3 種のネオタイプ指定と 2 未記載種の報告

○野中正法、Katherine Muzik (Bishop Museum)、岩崎望 (立正大学)

サンゴ科 *Coralliidae* のサンゴは一般に「宝石サンゴ」として知られ、その堅固な骨軸は装飾品等として紀元前から利用されてきた。日本産のサンゴ科サンゴは 7 種が知られ、モモイロサンゴ *Corallium elatius* は Ridley(1882)により、その他 6 種も岸上(岸上 1902、Kishinouye 1903、岸上 1904)により、すべて 100 年以上前に記載されたものである。彼らはホロタイプを指定しておらず、その分類学的再検討に支障をきたしていた。

著者らは、米国スミソニアン博物館に、岸上を送った 4 種 7 点の標本が保存されていることを知り、これらの標本を取り寄せ再検討を行った。



その結果、アカサンゴ *Paracorallium japonicum*、ダメサンゴ *P. inutile*、シロサンゴ *C. konojoi* のラベルのついた 4 点の標本は、記載に使われた標本ではなかったが、その特徴は記載と良く合致していた。よって、国際動物命名規約に基づき、これら 4 点のうち 3 点を各種のネオタイプとして指定した。

一方、残りの 3 点にはモモイロサンゴのラベルが付いていたが、そのうちの 1 点のみが Ridley の記載に比較的近い特徴を持っていた。残る 2 点については、外部形態や色彩およびポリプの配列様式などが既知種と異なるため、未記載種と判断した。

本研究により、上記 3 種については同定の基準が定まったが、未だ標本の無いボウシュウサンゴ *C. boshuense*、ミゾサンゴ *C. sulcatum*、コサンゴ *C. pusillum* については、タイプ産地の調査を行う必要がある。また、モモイロサンゴについては、ネオタイプ指定条件に見合った標本を入手し、同定基準を確定させていきたい。

### 東京都八丈島で採集された日本初記録種を含むツノサンゴ目の標本について

○高岡博子・奥野淳兒（千葉県立中央博物館分館海の博物館）

ツノサンゴ目は刺胞動物門花虫綱に属し、熱帯・亜熱帯を中心に、浅海から深海まで幅広く分布し、現在 7 科 40 属 235 種が確認されている。ツノサンゴ目は野外観察での同定が非常に難しく、種内変異が多くみられるため、分類学上未だに混乱している。日本産ツノサンゴ目の研究は、Brook(1889)によって初めて報告され、その後 Silberfeld (1909)等により記載が進められたが、近年はほとんど調査がなされていない。また、報告がある海域も相模湾周辺が多く、今後他の海域での調査が望まれている。

本研究では、1999 年 8 月に東京都八丈島水深約 40m 付近で採集されたツノサンゴ目 3 群体 (A - C) について、分類学的検討を行った。

群体 A は、枝の密度や長さ、配列、骨軸表面の微細な棘の長さ、群体基部の棘の形状などから、Opresko (2001)が創設した Myriopathidae 科に属する *Myriopathes stechowi* (Pax, 1932) と同定した。本種は、タイプ産地が相模湾で、イバラウミカラマツの標準和名が付けられ普通種とされているが、原記載以降、標本に基づいた詳細な分類学的検討はなされていなかった。

群体 B は、洗瓶ブラシ状の群体形、枝の配列、棘の形状から、Myriopathidae 科に属する *Cupressopathes abies* (Linnaeus, 1758) と同定した。この種は Doflein によって相模湾で採集された標本に基づき、Silberfeld (1909)が報告しているため、本研究が国内 2 例目となる。

群体 C は、ポリプの直径、骨軸の棘の配列（輪状）などの特徴から、Aphanipathidae 科の *Aphanipathes verticillata* (Brook, 1889) と同定した。本種は、チャレンジャー号航海調査における、インド洋（モーリシャス）から報告(Brook 1889)があるのみであり、原記載以来 2 例目の標本となる。

長年、日本産ツノサンゴ目はウミカラマツ科などを含む 3 科とされていたが、本研究により少なくとも 5 科存在することが明らかとなった。これは、*M. stechowi* や *C. abies* のように、従来 Antipathidae 科に含まれていた日本産の数種が他科に移行しているためである。今後、最新の分類体系をふまえて整理を進めることにより、日本産ツノサンゴ目の科が増える可能性も示唆された。

---

---

## 日本水産学会秋季大会

---

---

### 期間および場所

平成 24 年 9 月 14 - 17 日 水産大学校（山口県下関市）

### 要旨

#### 軟骨魚類の鰓のミトコンドリアリッチ細胞とイオン調節機能

○高部宗一郎、若林翠、渡邊太朗（東大大海研）、松本葉介、松本瑠偉、植田啓一、村雲清美、兵藤晋（東大大海研）

【背景・目的】真骨魚類では、鰓は呼吸だけでなくイオン・浸透圧調節の場としても重要であり、鰓弁に存在する mitochondria-rich cell (MR cell) がその主要な役割を担っている。軟骨魚類の鰓にも真骨魚類の MR cell に類似した細胞が存在するが、その機能は酸・塩基調節と考えられている。本研究では、軟骨魚類においても鰓が重要なイオン調節の場ではないかと考え、分子形態学的アプローチから MR cell に発現するイオン輸送体を同定し、海水と淡水（あるいは希釈海水）環境での発現変化を調べた。

【方法】実験には狭塩性種のドチザメ (*Triakis scyllium*) と広塩性種のオオメジロザメ (*Carcharhinus leucas*) を用いた。パラフィン切片を作成し、in situ hybridization によってイオン調節に関わる輸送体の遺伝子発現を調べ、MR cell の同定を行った。各イオン輸送体の発現量変化は定量 PCR により調べた。

【結果】これまでに軟骨魚類の MR cell に存在すると報告されているイオン輸送体に加えて、 $\text{Na}^+$ ,  $\text{Cl}^-$  cotransporter (NCC) と  $\text{Cl}^-$  channel-3 をドチザメの MR cell で同定した。これらは V-ATPase ならびに Pendrin と共存し、NCC の発現はドチザメを低塩分環境に移行させることで顕著に上昇した。NCC が V-ATPase と Pendrin とともに存在することはオオメジロザメ鰓の MR cell でも確認し、やはり淡水環境下で NCC の発現量が有意に上昇した。以上の結果は、軟骨魚類の鰓もイオン調節に重要な役割を果たし、NCC が NaCl 取り込みの鍵となるイオン輸送体であることを示唆している。次世代シーケンサーを用いたオオメジロザメ鰓の網羅的解析結果についても併せて報告する。

---

---

## 日本魚類学会

---

---

### 期間および場所

平成 24 年 9 月 22 - 23 日 水産大学校（山口県下関市）

### 要旨

#### 沖縄美ら海水族館で飼育されているオスのジンベエザメの成熟過程

○松本瑠偉、鶴野淳企、青木一樹、朝比奈潔（日大生物資源）、松本葉介、植田啓一、佐藤圭一  
ジンベエザメの同一個体成熟課程を継続的に調査した報告は、これまで世界的に皆無である。そこで飼育個体 No.14 において、2005 年から板鰓類の成熟指標となるクラスパーの伸長、および 2008 年から雄性ステロイドホルモンの測定を継続的に行っている。その結果、全長 8.5m にまで成長した本個体は、2011 年 8 月から 2012 年 7 月までの 11 ヶ月間でクラスパーが急速に

伸長し、その形態も著しく変化した。さらに血中テストステロン濃度においても、クラスパーの伸長とほぼ同調し数値の上昇が認められた。また、クラスパーを交差させながら体をすばやく反転させる、成熟雄特有の行動が 2012 年 4 月から観察されている。以上より、本個体が成熟に至ったと推定した。

---

---

## 日本動物園水族館協会・水族館技術者研究会

---

---

### 期間および場所

平成 24 年 12 月 5 - 6 日 千歳サケのふるさと館（北海道千歳市）  
ANA クラウンプラザホテル千歳（北海道千歳市）

### 要旨

#### 深海性フエダイの一種ヒメダイの人工授精と初期発生

○高岡博子、躍場秀兵、村雲清美、中村將

ヒメダイ *Pristipomoides sieboldii* は南日本の水深 100 - 300m に生息する中層性のフエダイ科魚類で、沖縄では「クルキンマチ」と呼ばれる水産重要種である。本種は近年漁獲量が減少し、資源回復が望まれるが、生態学的知見が乏しく、種苗生産や資源管理技術の開発が進んでいない。本研究では、飼育を中心としたアプローチによる生態解明を目指すため、人工授精および、得られた受精卵と仔魚の初期発生を観察した。材料は 2012 年 8 月 31 日（大潮）、沖縄島の沖合の水深 200m において、釣りにより採集した。このうち、生存可能と判断された成熟メス（全長 390mm）に HCG を 300IU 筋注した後、水温 18℃で輸送した。その後、6 時間毎に腹部を圧迫したところ、18 時間後に排卵が認められたため、船上で採取した精子を用い、乾導法で人工授精を行った。受精卵は卵径 0.85 - 0.91mm の球形で、径 0.11 - 0.13mm の油球を 1 つ有する分離浮性卵であった。受精卵は水温 28℃下で受精 28 時間後に孵化した。孵化仔魚の全長は 2.2 - 2.3mm で、眼の黒化、口の開口は認められなかった。また、油球は卵黄の前縁付近にあり、背・腹側の膜鰭の縁辺部に黒色素胞列を有した。孵化翌日には、目が黒化するとともに開口し、孵化 2 日後には全長 2.8 - 3.2mm となり、卵黄は完全に吸収された。この時より栄養強化した S 型ワムシを与えたものの、一部のごく小さなワムシしか摂餌せず、孵化後 4 - 6 日間の発育はほとんど認められなかった（孵化 6 日後には全て斃死）。本種の初期飼育には適切な初期餌料の確保が課題と考えられた。また、長期飼育個体を用いて、上記同様の手法でホルモン注射による採卵・人工授精を試みたが、受精卵は得られなかった。これには長期飼育個体の飼育環境が関与していると推察されることから、親魚の育成技術の開発も今後の課題となる。

#### ジンベエザメの飼育下繁殖に向けた取り組み（話題提供）

○仲松由美子、松本瑠偉、朝比奈潔（日本大学生物資源科学部）、松本葉介、植田啓一、佐藤圭一  
沖縄美ら海水族館では「黒潮の海」水槽（7500m<sup>3</sup>）で、オス 2、メス 1 個体のジンベエザメを飼育している。そのうち、オス個体（個体 No.14）は、2012 年 9 月現在 17 年 6 ヶ月間飼育され、全長 8.5m に達する。当館では、ジンベエザメの飼育下繁殖へ向けた取り組みの一環として、オスの成熟過程を調査するため、交接器の長さや形態、行動観察、および血中テストス

テロン濃度の測定を行った。結果、本個体の腹鰭内縁長に対する交接器外縁長の割合は 1.09 (2011年8月) から 13ヶ月で 1.60 (2012年9月) に伸長し、その形態も先細の形状から、先端が太くスポンジ状に著しく変化した。また、血中テストステロン濃度も、交接器の伸長と同調し上昇した。2012年4月から、交接器を交差させながら体を反転させる行動が観察され始め、8月にはその頻度の増加に加え、交接器から精液と思われる白濁液を放出する様子が確認され、本個体は全長 8.5m で性成熟に達したことが推定された。

当館では、飼育中の全長 7.0m のメス個体の成熟過程を観察するため雌性ステロイドホルモンおよびビテロジェニンの測定、定期的な全長計測、形態変化および行動観察等を継続して行い、ジンベエザメの繁殖に向けた調査に取り組んでいく。

---

---

## 日本板鰓類研究会シンポジウム

---

---

### 期間および場所

平成 24 年 12 月 8 日      海遊館 (大阪府大阪市)

### 要旨

#### オオメジロザメはなぜ淡水にも適応できるのか

○若林翠、高部宗一郎、渡邊太郎、角村佳吾 (東大大海研)、植田啓一、松本葉介、松本瑠偉、村雲清美、中村將、兵藤晋 (東大大海研)

オオメジロザメは現存するサメ類の中でも、完全な淡水に適応できるというユニークな特徴を持つ。海水中では他の海棲板鰓類と同様に尿素を体内に高濃度に蓄積し、体液浸透圧を海水よりも高く維持することで脱水を免れる。一方、淡水中でも体液中の尿素やイオンの濃度を高く保持し、その体液浸透圧は淡水棲真骨魚の約 2 倍である。狭塩性のドチザメは体液浸透圧をこのように高く維持することができず、このことが広塩性と狭塩性を決定付ける要因のひとつと考えられる。しかし、なぜオオメジロザメが淡水中で高い体液浸透圧を維持できるのか、その仕組みは不明である。

そこで、沖縄美ら海水族館と共同でオオメジロザメの淡水移行実験を行い、海水飼育・淡水移行の両群について、血液、尿および浸透圧調節器官 (鰓・腎臓など) を採取し比較した。

腎臓では、淡水移行により尿量が大きく増加し、体内の浸透圧とイオン濃度を維持するために、原尿からの尿素や NaCl の再吸収が充進されると予想した。NaCl の輸送に関わる種々の膜輸送タンパク質の mRNA の発現量変化を調べたところ、NaCl の取り込みを行うと考えられる Na<sup>+</sup>/Cl<sup>-</sup> 共輸送体 (NCC) の発現量だけが、淡水移行により大きく上昇した。狭塩性のドチザメを 30%海水に移行した時には NCC の発現量に顕著な変化は見られなかった。

鰓においても、淡水移行時に NCC の発現量は上昇した。板鰓類の鰓には、真骨魚類の鰓に存在する塩類細胞 (イオン調節細胞) と形態的に類似したミトコンドリアに富む細胞が数種類存在する。これまで、これらの細胞は酸塩基調節に関わると考えられてきたが、そのうちの一つのタイプの細胞で NCC の発現量が増加することがわかった。さらに、鰓の上皮細胞同士をつなぐ密着結合 (タイトジャンクション) が淡水に移行することにより伸長し、強化されることがわかった。

以上の結果から、オオメジロザメは淡水環境において、鰓では環境水中から、腎臓では濾過された原尿から NaCl を吸収/再吸収して体内のイオン濃度を維持し、そこには NCC が重要な役割を果たす。同時に体内への水の流入を阻止し、体液が希釈されること、ならびに尿からイオンや尿素を失うことを最小限にしているのだろう。このように、様々な機構を複合的に働かせることで、オオメジロザメは淡水環境に適応できるのだと考えている。

### トラフザメの初期発生

○古山莉奈・松本瑠偉・村雲清美・佐藤圭一

トラフザメ *Stegostoma fasciatum* は、西部太平洋からインド洋の熱帯・亜熱帯域の潮間帯から沿岸域に生息し、沖縄周辺海域でもよく捕獲される。全長は最大で 3.5m に達し、繁殖様式は卵生である。沖縄美ら海水族館の黒潮の海大水槽 (7,500m<sup>3</sup>) で飼育されているトラフザメ 17 個体 (雄 6 個体、雌 11 個体) は、毎年 3 月から 8 月にかけて槽内で交尾・産卵することが確認されている。

本研究は 2012 年に産出された卵を用いて、産卵から孵化までの胚の成長を観察した。産卵された卵は黒潮の海大水槽から取り上げ、別の水槽 (1.5m<sup>3</sup>) で飼育した。胚の大きさを確認するため、超音波画像診断装置 (フジフィルムメディカル社製、FAZONE-M) を使用し、初めて胚の動作が確認された日を発生日として成育観察を行った。また、超音波装置のプロープで全体像を把握できない大きさにまで成育した胚に対しては、卵殻に水中ライトを当てて撮影を行い、写真を画像解析ソフト ImageJ1.42q を用いて全長計測した。その結果、3 月中旬から 8 月下旬にかけて合計 668 個の卵を産出し、そのうち 267 個が有卵黄、401 個が無卵黄であった。51 個の有卵黄卵で水温 25.0 - 29.0°C で胚の発生が確認され、産卵から発生までは 13 - 39 日間を要することが明らかとなった。また、3 - 5 月初旬の 25°C に満たない低水温時に産出された卵は、発生することなく腐敗するか、発生するまでの期間が長く、水温が上昇したのち発生する傾向が認められた。発生が確認された個体のうち、10 月 31 日までに 6 個体が孵化し、12 個体が卵殻内で成育中である。発生から孵化までの期間はおよそ 4 ヶ月であり、孵化仔魚のサイズは 28.0 - 32.9 cmTL であった。孵化 2 日後には摂餌を行い、現在も飼育・観察中である。

### 超音波画像によるナンヨウマンタ胎仔の観察

○村雲清美・植田啓一

ナンヨウマンタ *Manta alfredi* の飼育下繁殖は、世界的に例が無く、繁殖行動や妊娠期間、胎仔の成長過程など観察例が少ない。ナンヨウマンタの母魚は、妊娠初期には外見上の変化は乏しく妊娠の判断は困難である。そこで、当館では 2010 年より、超音波画像診断装置 (フジフィルムメディカル社製、FAZONE-M) を使用し、妊娠判断や、胎仔の観察を行った。沖縄美ら海水族館では、2007 年以来、7,500m<sup>3</sup> の水槽内で繁殖に成功し、その後毎年、雌雄ともに同個体が交尾し出産している。2012 年までに当館で出産が観察されたナンヨウマンタは 6 個体、そのうち 1 個体は出産予定日より 1 ヶ月近く早産し、死亡が確認された。通常、妊娠期間は 363 日から 374 日であり、約 1 年の妊娠を経て出産に至る。仔魚の体盤幅は平均 185.6cm、体重 66.25kg である。通常、ヒトや陸上動物の超音波検査は、対象となる生物を静止させて行うが、ナンヨウマンタを水槽から取り上げて観察することは、生物や作業の負担を考えると現実的ではない。そこで、摂餌動作の特性を活かし、給餌で浮上した個体の背部にプロープをあて検査を試みた。スキャンした動画は DICOM データで保存し、データの解析は Osirix ソフトウェア

で行った。この検査方法は生物の負担が無い水中で観察が行えるため、高頻度で超音波画像診断が可能となった。交尾から 70 日前後には妊娠の判断が可能で、子宮内での胎仔の位置や、呼吸動作をするも観察された。超音波画像は胎仔の初期発生および成長過程を観察する方法として有効であり、生物と観察者双方にとって負担の少ない検査方法である事が実証された。

#### オオメジロザメ *Carcharhinus leucas* の成熟卵巣の組織学的特性 —硬骨魚の卵巣との比較—

○中村將、松本瑠偉、植田啓一、佐藤圭一、兵藤晋（東大大海研）

飼育下での板鰓類の繁殖を目指すためには、繁殖に関する生態学的情報に加えて生殖生理学的情報が必要となる。本研究では、生殖生理学的情報を得る目的で、美ら海水族館で長期に渡り飼育していた二個体のオオメジロザメより得た成熟卵巣を用いて組織学的観察を行い、生理学的機構の解明が先行している硬骨魚の卵巣組織と比較検討した。

卵巣をブァン液で固定し、肉眼的観察の後に、卵巣全体より組織小片をナイフにより切り取り、常法により脱水、パラフィン包埋、薄切、H・E 染色を施し光学顕微鏡観察を行った。

卵巣組織は、epigonal organ の細長い器官の先端部分にへばり付いた状態で観察された。卵巣の表面から、多数の大型の成熟途上の卵母細胞の他に未熟な小型の卵母細胞も確認することが出来た。組織学的観察から、卵巣表面は一〜数層の上皮細胞で覆われていた。上皮細胞層に接して薄い平滑筋層が発達していた。筋層の内側には多数の未熟な周辺仁期の卵母細胞が分布していた。周辺仁期の卵母細胞の周りには卵母細胞の退行後の濾胞組織と思われる円形、楕円形の空隙が多数見られた。卵巣内部には、卵黄形成期の卵母細胞に加えて種々の発達期の卵が見られた。しかしながら、卵原細胞および減数分裂開始期の卵母細胞等の若い生殖細胞は確認することが出来なかった。卵黄形成期の卵は、薄い卵膜に取り囲まれ、その外側には一層の顆粒膜細胞と二層の莢膜細胞、更に外側には多数の毛細血管が発達していた。硬骨魚類と同様に、濾胞細胞層で性ホルモンの合成がなされるものと判断された。二層の莢膜細胞層の間には平滑筋の層の発達が認められた。この平滑筋は排卵のときに働くものと推測された。成熟途上の卵内の卵黄は、卵黄顆粒と液体成分とが分離した状態認められた。正常に発達する卵以外に、成熟途上で卵母細胞が退行している組織像が多数観察された。退行卵の顆粒膜細胞層は著しく肥厚、発達し、小腸にみられる絨毛突起構造を呈していた。顆粒膜細胞が活発に卵黄顆粒を取り込む像が観察された。顆粒膜細胞は、最終的には褐色細胞集塊として卵巣内に残存することが確認された。この細胞集塊が妊娠維持等に必要なホルモンを分泌しているかについては今後の明らかにしたい。以上の結果を硬骨魚の卵巣と比較して議論したい。

#### 板鰓類研究における卓上型次世代シーケンサー（GS junior）の導入例

○渡邊太朗、高部宗一郎、高木互、若林翠（東大大海研）、

植田啓一、松本葉介、松本瑠偉、村雲清美、田中宏典（大洗水族館）、

角村圭吾、長谷川久美、伊藤愛（東大大海研）、中村將（琉大）、兵藤晋（東大大海研）

様々な生物のゲノム配列の解読が進み、ポストゲノム時代と呼ばれるようになった昨今、遺伝子産物の機能を明らかにするために、任意の組織における転写産物の網羅的かつ定量的な解析が注目されている。従来は『狙い撃ち』方式でターゲットを絞り込み、遺伝子配列を個別に解読していたが、解読可能なサンプル数が最大 2 億倍に増加した次世代シーケンサーでは『一網打尽』方式を採用したことにより、初めに遺伝子データベースを作り上げ、その中で目的の遺伝子を検索することが可能となった。かつてはゲノム解読のような大規模プロジェクトに限

定されていたこの網羅的解析は、汎用機種が登場により研究室などの小さな研究単位で可能となり、今後ますます重要な研究手法となることは間違いない。

大気海洋研究所に導入された卓上型次世代シーケンサーGS Juniorは、一度に15万種類の遺伝子配列を決定できる。次世代シーケンサーとしては小規模であるが、400塩基以上の長い配列を決定できるため、ゲノム情報が整っていない板鰓類の遺伝子を同定・解析するには最適である。筆者らは共同研究を通じ、オオメジロザメの淡水適応やトラザメの胚体におけるイオン調節など、板鰓類というキーワードで様々な方面からの解析アプローチを試みている（図1）。

これまでの解析から、板鰓類における新規機能遺伝子の発見のみならず、異なる実験群で発現している遺伝子の個数の差を反映した数値が得られることも明らかになった。これは単に対象とする組織で発現する遺伝子のプロフィールを作成できるばかりでなく、飼育環境や、発生ステージ、健常/疾病個体等、個々の研究で着目する変化を与えた際に変動する遺伝子を網羅的にリストアップできることを意味する。

今回は、板鰓類研究での使用例に関し、解析方法やデータの活用方法等の具体的な話をオムニバス形式で紹介したい。

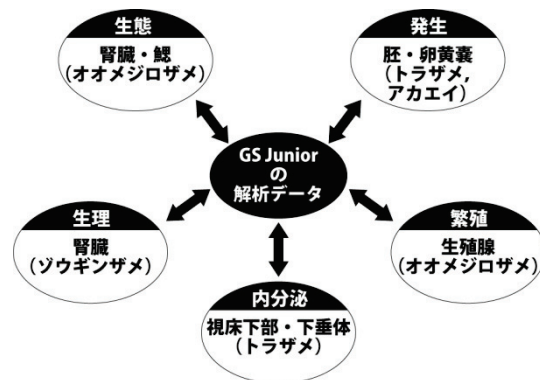


図1. GS Junior を用いた当研究所の板鰓類研究の展開状況と対象種

---

---

## 日本水産学会春季大会

---

---

### 期間および場所

平成 25 年 3 月 27 日 東京海洋大学（東京都港区）

### 要旨

#### オオメジロザメが淡水環境に適応するための仕組み

○若林翠、高部宗一郎、渡邊太朗、角村佳吾（東京大学大気海洋研究所）、植田啓一、松本葉介、松本瑠偉、村雲清美、中村將、兵藤晋（東京大学大気海洋研究所）

【目的】軟骨魚類は尿素を用いる独自の体液調節機構で海水環境に適応している。オオメジロザメは完全淡水にも適応可能な、サメ類では珍しい広塩性種であり、淡水中でも体液中のイオンや尿素の濃度を高く保つという点で、いわゆる淡水魚とは大きく異なる。しかしながら、オオメジロザメが淡水中で高い尿素とイオンを維持するための仕組みは不明である。そこで、トランスクリプトーム解析や組織化学的な解析から、オオメジロザメを海水から淡水に移行させた時に生じる変化を調べた。

【方法】海水飼育・淡水移行の両群について、血液、尿および浸透圧調節器官（鰓・腎臓など）を採取し、海水と淡水で膜輸送分子群の発現に生じる変化を調べた。トランスクリプトーム解析にはロシュ製のGS Juniorを用いた。

【結果】腎臓では、体内の浸透圧とイオン濃度を維持するために、原尿からの尿素や NaCl

の再吸収が亢進されると予想した。次世代シーケンサーによる解析から、NaClの取り込みに寄与するNa<sup>+</sup>,Cl<sup>-</sup>共輸送体(NCC)の発現が変化することを見出した。NCCの発現は淡水移行で約10倍上昇し、後部遠位尿細管と呼ばれるネフロン部位が淡水中でのNaCl再吸収に寄与することがわかった。以上のことは、狭塩性のドチザメと広塩性のオオメジロザメで大きく異なる。鰓においても、淡水移行時にミトコンドリアリッチ細胞でNCCの発現量が上昇した。さらに、鰓の上皮細胞同士をつなぐタイトジャンクションが淡水移行で伸長する傾向が見られた。このように、鰓や腎臓など複数の調節器官が協調して働くことにより、オオメジロザメの淡水適応が可能になることがわかった。

### 日本近海におけるジンベエザメ回遊調査

○松本葉介、松本瑠偉、植田啓一

【目的】ジンベエザメは近年、個体数の減少が危惧されている。しかしその生態は不明な点が多く、日本近海における本種の回遊状況及び日周行動を解明することを調査目的とした。

【方法】2010年5月から2011年12月にかけて日本近海の定置網に入網した本種5個体にポップアップタグ(Wildlife Computer社製MK-10PAT)を装着後、放流した。調査個体は、すべてオスで、全長約3.7-7.6mであった。

【結果】調査5個体中4個体のデータを得た。沖縄県読谷村沖より放流した2個体は、それぞれ高知県南方沖(放流15日後)、ルソン島西方沖(92日後)に達した。長崎県上五島町有福島沖放流個体は、パラオ北方沖へ(186日後)、千葉県波左間沖個体は、グアム島東方沖に達した(91日後)。高知沖とグアム沖個体は、調査期間中毎日の位置情報を得た。高知沖個体の1日の移動距離は、直線距離で平均67.8km(最小25.8-最大123.1km)、平均時速2.8km(1.1-5.1km)、総移動距離880.9kmであった。グアム沖個体では、平均41.9km(4.3-101.2km)、平均時速1.7km(0.2-4.2km)、総移動距離3725.5kmであった。日周鉛直行動は、いずれの個体も1日の約5割以上を10m以浅で過ごすが200m以上の深海へも潜水し、本調査4個体の最大潜水深度は496-1816mであった。高知沖個体では、10分毎の潜水深度を取得し、日中と比較して夜間は、広い水深帯を利用する結果となった(U-test、<0.05)。深海への潜水は、日中が多く、1回あたりの潜水時間は、約10分以内から最大約2.5時間で、水温は4.1-20.8℃であった。



## (2) 教育普及活動

---

---

### GW 特別展「海の危険生物展」

---

---

#### 目的

人々が海へ出る機会が多くなる夏の海水浴シーズンに向け、来場者に海の危険生物に関する情報を得る機会を提供する。

#### 期間および場所

平成 24 年 4 月 28 日 - 5 月 6 日 (9 日間)  
沖縄美ら海水族館 4 階 イベントホール

#### 概要

- (1) パネル展示  
危険生物の紹介及び対処方法の解説
- (2) 模型・標本展示  
危険生物の特徴を液浸・乾燥・プラスティネーション標本や実体顕微鏡等を用いて紹介
- (3) クイズ実施  
会場内にて危険生物に関するクイズを実施し、回答者にはシールをプレゼント
- (4) パズル・ぬりえコーナー  
パズルやぬりえをしながら危険生物について学べるコーナーを設置
- (5) リーフレット配布  
危険生物に関するリーフレットを配布
- (6) ビデオ放映  
危険生物についての解説ビデオを放映

参加者数：1 日平均 610 名、計 5,490 名（入館者数の約 5.4%）



---

---

### 特別展「サンゴの卵・幼生観察」

---

---

#### 目的

飼育水槽で放卵したサンゴの幼生を来館者に肉眼で観察してもらい、サンゴの生活史やサン

ゴ礁環境における役割などと併せて、サンゴ産卵時期の飼育係作業を、この観察会を通じて普及啓発することを目的とした。

#### 期間および場所

平成 24 年 6 月 4 - 10 日 (7 日間)

沖縄美ら海水族館 3 階 「サンゴの海」水槽前

#### 概要

- (1) 飼育水槽で採取したプラヌラ幼生
- (2) 昨年、一昨年にタイルに定着させ、一・二年間飼育したサンゴ
- (3) サンゴの骨格、サンゴの卵 (ホルマリン標本)、冷凍したサンゴの卵
- (4) サンゴについての一般的な解説、水族館でのサンゴ産卵時期の作業をまとめたパネル
- (5) サンゴ礁系飼育係、解説員による解説

昨年度まで 10 日間観察会を実施していたが、後半は定着を始めるプラヌラ幼生が多く、今年度は 7 日間に変更した。しかし、入館者数に対し多くの参加者があり、効果的に目的を達成出来たと思われる。昨年度から、水族館で卵から育成しているサンゴの展示を行っており、今年度は一・二年間飼育したサンゴを展示した。これにより、サンゴの成長速度を実感して頂くことが出来た。また、初めて冷凍したサンゴの卵を用い、サンゴ産卵時の特有の匂いを体験して頂き、お客様から様々な反応を得ることが出来た。

参加者数 : 15,906 名 (入館者数の約 40%)



---

---

### 夏休み特別展「あなたの知らないサメたち」

---

---

#### 目的

マスコミやメディアで紹介されないサメの仲間に焦点をあて、一般的なイメージと異なるサメの真実を紹介する。また、サメ類の生態や繁殖に関する正しい知見を紹介するだけでなく、当館独自のユニークな切り口でサメ展を開催し、新たな来館者層にアピールすることを目的とする。

#### 期間および場所

平成 24 年 7 月 21 日 - 9 月 2 日 (42 日間)

沖縄美ら海水族館 4 階 イベントホール

## 概要

- (1) パネル展示  
サメ類の形態、生態、繁殖等に関する解説
- (2) 標本展示  
サメ類の液浸・乾燥標本の展示
- (3) クイズ実施  
会場内にてサメ類に関するクイズを実施
- (4) スタンプラリー  
館内3ヶ所、イベントホール1ヶ所にスタンプ台を設置し、スタンプラリーを実施
- (5) PRグッズ配布  
クイズ及びラリー参加者向けにグッズを作成し、参加者に配布
- (6) 映像放映  
サメ類の外部及び内部形態を紹介する映像を編集し、放映

参加者数：1日平均1,570名、計65,972名（入館者数の約16%）



---

---

## 親子講演会「45<sup>th</sup> Sony Aquarium」

---

---

### 目的

沖縄観光コンベンションビューローとのタイアップ事業の一環として Sony Aquarium2012の運営に沖縄美ら海水族館として全面的に協力した。Sony Aquariumは東京銀座ソニービルを会場に、Sonyのハイビジョン技術や4K映像を用い、様々なコンテンツで水族館の魅力を紹介するとともに、会場内の装飾や展示水槽の監修、さらには親子で楽しめる出張授業を開催することで、沖縄美ら海水族館のPRおよび教育普及事業を実施した。

### 期間および場所

平成24年7月16日 - 9月9日（56日間）  
銀座ソニービル（東京都中央区）

### 概要

Sony Aquariumの特別企画として、親子を対象にした水族館の教育普及事業としての出張授業を実施し、沖縄美ら海水族館の魅力を伝える有意義な事業を展開した。

各課担当の講演会は、期間中 265 組 778 名の参加があった。沖縄のサンゴや熱帯魚、イルカやジンベエザメなど各講演テーマの生き物についてスライドショーを用いて紹介するだけでなく、標本を参加者に触れていただきながら、生態の仕組みを紹介する出張授業は、参加者にも大変好評であり、非常に有意義な講演会であった。

講演日	演題	講演者	参加数
7月21・22日	ジンベエザメ・マンタの秘密を探る！	仲松由美子	45組130人
7月28・29日	サンゴは植物それとも動物？	若井万里子	44組141人
8月4・5日	えびかにじゃんけんじゃんけんチョキ！	東地拓生	51組153人
8月11・12日	イカ・タコ・貝のふしぎな世界	伊芸元	49組141人
8月18・19日	イルカとクジラ 海に住む哺乳類のチャンピオン	岡部晴菜	39組107人
8月25・26日	食べる！食べられる？ ～サンゴ礁に暮らす生き物たちの食物連鎖～	当真英之	37組105人

沖縄美ら海水族館飼育スタッフによる出張授業（期間中 7 月・8 月毎週土・日に開催）




---



---

## 「水路記念日」海洋情報パネル展

---



---

### 目的

第十一管区海上保安本部開設 40 周年にあたることから、日本の海図作成がスタートした水路記念日 9 月 12 日に合わせ、多くの来館者が訪れる沖縄美ら海水族館においてパネル展を開催し、海上保安業務の理解促進と、海の情報を発信する海洋情報業務の周知・啓発を計るとともに、マリネレジャーの安全に寄与する。

### 期間および場所

平成 24 年 8 月 18 日 - 9 月 18 日（32 日間）

沖縄美ら海水族館 1 階

出口前ポスター掲示コーナー



### 概要

沖縄周辺の海底地形を 3D で見せるなど、主に海底地形の測量方法や海図の今昔について解説パネルを掲示した。9/1（土）13:00 - 16:00 には、掲示コーナーに PC を設置して映像を流し、第十一管区海上保安本部職員 2 名が常駐して詳しい展示解説を行った。

---

---

## 豊かな海づくり大会 水槽出展

---

---

### 目的

第32回全国豊かな海づくり大会～美ら海おきなわ大会～関連行事として「おきなわ豊かな海づくりフェスタ 2012 in 糸満」が開催され、水槽出展により、海洋博公園・沖縄美ら海水族館の魅力をPRした。

### 期間および場所

平成24年11月17 - 18日  
糸満海のふるさと公園（糸満市）

### 概要

- (1) 活魚車水槽でのサンゴ魚展示（17種約110点）
- (2) パネル展示（水族館紹介、ゴミ問題パネル）
- (3) 標本展示（サメ・エイ類、漂着ゴミ等の標本）

初日は雨天で来場者が少なかったが、2日目は天候にも恵まれ、親子連れを中心に終日賑わった。活魚車水槽展示では、県民になじみの深いタカサゴ類とオジサンが人気を博していた。パネル展示では、ゴミ問題についてのパネルで親子での環境問題に関する会話もみられた。



---

---

## 平成25年正月干支水槽展示

---

---

### 目的

干支にちなんだ水槽展示を行い、来館者の正月気分を盛り上げることを目的とする。

### 期間および場所

平成24年12月29日 - 平成25年1月6日（9日間）  
沖縄美ら海水族館 3階 「サンゴの海」水槽前

### 概要

- (1) 水槽展示

円柱水槽（水量1t、直径105cm×高さ230cm、架台含む）で平成25年の干支「巳（へび）」の名称と体型にちなんだ生物を展示。元日から水槽全体にとぐろをまく白へびとへび皮の三

線、玩具の指ハブなどの装飾を施して展示。

#### 展示生物

干支関連： ウナギ目キカイウツボ亜科、ウツボ亜科、ウミヘビ科の生物  
リュウキュウヘビガイ、クサギンポ（ヘビギンポの仲間）  
オトヒメエビ（ウツボ類の共生エビ）

#### (2) パネル及び標本展示

今年の干支「へび」、または沖縄を代表するへびの一種「ハブ」が和名又は方言名につく海洋生物をパネル、標本、リーフレットを用いて紹介。

※展示生物：ウミヘビ類、イモガイ類（一般に「ハブガイ」と呼ばれる）、ハブクラゲ



円柱水槽では体型がへびに似ているという理由からウツボ類を中心に展示した。そのなかでも英名が Snake moray（へびウツボ）というキカイウツボ亜科の一種は全長 129cm と大型かつ他種とは違う見た目から多くのお客様の関心を引く生物を展示することができた。また、装飾では水槽にとぐろを巻く白へびや植物管理チームに作製を依頼したへびの玩具で遊ばれる家族連れも多く見られ、新年の幅広い年齢層のお客様に楽しんで頂ける水槽であったと考えられる。標本とパネルでは単にへびにちなんだ生物だけではなく沖縄と関わりの深いハブにちなんだ生物を紹介することでより地域の特徴を活かした展示ができた。加えて、今回の展示を行うにあたりウナギ目の専門家と協力し分類、採集を行えたことから、今後の展示や採集方法の向上に役立てられる情報と経験を得ることができた。

なお、爬虫類のへびであるウミヘビ類は危険生物であるため「特定動物」の指定がされており、生体展示を避け、標本展示のみとした。

---

---

## 視覚支援学校に対する教育普及活動

---

---

### 目的

プラスティネーション標本を利用した視覚障害教育を充実させるため、盲学校等と連携したプログラムの開発を行うと同時に、当館に来館する視覚障害者に対し標本を用いた観察プログラムを提供する。

### 概要

- (1) 水族館において、下記視覚支援学校の生徒に対する観察プログラムを実施した。  
長岡京市立長岡第三中学校                                  5月25日                                  1名

- |                   |        |     |        |
|-------------------|--------|-----|--------|
| 山梨県立盲学校高等部        | 5月29日  | 2名  |        |
| 神戸市立盲学校高等部        | 6月14日  | 3名  |        |
| 埼玉県立特別支援学校塙保己一学園  | 9月25日  | 7名  |        |
| 北海道高等盲学校          | 10月25日 | 3名  |        |
| 筑波大学附属視覚特別支援学校高等部 | 1月15日  | 16名 | 計6校32名 |
- (2) 大阪府立視覚支援学校において、近畿地区の視覚特別支援学校の教員有志に対して、標本を用いた観察プログラムの研修を実施した（11月23日 約10名）。
- (3) 科学ヘジャンプ・イン・大阪 2012（大阪府立視覚支援学校）に参加し、視覚障害の生徒に向けた講演を行った（11月24日 6名）。




---



---

## 美ら海移動水族館

---



---

### 目的

沖縄県内の福祉施設・病院の利用者及び離島住民等、沖縄美ら海水族館への来館が困難な方々を対象に、レクリエーション・普及啓発及び水族館の広報を目的とした展示を現地にて行う。

### 概要

- (1) 活魚車水槽での魚類展示及び生態解説
- (2) タッチプールでの棘皮動物類展示及び生態解説
- (3) サメ・エイ類等の液浸・乾燥・プラスチック標本展示及び生態解説
- (4) ジンベエザメ等身大タペストリー掲示
- (5) その他（ぬりえ、クラフト、シール、海洋博公園イベントニュース等配布）

今年度は昨年度の約 1.6 倍、38 箇所の施設にて移動水族館を実施した。結果、参加総数は 14,170 名となった。実施施設は国立ハンセン病療養所 1 箇所、病院 4 ヶ所、その他福祉施設 33 ヶ所であった。

平成 24 年度来場者総数：14,170 名

	実施日	施設名	参加者数
1	4月 6日	地域生活支援センター Enjoy（浦添市）	244
2	4月 7日	介護サービスセンター ゆいまーる松川（那覇市）	349
3	4月 19日	デイサービスセンター とよみの杜（豊見城市）	373
4	5月 8日	デイサービスセンター たんぼぼ（読谷村）	302
5	5月 9日	特別養護老人ホーム 大名（那覇市）	324

	実施日	施設名	参加者数
6	5月 18日	デイサービス 松川（那覇市）	350
7	5月 19日	介護老人保健施設 若松苑（北中城村）	225
8	6月 7日	国立病院機構 琉球病院（金武町）	411
9	6月 9日	介護老人保健施設 やすらぎの里（那覇市）	425
10	6月 28日	かりまた内科指定通所介護センター（浦添市）	290
11	6月 29日	介護老人保健施設 おおざと信和苑（南城市）	200
12	6月 30日	障がい者通所支援センター こみかん（浦添市）	221
13	7月 26日	介護老人保健施設 禄寿園（那覇市）	626
14	7月 27日	国立病院機構 沖縄病院（宜野湾市）	714
15	7月 28日	デイサービス やえせ（八重瀬町）	341
16	8月 15日	特別養護老人ホーム 谷茶の丘（恩納村）	372
17	8月 16日	介護老人保健施設 エメロードてだこ苑（浦添市）	250
18	8月 22日	那覇市安謝福祉複合施設（那覇市）	810
19	8月 23日	特別養護老人ホーム 首里偕生園（那覇市）	177
20	9月 20日	障害者支援施設 ソフィア（糸満市）	276
21	9月 21日	中部病院職員互助会（うるま市）	1,592
22	9月 28日	南部医療センター・子ども医療センター（南風原町）	380
23	10月 10日	介護老人保健施設 東風の里（八重瀬町）	254
24	10月 11日	介護老人保健施設 池田苑（西原町）	226
25	10月 12日	介護老人保健施設 いしかわ願寿ぬ森（うるま市）	455
26	11月 8日	国立療養所 沖縄愛楽園（名護市）	404
27	11月 23日	デイサービスステーション あい愛・び〜す館（糸満市）	221
28	11月 24日	介護老人保健施設 にしぼる（浦添市）	363
29	12月 1日	沖縄県立中部病院（うるま市）	323
30	12月 10日	桜山荘 デイホーム さくらんぼ（豊見城市）	737
31	12月 11日	介護付き有料老人ホーム 天久ヒルトップ（那覇市）	205
32	12月 12日	介護付き有料老人ホーム 津嘉山の杜ヒルトップカシータ（うるま市）	304
33	12月 25日	特別養護老人ホーム おきなわ長寿苑（沖縄市）	229
34	12月 26日	特別養護老人ホーム 読谷の里（読谷村）	295
35	1月 15日	特別養護老人ホーム 楽寿園（うるま市）	260
36	1月 16日	介護老人福祉施設 琉和の森（沖縄市）	227
37	3月 15日	はえばる日の出園デイサービスセンター（南風原町）	286
38	3月 16日	デイサービス みかん（宜野湾市）	129





---

---

## 水族館飼育実習

---

---

### 目的

自然科学系専攻の主として大学生及び専門学校生を対象とした飼育実習を通し、実践的教育活動を提供する。

### 概要

魚類課にて専門学校生 2 名、大専生 2 名、大学生 14 名、大学院生 2 名の計 20 名の飼育実習を受け入れ、7 日間の現場対応を行った。

	実施日	学校名	学年
1	7月 27日 - 8月 2日	水産大学校	4
2	8月 7日 - 13日	東海大学	2
3	8月 13 - 19日	水産大学校	3
4	8月 20 - 26日	東海大学	3
5	8月 27日 - 9月 2日	高知大学大学院	M2
6	9月 3 - 9日	東海大学	3
7	9月 10 - 16日	北里大学	4
8	9月 18 - 24日	琉球大学	4
9	9月 25日 - 10月 1日	東北大学大学院	M1
10	10月 11 - 17日	日本大学	3
11	11月 27日 - 12月 3日	岡山理科大学専門学校	2
12	12月 13 - 19日	日本大学	3
13	12月 23 - 29日	ヤマザキ学園大学	3
14	2月 3 - 9日	立正大学	3
15	2月 18 - 24日	立正大学	3
16	2月 25日 - 3月 3日	宮崎大学	3
17	3月 4 - 10日	宮崎大学	3
18	3月 11 - 17日	宮崎大学	3
19	3月 18 - 24日	福岡 E C O コミュニケーション専門学校	1
20	3月 24 - 30日	東海大学	3

---

---

## 水族館博物館実習

---

---

### 目的

博物館法施行規則第 1 条に定める「博物館実習」の単位を当公園で習得しようとする学生を受け入れる。

### 概要

自然科学系専攻の学生を対象とし、9 名の大学生を受け入れた。実習は幅広い知識及び技術

を習得させるために、沖縄美ら海水族館、イルカ周辺施設、熱帯・亜熱帯都市緑化植物園、熱帯ドリームセンターにて実施した。実施期間は、第1回は平成24年7月23日 - 8月1日の間の9日間、第2回は平成24年11月19 - 28日の間の9日間。各期間中、魚類課は5日間の日程で現場対応を行った。

	実施期間	学校名	学年
1	第1回 平成24年7月23日 - 8月1日	東京海洋大学	4
2		東京海洋大学	4
3		東京海洋大学	4
4		東海大学	4
5	第2回 平成24年11月19 - 28日	琉球大学	4
6		琉球大学	4
7		東京農業大学	3
8		東京農業大学	3
9		東京農業大学	3

## 職場体験学習

### 目的

総合学習の一環として広く取り入れられている「職場体験学習」は、県内においても一般企業の協力の下で実施されている。当財団も、この趣旨に賛同し、県内の主に小学生、中学生、高校生を対象に受け入れを行う。

### 概要

小学校2校17名、中学校7校28名、高等学校4校15名、専門学校1校7名、本部町内初任者及び10年経験者教諭8名の計75名の職場体験を実施した。教育普及担当者の注視のもと、飼育担当者が生徒の指導を行った。

	実施日	学校名	学年	人数
1	6月11・18日	ウエル・スポーツ専門学校	2	7
2	6月12 - 14日	東村立有銘中学校	3	2
3	6月26 - 29日	本部町立上本部中学校	2	3
4	7月3 - 5日	那覇市立松島中学校	2	1
5	7月3 - 5日	本部町立本部中学校	2	6
6	7月25 - 27日	沖縄県立中部農林高等学校	2	2
7	8月3日	本部町教育委員会	教諭	8
8	9月10 - 13日	今帰仁村立今帰仁中学校	2	6
9	11月5 - 7日	沖縄県立名護高等学校	1	3
10	11月7 - 9日	沖縄県立本部高等学校	2	6
11	11月13 - 15日	沖縄県立北山高等学校	2	4

	実施日	学校名	学年	人数
12	11月13日	今帰仁村立今帰仁小学校	5	3
13	11月19-22日	名護市立羽地中学校	2	6
14	11月27-29日	名護市立屋部中学校	2	4
15	2月8日	宜野座村立漢那小学校	6	17

---



---

## その他の教育普及活動

---



---

### 目的

海洋環境についての学習意欲は昨今非常に高くなっており、県内外の児童生徒から一般の方々にいたるまで、多様な教育普及活動の依頼がある。これに答えるべく、インタビュー対応、水族館概要説明、バックヤード見学対応などを行い、普及啓発に努める。

### 概要

- (1) インタビュー：中学校4校35名、高等学校1校8名、専門学校1校35名、大学1校3名、特別支援学校1校24名、その他教育機関等3件44名、計149名の実施
- (2) 概要説明：教育機関等3件68名、計68名の実施
- (3) 講師派遣：小学校2校233名、中学校1校150名、大学1校25名、その他教育期間等4件502名、計910名の実施
- (4) バックヤード：高等学校2校56名、専門学校1校24名、大学2校40名、特別支援学校1校14名、その他教育機関等1件78名、計212名の実施

(3) 開館 10 周年記念業務

---

---

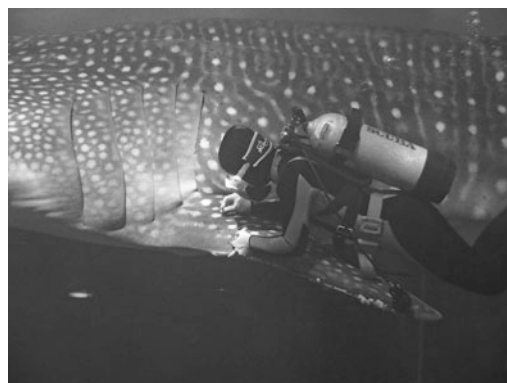
ジンベエザメ繁殖プロジェクト

---

---

概要

当館の目玉であるジンベエザメの繁殖について、大学や研究機関との総合協力によるプロジェクトを立ち上げた。



---

---

Sony Aquarium2012 における 10 周年広告

---

---

期間および場所

平成 24 年 7 月 16 日 - 9 月 9 日  
東京銀座ソニービル

概要

ソニービル外壁にルーバー幕 (10.5m×18.4m) を掲出、屋内では 10 周年記念展示を実施した。



---

---

開館 10 周年記念 3D 映像上映会

---

---

期間および場所

平成 24 年 9 月 28 日・30 日  
南風原町 南部医療センター (9/28)  
沖縄美ら海水族館 2 階 美ら海シアター (9/30)

概要

Sony Aquarium で公開した 3D 映像を上映した。



---

---

## 開館 10 周年記念サイトの開設

---

---

### 期間

平成 24 年 10 月 15 日 - 平成 25 年 9 月 30 日



### 概要

当 10 年間の歩みや今後の取り組み、10 周年関連のイベント等を紹介した。

---

---

## 開館 10 周年記念フォトサービス

---

---

### 期間および場所

平成 24 年 11 月 1 日 - 12 月 31 日

沖縄美ら海水族館 4 階 海人ゲート ・ 1F ジンベエ模型前

### 概要

スタッフによる記念撮影代行サービス。撮った写真はプリントしてその場でプレゼントした。



---

---

## 開館 10 周年記念パネル展～美ら海 10 年のあゆみ～

---

---

### 期間および場所

平成 24 年 11 月 1 日 - 平成 25 年 2 月 20 日

沖縄美ら海水族館 4 階 イベントホール

### 概要

開館から現在まで 10 年間の出来事を写真パネルにして紹介した。



---

---

## スマートフォン用アプリの配信

---

---

### 期間

平成 24 年 11 月 1 日 -

### 概要

スマートフォンをかざすと、全長 8.5m のジンベエザメ「ジンタ」が目の前に現れるアプリを制作・配信した。



---

---

## 記念商品の販売

---

---

### 期間

平成 24 年 11 月 1 日 -

### 商品

北部 11 蔵元のオリジナルブレンド 3 年古酒泡盛「黒潮のしずく」  
10 周年デザイン「記念切手」  
10 周年デザイン「デコレーションマフィン」



---

---

## 「美ら海の“とっておき”写真大募集！」

---

---

### 期間および場所

平成 24 年 12 月 20 日 - 平成 25 年 2 月 20 日  
沖縄美ら海水族館 4 階 イベントホール

### 概要

水族館にまつわるお客様の思い出の写真を募集、うち数点をイベントホールで展示した。



---

---

## 沖縄美ら海水族館×JTA タイアップ

---

---

### 期間

平成 24 年 12 月 25 日 - 5 年間 (予定)

### 概要

日本トランスオーシャン航空 (JTA) 創業 45 周年の連携企画として、ジンベエザメの塗装を施した「ジンベエジェット」を就航。あわせて機内誌記事掲載や機内販売等を実施した。



---

---

## 講演会「海の生き物繁殖最前線」

---

---

### 期間および場所

平成 25 年 3 月 24 日 13:00 - 15:00

沖縄美ら海水族館 4 階 イベントホール

### 概要

当館が長年取り組んできた「水生生物の繁殖と最新の研究成果」に焦点を当て、ナンヨウマンタをはじめとする希少生物の飼育下における取り組みを紹介。また、最新の研究事例として、魚類の性のコントロールや、資源の枯渇が危惧されているウナギの繁殖研究に関する情報を紹介した。



## V 付属資料

### (1) 飼育生物一覧 (H24.12.31 現在)

和名 学名	数	和名 学名	数
動物界 Animalia		ムチヤギ科 Ellisellidae	
海綿動物門 Porifera		ヒオウギヤギ属の一種 <i>Verrucella</i> sp.	1
六放海綿綱 Hexactinellida		ムチヤギ科の一種 Ellisellidae sp.	4
カイロウドウケツ目 Lyssacinosa		ウチワヤギ科 Gorgoniidae	
カイロウドウケツ科 Euplectellidae		ムレヤギ <i>Rumphella aggregata</i>	1
マーシャルカイロウドウケツ <i>Euplectella marshalli</i>	2	トクササンゴ科 Isididae	
海綿動物門の一種 Porifera sp.	15	セキコクヤギ <i>Isis hippuris</i>	2
		トクササンゴ科の一種 Isididae sp.	1
刺胞動物門 Cnidaria		アオサンゴ目 Helioporacea	
ヒドロ虫綱 Hydrozoa		アオサンゴ科 Helioporidae	
ヒドロ虫綱の一種 Hydrozoa sp.	2	アオサンゴ <i>Heliopora coerulea</i>	3
花虫綱 Anthozoa		ウミエラ目 Pennatulacea	
ウミトサカ目 Alcyonacea		トゲウミサボテン科 Echinoptiliidae	
ウミツタ科 Clavulariidae		トゲウミサボテン科の一種 Echinoptiliidae sp.	11
ウミツタ属の一種 <i>Clavularia</i> sp.	2	フサウミサボテン科 Umbellulidae	
ウスカワヤギ科 Briareidae		フサウミサボテン属の一種 <i>Umbellula</i> sp.	2
ムラサキハナツタ <i>Briareum violacea</i>	1	ヤナギウミエラ科 Virgulariidae	
ウミトサカ科 Alcyoniidae		ヤナギウミエラ属の一種 <i>Virgularia</i> sp.	8
ウミトサカ属の一種 <i>Alcyonium</i> sp.	3	ツノサンゴ目 Antipatharia	
ウミイチゴ <i>Bellonella rubra</i>	5	ハネカラマツ科 Cladopathidae	
ノウトサカ属の一種 <i>Cladiella</i> sp.	12	ハネカラマツ科の一種 Cladopathidae sp.	1
ヤマトサカ属の一種 <i>Klyxum</i> sp.	29	ウミカラマツ科 Antipathidae	
フトウネタケ <i>Lobophytum crassum</i>	21	ウミカラマツ属の一種 <i>Antipathes</i> sp.	2
ウネタケ属の一種 <i>Lobophytum</i> sp.	67	ムチカラマツ <i>Cirripathes anguina</i>	15
ウミキノコ <i>Sarcophyton acutangulum</i>	2	ネジレカラマツ <i>Cirripathes spiralis</i>	3
ウミキノコ属の一種 <i>Sarcophyton</i> sp.	123	ツノサンゴ目の一種 Antipatharia sp.	1
ヤナギカタトサカ <i>Sinularia flexibilis</i>	18	イソギンチャク目 Actiniaria	
カタトサカ属の一種 <i>Sinularia</i> sp.	112	カワリギンチャク科 Halcuriidae	
ミナベトサカ <i>Minabea ozakii</i>	3	カワリギンチャク科の一種 Halcuriidae sp.	22
ミナベトサカ属の一種 <i>Minabea</i> sp.	1	ガザリイソギンチャク科 Aliciidae	
チヂミトサカ科 Nephtheidae		ウンバチイソギンチャク <i>Phyllodiscus semoni</i>	1
トゲトサカ属の一種 <i>Dendronephthya</i> sp.	2	ヒダベリイソギンチャク科 Metridiidae	
チヂミトサカ属の一種 <i>Nephthea</i> sp.	1	ヒダベリイソギンチャク科の一種 Metridiidae sp.	1
タイマツトサカ科 Nidaliidae		セトモノイソギンチャク科 Actinostolidae	
タイマツトサカ <i>Nidalia borongaensis</i>	2	フウセンイソギンチャク <i>Stomphia japonica</i>	22
タイマツトサカ科の一種 <i>Chironephthya</i> sp.	3	クラゲイソギンチャク科 Actinoscyphiidae	
ウミアザミ科 Xeniidae		クラゲイソギンチャク科の一種 Actinoscyphiidae sp.	1
ブルームウミアザミ <i>Xenia blumi</i>	2	ウメボシイソギンチャク科 Actiniidae	
ウミアザミ属の仲間 <i>Xenia</i> sp.	5	タマイタダキイソギンチャク <i>Entacmaea ramsayi</i>	31
ウミアザミ科の一種 Xeniidae sp.	1	ハタゴイソギンチャク科 Stichodactylidae	
ネジレヤギ科 Anthothelidae		ジュズダマイイソギンチャク <i>Heteractis aurora</i>	1
ウツロヤギ属の一種 <i>Solenocaulon</i> sp.	2	シライトイソギンチャク <i>Radianthus crispus</i>	12
サンゴ科 Coralliidae		センジュイソギンチャク <i>Radianthus ritteri</i>	4
モモイロサンゴ <i>Corallium elatius</i>	3	ハタゴイソギンチャク <i>Stichodactyla gigantea</i>	4
アカサンゴ <i>Paracorallium japonicum</i>	3	イボハタゴイソギンチャク <i>Stichodactyla haddoni</i>	1
トゲヤギ科 Acanthogorgiidae		アラビアハタゴイソギンチャク <i>Stichodactyla mertensii</i>	1
ウミウチワ属の一種 <i>Anthogorgia</i> sp.	1	ハナブサイソギンチャク科 Actinodendronidae	
トゲヤギ科の一種 Acanthogorgiidae sp.	5	ハナブサイソギンチャク <i>Actinodendron arboreum</i>	2
ホソヤギ科 Plexauridae		イシサンゴ目 Scleractinia	
ヨウラクヤギ属の一種 <i>Bebryce</i> sp.	1	ムカシサンゴ科 Astrocoeniidae	
ツゲヤギ属の一種 <i>Menella</i> sp.	1	ムカシサンゴ科の一種 Astrocoeniidae sp.	1



和名 学名	数	和名 学名	数
ハナヤサイサンゴ科 Pocilloporidae		サザナミサンゴ科 Merulinidae	
ハナヤサイサンゴ <i>Pocillopora damicornis</i>	29	ウスサザナミサンゴ <i>Merulina scabricula</i>	1
ヘラジカハナヤサイサンゴ <i>Pocillopora eydouxi</i>	5	ダイオウサンゴ科 Diploastraeidae	
チリメンハナヤサイサンゴ <i>Pocillopora meandrina</i>	18	ダイオウサンゴ <i>Diploastrea heliopora</i>	3
ショウガサンゴ <i>Stylophora pistillata</i>	16	オオトゲサンゴ科 Mussidae	
ミドリイン科 Acroporidae		ヒメオオトゲキクメイシ <i>Acanthastrea echinata</i>	1
トゲマツミドリイシ <i>Acropora danai</i>	3	ヒラサンゴ <i>Australomussa rowleyensis</i>	1
コユビミドリイシ <i>Acropora digitifera</i>	2	マルハナガタサンゴ <i>Lobophyllia corymbosa</i>	2
スギノキミドリイシ <i>Acropora formosa</i>	7	バラオハナガタサンゴ <i>Lobophyllia hataii</i>	1
コエダミドリイシ <i>Acropora microphthalma</i>	15	オオハナガタサンゴ <i>Lobophyllia hemprichii</i>	12
トゲスギミドリイシ <i>Acropora nobilis</i>	3	アザミハナガタサンゴ <i>Scolymia vitiensis</i>	1
ウスエダミドリイシ <i>Acropora tenuis</i>	3	ヒロクチダイノウサンゴ <i>Symphyllia agaricia</i>	1
ハイスギミドリイシ <i>Acropora acuminata</i>	1	ホソダイノウサンゴ <i>Symphyllia recta</i>	2
ヤセミドリイシ <i>Acropora horrida</i>	4	ハナガタサンゴ <i>Symphyllia velenciennesii</i>	2
ミドリイン属の一種 <i>Acropora paniculata</i>	8	ウミバラ科 Pectiniidae	
ウスコモンサンゴ <i>Montipora foliosa</i>	3	ヒラキッカサンゴ <i>Echinophyllia echinata</i>	2
ヒラフキササンゴ科 Agariciidae		アバレキッカサンゴ <i>Echinophyllia orpheensis</i>	2
イボリュウモンサンゴ <i>Pachyseris gemmae</i>	1	アナキッカサンゴ <i>Oxypora lacera</i>	2
シワリュウモンサンゴ <i>Pachyseris rugosa</i>	1	ビワガライン科 Oculinidae	
シコロサンゴ <i>Pavona decussata</i>	3	ビワガライン属の一種 <i>Madrepora</i> sp.	3
コノハシコロサンゴ <i>Pavona frondifera</i>	2	トゲコザラサンゴ科 Anthemiphyllidae	
ハマシコロサンゴ <i>Pavona minuta</i>	1	トゲコザラサンゴ <i>Anthemiphyllia dentatus</i>	2
アミメサンゴ科 Psammocoridae		アザミサンゴ科 Galaxeidae	
ヤッコアミメサンゴ <i>Psammocora contigua</i>	1	アザミサンゴ <i>Galaxea fascicularis</i>	10
クサビライシ科 Fungiidae		チョウジガイ科 Caryophylliidae	
トゲクサビライシ <i>Ctenactis echinata</i>	1	ギンカサンゴ <i>Deltocyathus magnificus</i>	6
トゲクサビライシモドキ <i>Ctenactis crassa</i>	2	アシナガサンゴ属の一種 <i>Stephanocyathus</i> sp.	11
ヒラタクサビライシ <i>Fungia concinna</i>	2	チョウジガイ科の仲間 Caryophylliidae spp.	5
シタザラクサビライシ <i>Fungia fungites</i>	3	ハナサンゴ科 Euphyllidae	
ノコギリクサビライシ <i>Fungia valida</i>	1	ミズタマサンゴ <i>Plerogyra sinuosa</i>	3
クサビライシ属の一種 <i>Fungia</i> sp.	1	センスガイ科 Flabellidae	
キュウリイシ <i>Herpolitha limax</i>	2	センスガイ <i>Flabellum distinctum</i>	3
ヤエヤマカワラサンゴ <i>Podabacia crustacea</i>	1	キササンゴ科 Dendrophylliidae	
イシナマコ <i>Polyphyllia talpina</i>	12	イボヤギ <i>Tubastraea coccinea</i>	16
ヘルメットイシ <i>Sandalolitha robusta</i>	3	ウネリスリバチサンゴ <i>Turbinaria frondens</i>	2
ハマサンゴ科 Poritidae		キササンゴ科の仲間 Dendrophylliidae spp.	7
ユビエダハマサンゴ <i>Porites cylindrica</i>	3	スナギンチャク目 Zoanthinaria	
ベニハマサンゴ <i>Porites lichen</i>	2	スナギンチャク科 Zoanthidae	
フカアナハマサンゴ <i>Porites lobata</i>	1	タマイワスナギンチャク <i>Palythoa lesueuri</i>	1
コブハマサンゴ <i>Porites lutea</i>	1	マメスナギンチャク属の仲間 <i>Zoanthus</i> spp.	6
ネグロスハマサンゴ <i>Porites negrosensis</i>	1	ヤドリスナギンチャク科 Epizoanthidae	
オオハマサンゴ <i>Porites solida</i>	1	ヤドカリスナギンチャク属の一種 <i>Epizoanthus</i> sp.	1
キクメイシ科 Faviidae		スナギンチャク目の仲間 Zoanthinaria spp.	9
エダトゲキクメイシ <i>Cyphastrea decadia</i>	2	ホネナンサンゴ目 Corallimorpharia	
フカトゲキクメイシ <i>Cyphastrea serailia</i>	1	ホネナシサンゴ科 Corallimorphidae	
オオリュウキュウキッカサンゴ <i>Echinopora gemmacea</i>	1	ホネナンサンゴ科の一種 Corallimorphidae sp.	1
アザミキクメイシ <i>Favia danae</i>	2	イソギンチャクモドキ科 Discosomatidae	
スボミキクメイシ <i>Favia fавus</i>	2	イソギンチャクモドキ <i>Discosoma nummiforme</i>	1
ウスチャキクメイシ <i>Favia pallida</i>	5	イトイソギンチャクモドキ <i>Discosoma howesii</i>	4
キクメイシ <i>Faiva speciosa</i>	5	イソギンチャクモドキ科の一種 Discosomatidae sp.	5
バリカメノコキクメイシ <i>Goniastrea aspera</i>	5	有櫛動物門 Ctenophora	
トゲイボサンゴ <i>Hydnophora exesa</i>	2	有触手綱 Tentaculata	
エダイボサンゴ <i>Hydnophora rigida</i>	1	クシヒラムシ目 Platyctenida	
ミダレナガレサンゴ <i>Leptoria irregularis</i>	1	コトクラゲ科 Lyroctenidae	
ナガレサンゴ <i>Leptoria phrygia</i>	1	コトクラゲ <i>Lyrocteis imperatoris</i>	1
タカクキクメイシ <i>Montastrea valenciennesi</i>	2		
ノウサンゴ <i>Platygyra lamellina</i>	3		
ヒメノウサンゴ <i>Platygyra pini</i>	2		

和名 学名	数	和名 学名	数
棘皮動物門 Echinodermata		クモヒトデ綱 Ophiuridea	
ウミユリ綱 Crinoidea		ツルクモヒトデ目 Euryalida	
ウミシダ目 Comatulida		タコクモヒトデ科 Asteroschematidae	
クシウミシダ科 Comasteridae		ヒメモヅル属の一種 <i>Astrocharis monospinosa</i>	1
ハナウミシダ <i>Comanthina nobilis</i>	4	テヅルモヅル科 Gorgonocephalidae	
オオウミシダ科 Tropiometridae		セノテヅルモヅル <i>Astrocladus coniferus</i>	5
オオウミシダ <i>Tropiometra afra macrodiscus</i>	3	サキワレテヅルモヅル <i>Astroclon propugnatoris</i>	1
アシナガウミシダ科 Asterometridae		テヅルモヅル科の一種 Gorgonocephalidae sp.	2
アシナガウミシダ科の一種 Asterometridae sp.	1	クモヒトデ目 Ophiurida	
ウミシダ目の一種 Comatulida sp.	8	トゲクモヒトデ科 Ophiotrichidae	
ウデボソヒトデ目 Brisingida		トゲクモヒトデ科の一種 Ophiotrichidae sp.	7
シウウデボソヒトデ科 Brisingidae		クモヒトデ目の一種 Ophiurida sp.	8
ヒグルマヒトデ属の一種 <i>Novodinia</i> sp.	2	ウニ綱 Echinoidea	
マヒトデ目 Forcipulatida		オウサマウニ目 Cidaroida	
タコヒトデ科 Labidiasteridae		オウサマウニ科 Cidaridae	
カンムリヒトデ <i>Coronaster volsellatus</i>	2	マツカサウニ <i>Eucidaris metularia</i>	1
ヒメヒトデ目 Spinulosida		ミカドウニ <i>Goniocidaris mikado</i>	1
ヒメヒトデ科 Echinasteridae		バクダンウニ <i>Phyllacanthus imperialis</i>	2
ルソンヒトデ <i>Echinaster luzonicus</i>	25	フシザオウニ <i>Plococidaris verticillata</i>	4
モミジガイ目 Paxillosida		ノコギリウニ <i>Prionocidaris baculosa</i>	3
モミジガイ科 Astropectinidae		ヤマトオウサマウニ <i>Stereocidaris sceptriferoides</i>	7
モミジガイ科の一種 Astropectinidae sp.	2	オウサマウニ科の一種 Cidaridae sp.	1
アカヒトデ目 Valvatida		フクロウニ目 Echinothuroidea	
イトマキヒトデ科 Asterinidae		フクロウニ科 Echinothuriidae	
サメハダヒトデ属の一種 <i>Nepanthia</i> sp.	2	フクロウニ科の一種 Echinothuriidae sp.	1
アカヒトデ目 Valvatida		ガンガゼ目 Diadematoida	
ゴカクヒトデ科 Goniasteridae		ガンガゼ科 Diadematidae	
ヒメチシオヒトデ <i>Tosia queenslandensis</i>	1	ガンガゼ <i>Diadema setosum</i>	8
ゴカクヒトデ科の一種 Goniasteridae sp.	2	トックリガンガゼモドキ <i>Echinothrix calamaris</i>	1
ホウキボシ科 Ophidiasteridae		ホンウニ目 Echinoida	
アミメジューズベリヒトデ <i>Fromia indica</i>	5	ラッパウニ科 Toxopneustidae	
アカヒメジューズベリヒトデ <i>Fromia milleporella</i>	9	シラヒゲウニ <i>Tripneustes gratilla</i>	10
ジューズベリヒトデ <i>Fromia monilis</i>	7	ナガウニ科 Echinometridae	
トガリアライボヒトデ <i>Gomophia egyptiaca</i>	4	ナガウニ <i>Echinometra mathaei</i>	8
アライボヒトデ <i>Gomophia frianti</i>	7	パイブウニ <i>Heterocentrotus mammillatus</i>	5
オキアカヒトデ <i>Heteronardoa diamantinae</i>	1	ナマコ綱 Holothuroidea	
アオヒトデ <i>Linckia laevigata</i>	183	マナマコ目 Aspidochirotida	
ゴマフヒトデ <i>Linckia multifora</i>	7	クロナマコ科 Holothuriidae	
アズキイボヒトデ <i>Nardoa</i> aff. <i>Variolata</i>	1	オオクロシカクナマコ <i>Actinopyga</i> sp.	4
イボヒトデ <i>Nardoa tuberculata</i>	3	オオクイロナマコ <i>Actinopyga</i> sp.	4
アカモンヒトデ <i>Neoferdina cumingi</i>	5	ジャンメナマコ <i>Bohadschia argus</i>	12
ホウキボシ科の一種 Ophidiasteridae sp.	4	フタスジナマコ <i>Bohadschia bivittata</i>	2
ノコギリヒトデ科 Asteropsidae		クロエリナマコ <i>Bohadschia graeffei</i>	5
ノコギリヒトデ <i>Asteropsis carinifera</i>	2	ニセジャンメナマコ <i>Bohadschia</i> sp.	1
ナンカイヒトデ科 Asterodiscidae		チズナマコ <i>Bohadschia vitiensis</i>	5
ヤマトナンカイヒトデ <i>Asterodiscides japonicus</i>	1	アカミシキリ <i>Holothuria edulis</i>	4
コブヒトデ科 Oreasteridae		ニセクロナマコ <i>Holothuria leucospirata</i>	366
カワテブクロ <i>Choriaster granulatus</i>	10	エクレアナマコ <i>Holothuria nigralutea</i>	1
マンジュウヒトデ <i>Culcita novaeguineae</i>	50	ハネジナマコ <i>Holothuria scabra</i>	1
アワユキヒトデ <i>Gymnanthenea globigera</i>	3	クロナマコ科の一種 Holothuriidae sp.	3
コブヒトデモドキ <i>Pentacaster alveolatus</i>	1	シカクナマコ科 Stichopodidae	
コブヒトデ <i>Protoreaster nodosus</i>	60	オキナマコ <i>Parastichopus nigripunctatus</i>	4
コブヒトデ科の一種 <i>Pentaster obtusatus</i>	2	ヨコスジオオナマコ <i>Stichopus hermanni</i>	3
オニヒトデ科 Acanthasteridae		バイカナマコ <i>Thelenota ananas</i>	5
オニヒトデ <i>Acanthaster planci</i>	6	アデヤカバイカナマコ <i>Thelenota anax</i>	4
フトトゲヒトデ科 Mithrodiidae		ナマコ綱の一種 Holothuroidea sp.	8
フトトゲヒトデ <i>Mithrodia clavigera</i>	2		

和名 学名	数
脊索動物門 Chordata	
ホヤ綱 Ascidiacea	
マボヤ目 Pleurogona	
シロボヤ科 Styelidae	
クロボヤ属の一種 <i>Polycarpa</i> sp.	3
ヌタウナギ綱 Myxini	
ヌタウナギ目 Mixiniformes	
ヌタウナギ科 Myxinidae	
ムラサキヌタウナギ <i>Eptatretus okinoseanus</i>	2
軟骨魚綱 Chondrichthyes	
ネコザメ目 Heterodontiformes	
ネコザメ科 Heterodontidae	
ネコザメ <i>Heterodontus japonicus</i>	3
テンジクザメ目 Orectolobiformes	
テンジクザメ科 Hemiscylliidae	
イヌザメ <i>Chiloscyllium punctatum</i>	6
ジンバエザメ科 Rhincoodontidae	
トラフザメ <i>Stegostoma fasciatum</i>	21
オオテンジクザメ <i>Nebrius ferrugineus</i>	14
ジンベエザメ <i>Rhincodon typus</i>	5
メジロザメ目 Carcharhiniformes	
トラザメ科 Scyliorhinidae	
イモリザメ <i>Parmaturus pilosus</i>	5
ヤモリザメ <i>Galeus eastmani</i>	1
ナガサキトラザメ <i>Halaelurus buergeri</i>	5
ナヌカザメ <i>Cephaloscyllium umbratile</i>	3
トラザメ <i>Scyliorhinus torazame</i>	28
ヒョウザメ <i>Proscyllium venustum</i>	5
ホシザメ <i>Mustelus manazo</i>	4
エイラクブカ <i>Hemitriakis japonica</i>	1
メジロザメ科 Carcharinidae	
イタチザメ <i>Galeocerdo cuvier</i>	3
ネムリブカ <i>Triaenodon obesus</i>	8
レモンザメ <i>Negaprion acutidens</i>	16
クロヘリメジロ <i>Carcharhinus brachyurus</i>	1
オオメジロザメ <i>Carcharhinus leucas</i>	6
ヤジブカ <i>Carcharhinus plumbeus</i>	6
ツノザメ目 Squaliformes	
ツノザメ科 Squalidae	
ヒゲツノザメ <i>Cirrhigaleus barbifer</i>	1
ツマリツノザメ <i>Squalus brevirostris</i>	4
フトツノザメ <i>Squalus mitsukurii</i>	2
カスザメ目 Squatiniformes	
カスザメ科 Squatinidae	
カスザメ <i>Squatina japonica</i>	1
ノコギリザメ目 Pristiophoriformes	
ノコギリザメ科 Pristiophoridae	
ノコギリザメ <i>Pristiophorus japonicus</i>	2
トンガリサカタザメ目 Rhynchobatiformes	
トンガリサカタザメ科 Rhynchobatidae	
シノノメサカタザメ <i>Rhina ancylostoma</i>	1
シノノメサカタザメ科 Rhynchobatidae	
トンガリサカタザメ <i>Rhynchobatus djiddensis</i>	3
サカタザメ目 Rhinobatiformes	
ウチワザメ科 Platyrrhinidae	
ウチワザメ <i>Platyrrhina tangi</i>	9

和名 学名	数
ガンギエイ目 Rajiformes	
ガンギエイ科 Rajidae	
コモンカスベ <i>Okamejei kenojei</i>	1
ツマリカスベ <i>Raja schmidti</i>	2
ガンギエイ科の一種 Rajidae sp.	3
トビエイ目 Myliobatiformes	
アカエイ科 Dasyatidae	
イバラエイ <i>Urogymnus asperrimus</i>	3
オグロオトメエイ <i>Himantura fai</i>	11
ヒョウモンオトメエイ <i>Himantura uarnak</i>	13
ウシエイ <i>Dasyatis ushieii</i>	5
トビエイ科 Myliobatidae	
ウシバナトビエイ <i>Rhinoptera javanica</i>	118
マダラトビエイ <i>Aetobatus narinari</i>	21
ナンヨウマンタ <i>Manta alfredi</i>	9
硬骨魚綱 Osteichthyes	
カライワシ目 Elopiformes	
カライワシ科 Elopidae	
カライワシ <i>Elops hawaiiensis</i>	2
イセゴイ科 Megalopidae	
イセゴイ <i>Megalops cyprinoides</i>	7
ウナギ目 Anguilliformes	
ウナギ科 Anguillidae	
オオウナギ <i>Anguilla marmorata</i>	2
ウツボ科 Muraenidae	
キカイウツボ亜科の一種 <i>Channomuraena vittata</i>	1
ゼブラウツボ <i>Gymnomuraena zebra</i>	1
オナガウツボ <i>Strophidon sathete</i>	2
サビウツボ <i>Gymnothorax thyrsoideus</i>	6
オキノシマウツボ <i>Gymnothorax ypsilon</i>	1
ハワイウツボ <i>Gymnothorax berndti</i>	1
アミウツボ <i>Gymnothorax reticularis</i>	2
ヤミウツボ <i>Gymnothorax monochrous</i>	7
モバウツボ <i>Gymnothorax richardsonii</i>	1
ミズレウツボ <i>Gymnothorax neglectus</i>	4
ウツボ <i>Gymnothorax kidako</i>	1
ユリウツボ <i>Gymnothorax prionodon</i>	1
ドクウツボ <i>Gymnothorax javanicus</i>	2
アミメウツボ <i>Gymnothorax pseudothyrsoides</i>	1
ニセゴイシウツボ <i>Gymnothorax isingteena</i>	3
ヘリゴイシウツボ <i>Gymnothorax fimbriatus</i>	1
ホラアナゴ科 Synaphobranchidae	
ヒレジロアナゴ <i>Meadia abyssalis</i>	6
ウミヘビ科 Ophichthidae	
スソウミヘビ <i>Ophichthus urolophus</i>	1
アナゴ科 Congridae	
クロアナゴ属の一種 <i>Conger</i> sp.	3
チンアナゴ <i>Heteroconger hassi</i>	46
ニシキアナゴ <i>Gorgasia preclara</i>	20
コイ目 Cypriniformes	
コイ科 Cyprinidae	
ゲンゴロウブナ <i>Carassius cuvieri</i>	1
ギンブナ <i>Carassius</i> sp.	2
フナ属の一種 <i>Carassius</i> sp.	10
ナマズ目 Siluriformes	
ナマズ科 Clariidae	
ヒレナマズ <i>Clarias fuscus</i>	1

和名 学名	数	和名 学名	数
ゴンズイ科 <i>Plotosidae</i>		カダヤシ目 <i>Cyprinodontiformes</i>	
ゴンズイ <i>Plotosus japonicus</i>	120	カダヤシ科 <i>Poeciliidae</i>	
サケ目 <i>Salmoniformes</i>		グッピー <i>Poecilia reticulata</i>	30
アユ科 <i>Plecoglossidae</i>		ダツ目 <i>Beloniformes</i>	
リュウキュウアユ <i>Plecoglossus altivelis ryukyuensis</i>	51	メダカ科 <i>Adrianichthyidae</i>	
ヒメ目 <i>Aulopiformes</i>		ミナミメダカ <i>Oryzias latipes</i>	170
ヒメ科 <i>Aulopidae</i>		スズキ目 <i>Perciformes</i>	
ハタタテヒメ <i>Aulopus</i> sp.	2	メバル科 <i>Sebastidae</i>	
アンコウ目 <i>Lophiiformes</i>		ユメカサゴ <i>Helicolenus hilgendorfi</i>	1
カエルアンコウ科 <i>Antennariidae</i>		クロソイ <i>Sebastes schlegelii</i>	1
カエルアンコウ <i>Antennarius striatus</i>	2	フサカサゴ科 <i>Scorpaenidae</i>	
アカガツ科 <i>Ogcocephalidae</i>		ハナミノカサゴ <i>Pterois volitans</i>	1
ワヌケフウリュウウオ <i>Malthopsis annulifera</i>	3	ネッタイミノカサゴ <i>Pterois antennata</i>	1
ゴマフウリュウウオ <i>Malthopsis tiarella</i>	1	キリンミノ <i>Dendrochirus zebra</i>	1
キンメダイ目 <i>Beryciformes</i>		ハダカハオコゼ <i>Taenianotus triacanthus</i>	1
イトウダイ科 <i>Holocentridae</i>		オニカサゴ <i>Scorpaenopsis cirrosa</i>	1
クラカケエビス <i>Sargocentron caudimaculatum</i>	1	ウルマカサゴ <i>Scorpaenopsis oxycephala</i>	1
テリエビス <i>Sargocentron ittodai</i>	5	ニライカサゴ <i>Scorpaenopsis diabolus</i>	1
トガリエビス <i>Sargocentron spiniferum</i>	1	サツマカサゴ <i>Scorpaenopsis neglecta</i>	1
スミツキカノコ <i>Sargocentron melanospilos</i>	1	イズカサゴ <i>Scorpaena neglecta</i>	2
アヤメエビス <i>Sargocentron rubrum</i>	4	オニオコゼ科 <i>Synanceiidae</i>	
ウケグチイトウダイ <i>Neoniphon sammara</i>	6	オニダルマオコゼ <i>Synanceia verrucosa</i>	4
ヒレグロイトウダイ <i>Neoniphon opercularis</i>	1	ヒレナガカサゴ科 <i>Neosebastidae</i>	
エビスダイ <i>Ostichthys japonicus</i>	3	ヒレナガカサゴ <i>Neosebastes entaxis</i>	3
カイエビス <i>Ostichthys kaianus</i>	2	ホウボウ科 <i>Triglidae</i>	
クロオビマツカサ <i>Myripristis kuntee</i>	7	ツラナガソコカナガシラ <i>Lepidotrigla longifaciata</i>	1
キビレマツカサ <i>Myripristis chryseres</i>	2	ハリゴチ科 <i>Hoplichthyidae</i>	
アカマツカサ <i>Myripristis berndti</i>	56	ソコハリゴチ <i>Hoplichthys gilberti</i>	1
イトウダイ科の一種 <i>Holocentridae</i> sp.	1	ホタルジャコ科 <i>Acropomatidae</i>	
ヒウチダイ科 <i>Trachichthyidae</i>		ナガオオメハタ <i>Malakichthys elegans</i>	1
ハシキンメ <i>Gephyroberyx japonicus</i>	9	ハタ科 <i>Serranidae</i>	
マツカサウオ科 <i>Monocentridae</i>		アカイサキ <i>Caprodon schlegelii</i>	1
マツカサウオ <i>Monocentris japonica</i>	9	ニシキハナダイ <i>Plectranthias sagamiensis</i>	3
マツカサウオ科の一種 <i>Cleidopus gloriamaris</i>	30	バラハナダイ <i>Odontanthias katayamai</i>	1
ヒカリキンメ科 <i>Anomalopidae</i>		マダラハナダイ <i>Odontanthias borbonius</i>	3
ヒカリキンメダイ <i>Anomalops katoptron</i>	122	キンギョハナダイ <i>Pseudanthias squamipinnis</i>	239
マトウダイ目 <i>Zeiformes</i>		スミレナガハナダイ <i>Pseudanthias pleurotaenia</i>	8
マトウダイ科 <i>Zeidae</i>		アカネハナゴイ <i>Pseudanthias dispar</i>	28
マトウダイ <i>Zeus faber</i>	1	ハナゴイ <i>Pseudanthias pascalus</i>	30
タウナギ目 <i>Synbranchiiformes</i>		スジアラ <i>Plectropomus leopardus</i>	2
タウナギ科 <i>Synbranchidae</i>		コクハンアラ <i>Plectropomus laevis</i>	3
タウナギ <i>Monopterus albus</i>	1	ヤミハタ <i>Cephalopholis boenak</i>	8
トゲウオ目 <i>Gasterosteiformes</i>		シマハタ <i>Cephalopholis igarashiensis</i>	1
ヘラヤガラ科 <i>Aulostomidae</i>		ニジハタ <i>Cephalopholis urodeta</i>	22
ヘラヤガラ <i>Aulostomus chinensis</i>	1	アザハタ <i>Cephalopholis sonnerati</i>	2
サギフエ科 <i>Macroramphosidae</i>		ユカタハタ <i>Cephalopholis miniata</i>	2
サギフエ <i>Macroramphosus sagifue</i>	3	ハナハタ <i>Cephalopholis aurantia</i>	1
ヘコアユ科 <i>Centriscidae</i>		タマカイ <i>Epinephelus lanceolatus</i>	3
ヘコアユ <i>Aeoliscus strigatus</i>	196	アカハタモドキ <i>Epinephelus retouti</i>	1
ヨウジウオ科 <i>Syngnathidae</i>		ツチホゼリ <i>Epinephelus cyanopodus</i>	1
イシヨウジ <i>Corythoichthys haematopterus</i>	4	ホウキハタ <i>Epinephelus morrhua</i>	2
オイランヨウジ <i>Doryrhamphus dactylophorus</i>	10	ナミハタ <i>Epinephelus ongus</i>	1
トゲヨウジ <i>Syngnathoides biaculeatus</i>	1	アカハタ <i>Epinephelus fasciatus</i>	7
クロウミウマ <i>Hippocampus kuda</i>	52	クエ <i>Epinephelus bruneus</i>	1
ボラ目 <i>Mugiliformes</i>		カスリハタ <i>Epinephelus tukula</i>	3
ボラ科 <i>Mugilidae</i>		ヤイトハタ <i>Epinephelus malabaricus</i>	1
オニボラ <i>Ellochelon vaigiensis</i>	17	チャイロマルハタ <i>Epinephelus coioides</i>	1
		シロブチハタ <i>Epinephelus maculatus</i>	4

和名 学名	数	和名 学名	数
カンモンハタ <i>Epinephelus merra</i>	7	ロクセンフエダイ <i>Lutjanus quinquelineatus</i>	5
ルリハタ <i>Aulacocephalus temmincki</i>	1	ヨスジフエダイ <i>Lutjanus kasmira</i>	55
トゲハナスズキ <i>Liopropoma japonicum</i>	1	ゴマフエダイ <i>Lutjanus argentimaculatus</i>	1
バラスズキ <i>Liopropoma aragai</i>	2	クロホシフエダイ <i>Lutjanus russellii</i>	3
アゴハタ <i>Pogonoperca punctata</i>	1	タテフエダイ <i>Lutjanus vitta</i>	7
<b>メギス科 Pseudochromidae</b>		アミメフエダイ <i>Lutjanus decussatus</i>	1
メギス <i>Labracinus cyclophthalmus</i>	4	フエダイ <i>Lutjanus stellatus</i>	1
クレナイニセスズメ <i>Pictichromis porphyreus</i>	2	ヒメフエダイ <i>Lutjanus gibbus</i>	51
<b>タナバタウオ科 Plesiopidae</b>		センネンダイ <i>Lutjanus sebae</i>	1
シモフリタナバタウオ <i>Calloplesiops altivelis</i>	1	バラフエダイ <i>Lutjanus bohar</i>	1
<b>キントキダイ科 Pricanthidae</b>		イッテンフエダイ <i>Lutjanus monostigma</i>	1
チカメキントキ <i>Cookeolus japonicus</i>	1	オキフエダイ <i>Lutjanus fulvus</i>	1
ホウセキキントキ <i>Priacanthus hamrur</i>	5	イトヒキフエダイ <i>Symphorus nematophorus</i>	1
ゴマヒレキントキ <i>Heteropriacanthus cruentatus</i>	1	ハチジョウアカムツ <i>Etelis carbunculus</i>	6
オキナワククルマダイ <i>Pristigenys meyeri</i>	1	ハマダイ <i>Etelis coruscans</i>	8
クルマダイ <i>Pristigenys nipponia</i>	1	オオクチハマダイ <i>Etelis radius</i>	3
<b>テンジクダイ科 Apogonidae</b>		イシフエダイ <i>Aphareus furca</i>	1
ヤライイシモチ <i>Cheilodipterus quinquelineatus</i>	27	シマアオダイ <i>Paracaesio kusakarii</i>	1
リュウキュウヤライイシモチ <i>Cheilodipterus macrodon</i>	9	アオダイ <i>Paracaesio caerulea</i>	5
アトヒキテンジクダイ <i>Archamia macroptera</i>	10	ハナフエダイ <i>Pristipomoides argyrogrammicus</i>	3
イトヒキテンジクダイ <i>Zorania leptacantha</i>	422	オオヒメ <i>Pristipomoides filamentosus</i>	2
ウスモモテンジクダイ <i>Zorania viridiventer</i>	48	ヒメダイ <i>Pristipomoides sieboldii</i>	11
サンギルイシモチ <i>Apogon sangiensis</i>	15	<b>タカサゴ科 Caesionidae</b>	
モンツキイシモチ <i>Apogon melas</i>	1	ササムロ <i>Caesio caeruleaurea</i>	83
<b>キツネアマダイ科 Malacanthidae</b>		ユメウメイロ <i>Caesio cuning</i>	128
ヤセアマダイ <i>Malacanthus brevirostris</i>	1	ウメイロモドキ <i>Caesio teres</i>	854
オキナワサンゴアマダイ <i>Hoplolatilus cuniculus</i>	1	クマササハナムロ <i>Pterocaesio tile</i>	155
<b>ムツ科 Scombroptidae</b>		タカサゴ <i>Pterocaesio digramma</i>	4,779
クロムツ <i>Scombroptis gilberti</i>	14	<b>イサキ科 Haemulidae</b>	
<b>コバンザメ科 Echeneidae</b>		ムスジコシヨウダイ <i>Plectorhinchus vittatus</i>	2
コバンザメ <i>Echeneis naucrates</i>	5	<b>イトヨリダイ科 Nemipteridae</b>	
<b>シイラ科 Coryphaenidae</b>		イトタマガシラ <i>Pentapodus nagasakiensis</i>	1
シイラ <i>Coryphaena hippurus</i>	3	タマガシラ <i>Parasclopsis inermis</i>	1
<b>アジ科 Carangidae</b>		アカタマガシラ <i>Parasclopsis eriomma</i>	4
ツムブリ <i>Elagatis bipinnulata</i>	6	フタスジタマガシラ <i>Scolopsis bilineata</i>	10
ヒレナガカンバチ <i>Seriola rivoliana</i>	6	ヒトスジタマガシラ <i>Scolopsis monogramma</i>	1
ミナミイケカツオ <i>Scomberoides tol</i>	5	<b>タイ科 Sparidae</b>	
マルコバン <i>Trachinotus blochii</i>	8	タイワンダイ <i>Argyrops bleekeri</i>	1
インドマルアジ <i>Decapterus russelli</i>	1	キビレアカレンコ <i>Dentex abei</i>	1
モロ <i>Decapterus macrosoma</i>	64	<b>フエフキダイ科 Lethrinidae</b>	
ムロアジ <i>Decapterus muroadsi</i>	669	ノコギリダイ <i>Gnathodentex aureolineatus</i>	18
メアジ <i>Selar crumenophthalmus</i>	419	シロダイ <i>Gymnocranius euanus</i>	2
ホソヒラアジ <i>Selaroides leptolepis</i>	103	メイチダイ <i>Gymnocranius griseus</i>	3
マブタシマアジ <i>Alepes vari</i>	5	イトフエフキ <i>Lethrinus genivittatus</i>	1
ウマヅラアジ <i>Alectis indica</i>	9	ハマフエフキ <i>Lethrinus nebulosus</i>	23
カスミアジ <i>Caranx melampygus</i>	53	キツネフエフキ <i>Lethrinus olivaceus</i>	7
ギンガメアジ <i>Caranx sexfasciatus</i>	25	ホオアカクチビ <i>Lethrinus rubrioperculatus</i>	2
ロウニンアジ <i>Caranx ignobilis</i>	20	<b>ヒメジ科 Mullidae</b>	
オニヒラアジ <i>Caranx papuensis</i>	14	リュウキュウアカヒメジ <i>Mulloidichthys pfluegeri</i>	3
コガネシマアジ <i>Gnathanodon speciosus</i>	24	アカヒメジ <i>Mulloidichthys vanicolensis</i>	10
シマアジ <i>Pseudocaranx dentex</i>	2	オジサン <i>Parupeneus multifasciatus</i>	14
クロヒラアジ <i>Carangoides ferdau</i>	3	マルクチヒメジ <i>Parupeneus cyclostomus</i>	4
ヨロイアジ <i>Carangoides armatus</i>	1	タカサゴヒメジ <i>Parupeneus heptacanthus</i>	2
<b>ハチビキ科 Emmelichthyidae</b>		ホウライヒメジ <i>Parupeneus ciliatus</i>	2
ハチビキ <i>Erythrocles schlegelii</i>	5	<b>ヒメツバメウオ科 Monodactylidae</b>	
ロウソクチビキ <i>Emmelichthys struhsakeri</i>	1	ヒメツバメウオ <i>Monodactylus argenteus</i>	25
<b>フエダイ科 Lutjanidae</b>		<b>チョウチョウウオ科 Chaetodontidae</b>	
マダラタルミ <i>Macolor niger</i>	2	ミナミハタタテダイ <i>Heniochus chrysostomus</i>	2

和名 学名	数	和名 学名	数
オニハタタテダイ <i>Heniochus monoceros</i>	6	ハマクマノミ <i>Amphiprion frenatus</i>	41
シマハタタテダイ <i>Heniochus singularius</i>	1	カクレクマノミ <i>Amphiprion ocellaris</i>	6
ハタタテダイ <i>Heniochus acuminatus</i>	6	クマノミ <i>Amphiprion clarkii</i>	4
ムレハタタテダイ <i>Heniochus diphreutes</i>	8	ササズメダイ <i>Chromis lepidolepis</i>	1
フエヤッコダイ <i>Forcipiger flavissimus</i>	12	キホシズメダイ <i>Chromis flavomaculatus</i>	95
カスミチョウチョウウオ <i>Hemitaurichthys polylepis</i>	38	トウカイスズメダイ <i>Chromis mirattonis</i>	3
トンブソソウチョウウオ <i>Hemitaurichthys thompsoni</i>	1	シコクスズメダイ <i>Chromis margaritifer</i>	2
ヤリカタギ <i>Chaetodon trifascialis</i>	7	アマミスズメダイ <i>Chromis chrysurus</i>	26
スミツキノサマダイ <i>Chaetodon plebeius</i>	9	デバスズメダイ <i>Chromis viridis</i>	1,602
セグロチョウチョウウオ <i>Chaetodon ephippium</i>	2	アオバスズメダイ <i>Chromis atripectoralis</i>	72
トゲチョウチョウウオ <i>Chaetodon auriga</i>	31	ミツボシクロスズメダイ <i>Dascyllus trimaculatus</i>	21
ウミジキチョウチョウウオ <i>Chaetodon bennetti</i>	5	フタスジリュウキュウスズメダイ <i>Dascyllus reticulatus</i>	27
イッテンチョウチョウウオ <i>Chaetodon unimaculatus</i>	1	ミスジリュウキュウスズメダイ <i>Dascyllus aruanus</i>	65
トノサマダイ <i>Chaetodon speculum</i>	1	シマスズメダイ <i>Abudefduf sordidus</i>	2
ミカドチョウチョウウオ <i>Chaetodon baronessa</i>	1	ロクセンズメダイ <i>Abudefduf sexfasciatus</i>	25
チョウハン <i>Chaetodon lunula</i>	13	オヤビッチャ <i>Abudefduf vaigiensis</i>	17
ハクテンカタギ <i>Chaetodon reticulatus</i>	3	ハリスズメダイ <i>Chrysiptera cyanea</i>	140
カガミチョウチョウウオ <i>Chaetodon argentatus</i>	2	ネズスズメダイ <i>Chrysiptera glauca</i>	1
フウライチョウチョウウオ <i>Chaetodon vagabundus</i>	11	クラカオスズメダイ <i>Amblyglyphidodon curacao</i>	543
ミスジチョウチョウウオ <i>Chaetodon lunulatus</i>	2	ナミスズメダイ <i>Amblyglyphidodon leucogaster</i>	5
ニセフウライチョウチョウウオ <i>Chaetodon lineolatus</i>	8	クロスズメダイ <i>Neoglyphidodon melas</i>	2
スダレチョウチョウウオ <i>Chaetodon ulietensis</i>	1	ヒレナガスズメダイ <i>Neoglyphidodon nigroris</i>	2
アケボノチョウチョウウオ <i>Chaetodon melannotus</i>	11	リボンスズメダイ <i>Neopomacentrus taeniurus</i>	12
チョウチョウウオ <i>Chaetodon auripes</i>	40	フィリピンズメダイ <i>Pomacentrus philippinus</i>	4
ミヅレチョウチョウウオ <i>Chaetodon kleinii</i>	11	オジロスズメダイ <i>Pomacentrus chrysurus</i>	2
ゴマチョウチョウウオ <i>Chaetodon citrinellus</i>	2	ソラスズメダイ <i>Pomacentrus coelestis</i>	19
ユウゼン <i>Chaetodon daedalma</i>	1	モンツキスズメダイ <i>Pomacentrus alexanderae</i>	1
<b>キンチャクダイ科 Pomacanthidae</b>		ネッタイスズメダイ <i>Pomacentrus moluccensis</i>	12
アデヤッコ <i>Pomacanthus xanthurus</i>	2	ニセネッタイスズメダイ <i>Pomacentrus amboinensis</i>	20
サザナミヤッコ <i>Pomacanthus semicirculatus</i>	2	クロソラスズメダイ <i>Stegastes nigricans</i>	2
タテジマキンチャクダイ <i>Pomacanthus imperator</i>	3	セダカスズメダイ <i>Stegastes altus</i>	2
チリメンヤッコ <i>Chaetodontoplus mesoleucus</i>	1	<b>ユゴイ科 Kuhliidae</b>	
シテンヤッコ <i>Apolemichthys trimaculatus</i>	1	ギンユゴイ <i>Kuhlia mugil</i>	32
ニシキヤッコ <i>Pygoplites diacanthus</i>	2	オオクチュゴイ <i>Kuhlia rupestris</i>	2
ソメワケヤッコ <i>Centropyge bicolor</i>	1	<b>カゴカキダイ科 Microcanthidae</b>	
ナメラヤッコ <i>Centropyge vrolikii</i>	1	カゴカキダイ <i>Microcanthus strigatus</i>	2
アブラヤッコ <i>Centropyge tibicen</i>	4	<b>メジナ科 Girellidae</b>	
アカハラヤッコ <i>Centropyge ferrugata</i>	1	オキナメジナ <i>Girella meina</i>	3
レンテンヤッコ <i>Centropyge interrupta</i>	1	<b>イボダイ科 Centrolophidae</b>	
タテジマヤッコ <i>Genicanthus lamarek</i>	1	メダイ <i>Hyperoglyphe japonica</i>	3
ヒレナガヤッコ <i>Genicanthus watanabei</i>	1	<b>ツバメコノシロ科 Polynemidae</b>	
<b>カワビシヤ科 Pentacerotidae</b>		ツバメコノシロ <i>Polydactylus plebeius</i>	1
ツボダイ <i>Pentaceros japonicus</i>	20	<b>ベラ科 Labridae</b>	
<b>ゴンベ科 Cirrhitidae</b>		シチセンベラ <i>Choerodon fasciatus</i>	1
ヒメゴンベ <i>Cirrhitichthys oxycephalus</i>	1	クラカケベラ <i>Choerodon jordani</i>	1
メガネゴンベ <i>Paracirrhites arcatus</i>	1	アカホシキツネベラ <i>Bodianus rubrisos</i>	1
ホシゴンベ <i>Paracirrhites forsteri</i>	1	ヒレグロベラ <i>Bodianus loxozonus</i>	2
クダゴンベ <i>Oxycirrhites typus</i>	2	モンツキベラ <i>Bodianus dictynna</i>	3
<b>タカノハダイ科 Cheilodactylidae</b>		キツネダイ <i>Bodianus oxycephalus</i>	1
タカノハダイ <i>Goniistius zonatus</i>	3	タキベラ <i>Bodianus perditio</i>	1
<b>カワスズメ科 Cichlidae</b>		キツネベラ <i>Bodianus bilunulatus</i>	3
カワスズメ <i>Oreochromis mossambicus</i>	1	クギベラ <i>Gomphosus varius</i>	1
ナイルティラピア <i>Oreochromis niloticus</i>	2	タレクチベラ <i>Hemigymnus melapterus</i>	1
コンビクトシクリッド <i>Amatitlania nigrofasciata</i>	19	シマタレクチベラ <i>Hemigymnus fasciatus</i>	2
カワスズメ科の一種 <i>Otopharynx lithobates</i>	23	ホンソメワケベラ <i>Labroides dimidiatus</i>	38
<b>スズメダイ科 Pomacentridae</b>		ソメワケベラ <i>Labroides bicolor</i>	1
セジロクマノミ <i>Amphiprion sandaracinos</i>	4	オハグロベラ <i>Pteragogus aurigarius</i>	2
ハナビラクマノミ <i>Amphiprion perideraion</i>	3	ハラスジベラ <i>Stethojulis strigiventer</i>	8

和名 学名	数	和名 学名	数
アカオビベラ <i>Stethojulis bandanensis</i>	4	ネズツボ科 <i>Callionymidae</i>	
ノドグロベラ <i>Macropharyngodon meleagris</i>	6	ニシキテグリ <i>Pterosynchiropus splendidus</i>	1
オトヒメベラ <i>Pseudojuloides elongatus</i>	1	コウワンテグリ <i>Neosynchiropus ocellatus</i>	1
ヤンセンニシキベラ <i>Thalassoma janseni</i>	32	ツバサハゼ科 <i>Rhyacichthyidae</i>	
セナスジベラ <i>Thalassoma hardwicke</i>	25	ツバサハゼ <i>Rhyacichthys aspro</i>	1
ニシキベラ <i>Thalassoma cupido</i>	5	カワアナゴ科 <i>Eleotridae</i>	
コガシラベラ <i>Thalassoma amblycephalum</i>	4	タナゴモドキ <i>Hypseleotris cyprinoides</i>	10
ヤマブキベラ <i>Thalassoma lutescens</i>	31	チチブモドキ <i>Eleotris acanthopoma</i>	32
オトメベラ <i>Thalassoma lunare</i>	7	カワアナゴ属の一種 <i>Eleotris</i> sp.	6
ハコベラ <i>Thalassoma quinquevittatum</i>	1	タメトモハゼ <i>Ophieleotris</i> sp.	7
キヌベラ <i>Thalassoma purpureum</i>	1	ヤエヤマノコギリハゼ <i>Butis amboinensis</i>	2
リュウグウベラ <i>Thalassoma trilobatum</i>	1	ジヤノメハゼ <i>Bostrychus sinensis</i>	3
ミツボシキウセン <i>Halichoeres trimaculatus</i>	4	ハゼ科 <i>Gobiidae</i>	
ムナテンベラ <i>Halichoeres melanochir</i>	1	トビハゼ <i>Periophthalmus modestus</i>	2
カノコベラ <i>Halichoeres marginatus</i>	2	ミナミトビハゼ <i>Periophthalmus argentilineatus</i>	4
カザリキウセン <i>Halichoeres melanurus</i>	2	ヨロイボウズハゼ <i>Lentipes armatus</i>	1
イナズマベラ <i>Halichoeres nebulosus</i>	1	カエルハゼ <i>Sicyopus leprurus</i>	3
カンムリベラ <i>Coris aygula</i>	8	ボウズハゼ <i>Sicyopterus japonicus</i>	4
ツユベラ <i>Coris gaimard</i>	7	ナンヨウボウズハゼ <i>Stiphodon percnopterygionus</i>	1
スジベラ <i>Coris dorsomacula</i>	5	サラサハゼ <i>Amblygobius phalaena</i>	7
ヤマシロベラ <i>Pseudocoris yamashiroi</i>	1	キイロサンゴハゼ <i>Gobiodon okinawae</i>	5
アヤタスキベラ <i>Hologymnosus rhodonotus</i>	3	コバンハゼ <i>Gobiodon</i> sp.	5
シロタスキベラ <i>Hologymnosus doliatus</i>	13	イチモンジコバンハゼ <i>Gobiodon heterospilos</i>	3
ナメラベラ <i>Hologymnosus annulatus</i>	5	ガラスハゼ <i>Bryaninops yongei</i>	2
クロヘリイトヒキベラ <i>Cirrhilabrus cyanopleura</i>	4	ヒナハゼ <i>Redigobius bikolanus</i>	3
ニシキイトヒキベラ <i>Cirrhilabrus exquisitus</i>	4	ヒラヨシノボリ <i>Rhinogobius</i> sp. DL	2
ギチベラ <i>Epibulus insidiator</i>	1	キバラヨシノボリ <i>Rhinogobius</i> sp. YB	3
メガネモチノウオ <i>Cheilinus undulatus</i>	4	ツムギハゼ <i>Yongeichthys nebulosus</i>	2
アカテンモチノウオ <i>Cheilinus chlorourus</i>	3	マダラカザリハゼ <i>Istigobius rigilius</i>	41
ヤシヤベラ <i>Cheilinus fasciatus</i>	8	ヒメカザリハゼ <i>Istigobius goldmanni</i>	1
ヒトスジモチノウオ <i>Oxycheilinus unifasciatus</i>	3	ヤシヤハゼ <i>Stonogobiops yasha</i>	9
ホホスジモチノウオ <i>Oxycheilinus digramma</i>	7	ヤマブキハゼ <i>Amblyeleotris guttata</i>	1
ホシテンス <i>Iniistius pavo</i>	1	クビアカハゼ <i>Amblyeleotris wheeleri</i>	1
オビテンスモドキ <i>Novaculichthys taeniourus</i>	2	ダルマハゼ <i>Paragobiodon echinocephalus</i>	7
フダイ科 <i>Scaridae</i>		オトメハゼ <i>Valenciennea puellaris</i>	2
タイワンフダイ <i>Calotomus carolinus</i>	4	アカハチハゼ <i>Valenciennea strigata</i>	2
カンムリフダイ <i>Bolbometopon muricatum</i>	3	イレズミハゼ <i>Priolepis semidoliata</i>	1
イロフダイ <i>Cetoscarus bicolor</i>	6	ソメワケイソハゼ <i>Eviota nigriventris</i>	1
ハゲフダイ <i>Chlorurus sordidus</i>	31	クロユリハゼ科 <i>Ptereleotridae</i>	
ナンヨウフダイ <i>Chlorurus microrrhinos</i>	12	ゼブラハゼ <i>Ptereleotris zebra</i>	1
オビフダイ <i>Scarus schlegeli</i>	46	イトマンクロユリハゼ <i>Ptereleotris microlepis</i>	30
オウムフダイ <i>Scarus psittacus</i>	2	マンジュウダイ科 <i>Ephippidae</i>	
ナガフダイ <i>Scarus rubroviolaceus</i>	1	ナンヨウツバメウオ <i>Platax orbicularis</i>	8
カメレオンフダイ <i>Scarus chameleon</i>	1	ツバメウオ <i>Platax teira</i>	5
イチモンジフダイ <i>Scarus forsteni</i>	5	クロホシマンジュウダイ科 <i>Scatophagidae</i>	
スジフダイ <i>Scarus rivulatus</i>	2	クロホシマンジュウダイ <i>Scatophagus argus</i>	5
ヒブダイ <i>Scarus ghobban</i>	2	アイゴ科 <i>Siganidae</i>	
ブチフダイ <i>Scarus niger</i>	1	ヒフキアイゴ <i>Siganus unimaculatus</i>	77
トラギス科 <i>Pinguipedidae</i>		ハナアイゴ <i>Siganus argenteus</i>	9
オグロトラギス <i>Parapercis pacifica</i>	7	アミアイゴ <i>Siganus spinus</i>	71
サンゴトラギス <i>Parapercis multiplicata</i>	1	アイゴ <i>Siganus fuscescens</i>	45
イソギンボ科 <i>Blenniidae</i>		ゴマアイゴ <i>Siganus guttatus</i>	1
エリグロギンボ <i>Crossosalarias macrospilus</i>	1	ヒメアイゴ <i>Siganus virgatus</i>	26
カモハラギンボ <i>Meiacanthus kamoharai</i>	12	マジリアイゴ <i>Siganus puellus</i>	1
イシガキカエルウオ <i>Ecsenius yaeyamaensis</i>	3	ツノダシ科 <i>Zanclidae</i>	
ウバウオ科 <i>Gobiesocidae</i>		ツノダシ <i>Zanclus cornutus</i>	19
ハシナガウバウオ <i>Diademichthys lineatus</i>	1	ニザダイ科 <i>Acanthuridae</i>	
		ボウズハギ <i>Naso thynnoides</i>	1

和名 学名	数	和名 学名	数
テングハギ <i>Naso unicornis</i>	5	ミナミハコフグ <i>Ostracion cubicus</i>	1
ヒメテングハギ <i>Naso annulatus</i>	5	ウチワフグ科 Triodontidae	
トサカハギ <i>Naso tonganus</i>	1	ウチワフグ <i>Triodon macropterus</i>	5
サザナミトサカハギ <i>Naso vlamingii</i>	8	フグ科 Tetraodontidae	
ミヤコテングハギ <i>Naso lituratus</i>	1	アラレキンチャクフグ <i>Canthigaster solandri</i>	1
テングハギモドキ <i>Naso hexacanthus</i>	62	サザナミフグ <i>Arothron hispidus</i>	2
ヒレナガハギ <i>Zebrasoma veliferum</i>	15	スジモヨウフグ <i>Arothron manilensis</i>	1
ゴマハギ <i>Zebrasoma scopas</i>	6	コクテンフグ <i>Arothron nigropunctatus</i>	1
キイロハギ <i>Zebrasoma flavescens</i>	11	ハリセンボン科 Diodontidae	
ナンヨウハギ <i>Paracanthurus hepatus</i>	44	ハリセンボン <i>Diodon holocanthus</i>	10
サザナミハギ <i>Ctenochaetus striatus</i>	65	ヒトヅラハリセンボン <i>Diodon liturosus</i>	2
シマハギ <i>Acanthurus triostegus</i>	2	ネズミフグ <i>Diodon hystrix</i>	1
ヒラニザ <i>Acanthurus mata</i>	10	両生綱 Amphibia	
アカツキハギ <i>Acanthurus achilles</i>	2	イモリ目 Caudata	
ナガニザ <i>Acanthurus nigrofuscus</i>	24	イモリ科 Salamandridae	
ニジハギ <i>Acanthurus lineatus</i>	10	シリケンイモリ <i>Cynops ensicauda</i>	4
クログチニザ <i>Acanthurus pyroferus</i>	1	カエル目 Anura	
スジクロハギ <i>Acanthurus leucopareius</i>	1	アカガエル科 Ranidae	
メガネクロハギ <i>Acanthurus nigricans</i>	2	ハナサキガエル <i>Rana narina</i>	3
ナミダクロハギ <i>Acanthurus japonicus</i>	1	リュウキュウアカガエル <i>Rana okinavana</i>	1
カンランハギ <i>Acanthurus bariene</i>	2	アオガエル科 Rhacophoridae	
モンツキハギ <i>Acanthurus olivaceus</i>	29	モリアオガエル <i>Rhacophorus arboreus</i>	1
クロモンツキ <i>Acanthurus nigricauda</i>	17	オキナワアオガエル <i>Rhacophorus viridis viridis</i>	6
ニセカンランハギ <i>Acanthurus dussumieri</i>	5	竜弓綱 Sauropsida	
クロハギ <i>Acanthurus xanthopterus</i>	36	カメ目 Testudinata	
カマス科 Sphyraenidae		ヌマガメ科 Emydidae	
オオカマス <i>Sphyraena putnamae</i>	4	ミシシッピーアカミミガメ <i>Trachemys scripta elegans</i>	2
クロタチカマス科 Gempylidae		有鱗目 Squamata	
ナガタチカマス <i>Thyrsoitoides marleyi</i>	5	コブラ科 Elapidae	
サバ科 Scombridae		エラブウミヘビ <i>Laticauda semifasciata</i>	2
グルクマ <i>Rastrelliger kanagurta</i>	1,755	哺乳綱 Mammalia	
ヒラソウダ <i>Auxis thazard thazard</i>	7	鯨目 Cetacea	
クロマグロ <i>Thunnus orientalis</i>	36	マイルカ科 Delphinidae	
キハダ <i>Thunnus albacares</i>	542	マダライルカ <i>Stenella attenuata</i>	3
カツオ <i>Katsuwonus pelamis</i>	42	苔虫動物門 Bryozoa	
ゴクラクギョ科 Belontiidae		苔虫動物門の一種 Bryozoa sp.	1
タイワンキンギョ <i>Macropodus opercularis</i>	26	軟体動物門 Mollusca	
カレイ目 Pleuronectiformes		二枚貝綱 Bivalvia	
タルマガレイ科 Bothidae		ウグイスガイ目 Pterioidea	
トゲタルマガレイ <i>Bothus pantherinus</i>	1	バッコウガキ科 Gryphaeidae	
フグ目 Tetraodontiformes		シヤコガキ <i>Hyotis hyotis</i>	1
モンガラカワハギ科 Balistidae		ミノガイ目 Limoida	
アカモンガラ <i>Odonus niger</i>	5	ミノガイ科 Limidae	
クロモンガラ <i>Melichthys vidua</i>	2	ウコンハネガイ <i>Ctenoides ales</i>	1
ゴマモンガラ <i>Balistoides viridescens</i>	1	イタヤガイ目 Pectinoida	
モンガラカワハギ <i>Balistoides conspicillum</i>	1	ウミギクガイ科 Spondylidae	
ツマジロモンガラ <i>Sufflamen chrysopterum</i>	1	ミズイリシヨウジヨウ <i>Spondylus varius</i>	3
ムスメハギ <i>Sufflamen bursa</i>	3	マルスダレガイ目 Veneroida	
メガネハギ <i>Sufflamen fraenatum</i>	2	シャコガイ科 Tridacnidae	
クマドリ <i>Balistapus undulatus</i>	1	ヒメシャコガイ <i>Tridacna crocea</i>	8
カワハギ科 Monacanthidae		シラナミガイ <i>Tridacna maxima</i>	16
テングカワハギ <i>Oxymonacanthus longirostris</i>	4	トガリシラナミ <i>Tridacna noae</i>	1
ソウシハギ <i>Aluterus scriptus</i>	3	ヒレシャコガイ <i>Tridacna squamosa</i>	4
アミメウマヅラハギ <i>Cantherhines pardalis</i>	1	シジミ科 Corbiculidae	
ヒゲハギ <i>Chaetodermis penicilligera</i>	1	ヤエヤマヒルギシジミ <i>Geloina erosa</i>	4
ハコフグ科 Ostraciidae			
コンゴウフグ <i>Lactoria cornuta</i>	4		
テングハコフグ <i>Ostracion rhinorhynchus</i>	1		



和名 学名	数
頭足綱 Cephalopoda	
八腕形目 Octopodida	
マダコ科 Octopodidae	
マダコ科の一種 Octopodidae sp.	1
腹足綱 Gastropoda	
古腹足目 Vetigastropoda	
オキナエビスガイ科 Pleurotomariidae	
リュウグウオキナエビス <i>Entemnotrochus rumphii</i>	1
コシダカオキナエビス <i>Mikadotrochus salmiana</i>	1
ニシキウスガイ科 Trochidae	
サラサバテイ <i>Tectus niloticus</i>	15
サザエ科 Turbinidae	
チョウセンサザエ <i>Turbo argyrostomus</i>	1
タマキビ型新生腹足目 Littorinimorpha	
ソデボラ科 Strombidae	
マガキガイ <i>Strombus (Conomurex) luhuanus</i>	15
スイジガイ <i>Lambis (Harpago) chiragra</i>	4
クモガイ <i>Lambis lambis</i>	2
フシデサソリガイ <i>Lambis (Millepes) scorpius scorpius</i>	1
クマサカガイ科 Xenophoridae	
ウスクマサカガイ <i>Xenophora tenuis</i>	3
セブチリメンクマサカガイ <i>Xenophora regularis</i>	2
タカラガイ科 Cypraeidae	
ホシダカラ <i>Cypraea tigris</i>	1
キイロダカラ <i>Cypraea moneta</i>	4
ハナビラダカラ <i>Erosaria annulus</i>	20
トウカムリ科 Cassidae	
トウカムリ <i>Cassis cornutus</i>	2
フジツガイ科 Ranellidae	
ホラガイ <i>Charonia tritonis</i>	1
新腹足目 Neogastropoda	
アッキガイ科 Muricidae	
バライロセンジュ <i>Chicoreus saulii</i>	1
オガサワラツブリ <i>Haustellum gallinago</i>	13
イモガイ科 Conidae	
タガヤサンミナシ <i>Conus textile</i>	1
ニシキミナシ <i>Conus (Strioconus) striatus</i>	1
アンボイナ <i>Conus (Gastriidium) geographus</i>	1
クロフモドキ <i>Conus (Lithoconus) leopardus</i>	1
後鰓目 Opisthobranchia	
カノコセワタガイ科 Aglajidae	
ニシキツバメガイ <i>Chelidonura hirundinina</i>	1
カノコセワタガイ <i>Philinopsis gigliolii</i>	1
ウミコチョウ科 Gastropteridae	
ムラサキウミコチョウ <i>Sagaminopteron ornatum</i>	2
カメノコフシエラガイ科 Pleurobranchidae	
チギレフシエラガイ <i>Berthella martensi</i>	5
フジタウミウシ科 Polyceridae	
ミドリリュウグウウミウシ <i>Tambja morosa</i>	2
センヒメウミウシ科 Aegiridae	
レモンウミウシ <i>Notodoris citrinus</i>	2
ドーリス科 Dorididae	
シモフリカメサンウミウシ <i>Aldisa albatrossae</i>	5
ツツレウミウシ科 Discodorididae	
コンペイトウウミウシ <i>Halgerda carlsoni</i>	2
キスジカンテンウミウシ <i>Halgerda diaphana</i>	1
ブッシュドノエルウミウシ <i>Jorunna rubescens</i>	1

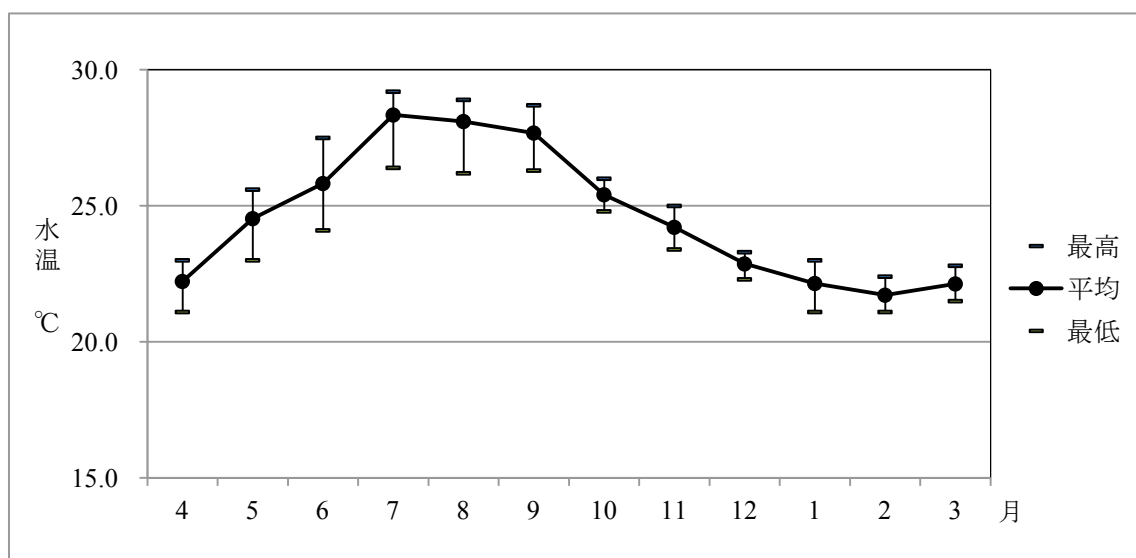
和名 学名	数
イロウミウシ科 Chromodorididae	
イガグリウミウシ <i>Cadlinella ornata</i>	1
コールマンウミウシ <i>Chromodoris colemani</i>	4
ミスジアオイロウミウシ <i>Chromodoris lochi</i>	2
ミヅレウミウシ <i>Chromodoris willani</i>	3
シラナミイロウミウシ <i>Chromodoris coi</i>	1
オトヒメウミウシ <i>Chromodoris kuniei</i>	1
キイロウミウシ <i>Doriprismatica atromarginata</i>	1
モンジャウミウシ <i>Glossodoris cincta</i>	1
キャラメルウミウシ <i>Glossodoris rufomarginata</i>	1
メレンゲウミウシ <i>Ardeadoris egretta</i>	1
シンデレラウミウシ <i>Hypselodoris apolegma</i>	1
ゾウゲイロウミウシ <i>Hypselodoris bullocki</i>	6
ホシゾラウミウシ <i>Hypselodoris infucata</i>	2
マダライロウミウシ <i>Risbecia tryoni</i>	5
テスウニシキウミウシ <i>Ceratosoma tenue</i>	1
クロシタナシウミウシ科 Dendrodorididae	
クロシタナシウミウシ <i>Dendrodoris fumata</i>	1
イボウミウシ科 Phyllidiidae	
ソライロイボウミウシ <i>Phyllidia coelestis</i>	2
タテヒダイボウミウシ <i>Phyllidia varicosa</i>	18
ツノキイボウミウシ <i>Phyllidia elegans</i>	3
フリエリイボウミウシ <i>Phyllidia picta</i>	2
コイボウミウシ <i>Phyllidiella pustulosa</i>	13
アンナイボウミウシ <i>Phyllidiopsis annae</i>	1
ユキヤマウミウシ <i>Reticulidia fungia</i>	1
ユビウミウシ科 Bornellidae	
ヒオドシユビウミウシ <i>Bornella anguilla</i>	1
ヨツジミノウミウシ科 Facelinidae	
ムカデミノウミウシ <i>Pteraeolidia ianthina</i>	13
環形動物門 Annelida	
溝副触手綱 Canalipalata	
ケヤリ目 Sabellida	
カンザシゴカイ科 Serpulidae	
オオシライトゴカイ <i>Filogranella elatensis</i>	1
節足動物門 Arthropoda	
ウミグモ綱 Pycnogonida	
ウミグモ目 Pycnogonida	
オオウミグモ科 Colossendeidae	
オオウミグモ属の一種 <i>Colossendeis</i> sp.	1
顎脚綱 Maxillopoda	
有柄目 Pedunculata	
ミョウガガイ科 Scalpellidae	
ミョウガガイ <i>Scalpellum stearnsi</i>	53
ハダカエボシ科 Heteralepadidae	
ハダカエボシ <i>Heteralepas japonica</i>	4
軟甲綱 Malacostraca	
口脚目 Stomatopoda	
ハナシャコ科 Odontodactylidae	
モンハナシャコ <i>Odontodactylus scyllarus</i>	2
トラフシャコ科 Lysiosquillidae	
トラフシャコ <i>Lysiosquilla maculata</i>	2
等脚目 Isopoda	
スナホリムシ科 Cirolanidae	
オオグソクムシ <i>Bathynomus doederleini</i>	52

和名 学名	数	和名 学名	数
十脚目 Decapoda		ユビナガワモンヤドカリ <i>Ciliopagurus krempfi</i>	1
イシエビ科 Sicyoniidae		ベニワモンヤドカリ <i>Ciliopagurus strigatus</i>	4
トゲイシエビ <i>Sicyonia lancifera</i>	2	イモガイヨコバサミ <i>Clibanarius eurysternus</i>	1
オトヒメエビ科 Stenopodidae		ケスジヤドカリ <i>Dardanus arrosor</i>	3
オトヒメエビ <i>Stenopus hispidus</i>	14	カブトヤドカリ <i>Dardanus deformis</i>	2
サラサエビ科 Rhynchocinetidae		アオボシヤドカリ <i>Dardanus guttatus</i>	3
サラサエビ <i>Rhynchocinetes uritai</i>	3	イボアシヤドカリ <i>Dardanus impressus</i>	1
ヤイトサラサエビ <i>Rhynchocinetes conspicuocellus</i>	3	オイランヤドカリ <i>Dardanus lagopodes</i>	2
エンヤサラサエビ <i>Cineterhynchus reticulatus</i>	4	コモンヤドカリ <i>Dardanus megistos</i>	6
オオサンゴサラサエビ <i>Cineterhynchus striatus</i>	3	ソメンヤドカリ <i>Dardanus pedunculatus</i>	1
テナガエビ科 Palaemonidae		ヒラテヤドカリ <i>Dardanus scutellatus</i>	1
フウライテナガエビ <i>Brachycarpus biunguiculatus</i>	2	スナギンチャクヒメヨコバサミ <i>Paguristes albimaculata</i>	2
ソリハシコモンエビ <i>Urocaridella</i> sp.	5	ヤスリヤドカリ <i>Strigopagurus boreonotus</i>	10
ミナミテナガエビ <i>Macrobrachium formosense</i>	1	ヤドカリ科の一種 Diogenidae sp.	23
ヒラテテナガエビ <i>Macrobrachium japonicum</i>	2	オカヤドカリ科 Coenobitidae	
コンジンテナガエビ <i>Macrobrachium lar</i>	1	ヤシガニ <i>Birgus latro</i>	2
ウミウシカクレエビ <i>Periclimenes imperator</i>	5	オキヤドカリ科 Parapaguridae	
ロングクロウシュリンブ <i>Periclimenes tennipes</i>	2	オキヤドカリ属の一種 <i>Sympagurus</i> sp.	3
テッポウエビ科 Alpheidae		ホンヤドカリ科 Paguridae	
サンゴテッポウエビ <i>Alpheus lottini</i>	2	ゼブラホンヤドカリ <i>Pylopaguropsis zebra</i>	1
モエビ科 Hippolytidae		ワラエビ科 Chirostylidae	
イノギンチャクモエビ <i>Thor amboinensis</i>	16	ミナミノコシオリエビ <i>Eumunida pacifica</i>	7
タラバエビ科 Pandalidae		コシオリエビ科 Galatheididae	
ミノエビ <i>Heterocarpus hayashii</i>	26	オオコシオリエビ <i>Cervimunida princeps</i>	8
マルゴシミノエビ <i>Heterocarpus laevigatus</i>	8	トウヨウコシオリエビ <i>Galathea orientalis</i>	1
アカモンミノエビ <i>Heterocarpus sibogae</i>	32	アカツノチュウコシオリエビ <i>Munida andamanica</i>	3
オキノアカスジエビ <i>Plesionika grandis</i>	10	コシオリエビ科の一種 Galatheididae sp.	7
アカザエビ科 Nephropidae		マメヘイケガニ科 Cyclodorippidae	
サガミアカザエビ <i>Metanephrops sagamiensis</i>	12	マメヘイケガニ属の一種 <i>Tymolus</i> sp.	8
ヤサオキナエビ <i>Nephropsis holthuisi</i>	1	ホモラ科 Homolidae	
オキナエビ <i>Nephropsis stewarti</i>	2	トウヨウホモラ <i>Homola orientalis</i>	5
アカザエビ科の一種 Nephropidae sp.	1	オオホモラ <i>Paromola japonica</i>	5
アナエビ科 Axiidae		アサヒガニ科 Raninidae	
ショウグンエビ <i>Enoplometopus occidentalis</i>	4	ビワガニ <i>Lyreidus tridentatus</i>	2
オキナワアナジャコ科 Thalassinidae		アサヒガニ <i>Ranina ranina</i>	3
オキナワアナジャコ <i>Thalassina anomala</i>	4	カラツバ科 Calappidae	
イセエビ科 Palinuridae		ミツハキンセンモドキ <i>Mursia trispinosa</i>	2
リョウマエビ <i>Justitia japonica</i>	3	コブシガニ科 Leucosiidae	
カギテリョウマエビ <i>Justitia longimanus</i>	1	ヤマトエバリア <i>Ebalia tuberculosa</i>	3
オキナハコエビ <i>Linuparus sordidus</i>	1	エバリア属の一種 <i>Ebalia</i> sp.	2
ハコエビ <i>Linuparus trigonus</i>	5	シリケンコブシ <i>Randallia pustulosa</i>	1
カノコイセエビ <i>Panulirus longipes</i>	2	クモガニ科 Majidae	
ニシキエビ <i>Panulirus ornatus</i>	1	コツノガニ <i>Chorilia longipes japonica</i>	2
シマイセエビ <i>Panulirus penicillatus</i>	1	オーストンガニ <i>Cyrtomaia owstoni</i>	1
ヨロンエビ <i>Palinurellus wieneckii</i>	3	タカアシガニ <i>Macrocheira kaempferi</i>	5
セミエビ科 Scyllaridae		ハリツノガニ <i>Rochinia pulchra</i>	1
オオバウチワエビ <i>Ibacus novemdentatus</i>	5	クモガニ科の一種 Majidae sp.	1
ゾウリエビ <i>Parribacus japonicus</i>	1	ヒシガニ科 Parthenopidae	
コブセミエビ <i>Scyllarides haani</i>	31	メンコヒシガニ <i>Aethra scruposa</i>	1
セミエビ <i>Scyllarides squamosus</i>	1	カルイシガニ <i>Platylambrus validus</i>	1
ツノガイヤドカリ科 Pomatochelidae		オオエンコウガニ科 Geryonidae	
ウキボリヤドカリ <i>Cancellocheles sculptipes</i>	10	オオエンコウガニ <i>Chaceon granulatus</i>	2
ヤドカリ科 Diogenidae		ワタリガニ科 Portunidae	
クロシマオニヤドカリ <i>Aniculus sibogae</i>	1	フタホシイシガニ <i>Charybdis bimaculata</i>	4
ユビワサンゴヤドカリ <i>Calcinus elegans</i>	2	アカイシガニ <i>Charybdis miles</i>	2
ツマジロサンゴヤドカリ <i>Calcinus latens</i>	3	ヒメヒラツメガニ <i>Ovalipes iridescens</i>	2
ヤッコヤドカリ属の一種 <i>Cancellus</i> sp.	1	アミメノコギリガザミ <i>Scylla serrata</i>	1
オオベニワモンヤドカリ <i>Ciliopagurus alcocki</i>	8	オオヒメベニツケガニ <i>Thalamita macropus</i>	2

和名 学名	数	和名 学名	数
オウギガニ科 Xanthidae		外類綱 Ectognatha	
スベスベマンジュウガニ <i>Atergatis floridus</i>	1	コウチュウ目 Coleoptera	
ウロコオウギガニモドキ <i>Demania intermedia</i>	1	ゲンゴロウ科 Dytiscidae	
マツバガニ <i>Hypothalassia armata</i>	1	トビイロゲンゴロウ <i>Cybister sugillatus</i>	3
ケブカキンチャクガニ <i>Polydectus cupulifer</i>	1	ハイイロゲンゴロウ <i>Eretes sticticus</i>	17
サンゴガニ科 Trapeziidae		ウスイロシマゲンゴロウ <i>Hydaticus rhantoides</i>	4
アミメサンゴガニ <i>Trapezia septata</i>	4	ミズスマシ科 Gyrinidae	
クロサンゴガニ <i>Trapezia digitalis</i>	1	オキナワオオミズスマシ <i>Dineutus mellyi insularis</i>	31
エンコウガニ科 Goneplacidae			
エンコウガニ <i>Carcinoplax longimana</i>	1	<b>植物界 Plantae</b>	
ナキエンコウガニ <i>Psopheticus stridulans</i>	1	維管束植物門 Tracheophyta	
スナガニ科 Ocypodidae		被子植物綱 Magnoliopsida	
ベニシオマネキ <i>Uca crassipes</i>	88	オモダカ目 Arismatales	
リュウキュウシオマネキ <i>Uca coarctata</i>	5	トチカガミ科 Hydrocharitaceae	
ハクセンシオマネキ <i>Uca lactea</i>	86	リュウキュウスガモ <i>Thalassia bempriehii</i>	2
ヒメシオマネキ <i>Uca vocans</i>	4		

(2) 取水海水温

平成 24 年度



年平均 水温 : 24.8°C    pH : 8.3    比重 : 26.21

(3) 水槽規格

水族館

補給水：取水濾過海水 換水率：回/日

水槽	水槽寸法(m)			水量(m <sup>3</sup> )			補給水		濾過循環		総換水	
	幅	奥行	水深	水量	数	総水量	m <sup>3</sup> /時	換水率	m <sup>3</sup> /時	換水率	m <sup>3</sup> /時	換水率
サンゴ礁への旅												
タッチプール	10	3.3	0.3	9.5	1	9.5	9.5	24			9.5	24
サンゴの海	7.5	15	3 - 3.5	300	1	300	300	24			300	24
熱帯魚の海	10.5	16.5	2.5 - 6.6	700	1	700	300	10.2	350	12	650	22.2
個水槽	1.7	1.5	2.9	6.6	1	6.6	6.6	24			6.6	24
〃	5.5	2.8	1.9	35.6	1	35.6	0	0	35.6	24	35.6	24
〃	1.5	1.2	1.9	3.2	4	12.8	3.2	24			3.2	24
〃	1.4	1.5	1.9	3.9	6	23.4	3.9	24			3.9	24
〃	0.5	0.4	0.6	0.1	18	1.8	0.3	24			0.1	24
サンゴの部屋	0.6	0.6	0.6	0.2	7	1.4	0.2	24			0.2	24
水辺の生き物	0.6	0.6	0.8	0.3	5	1.5	0.3	24			0.3	24
〃	0.6	0.9	0.2	0.1	3	0.3	0.1	24			0.1	24
〃	0.8	0.9	0.7	0.5	1	0.5	0.5	24			0.5	24
〃	1	0.9	1.1	1	1	1	1	24			1	24
〃	1.6/1.1	0.9	0.8	0.8	1	0.8	0.8	24			0.8	24
黒潮への旅												
黒潮の海	35	27	10	7,500	1	7,500	1,250	4	3,750	12	5,000	16
危険ザメの海	15	15	4.2	800	1	800	130	4	400	12	530	16
深海への旅												
個水槽	4.4	2.1	2.6	24	1	24	4	4	24	24	28	28
〃	1.3	1.4	1.9	3.4	4	13.6	2.3	4	13.52	24	16	28
〃	0.5	0.4	0.6	0.1	15	1.5	0.4	4	4.58	50	5	54
深層の海	10.3	8	3.6	230	1	230	38	4	300	24	338	28
海のプラネタリウム	1.5	1.3	1.3	2.4	3	7.2	1.2	4	7.2	24	8	28
合計					77	9,672	2,052					

蓄養棟

予備槽スペース:約 400m<sup>2</sup> 補給水：取水未濾過海水 換水率：回/日

水槽	形状	水槽寸法(m)			水量(m <sup>3</sup> )			補給水		総換水	
		幅	奥行	水深	水量	数	総水量	m <sup>3</sup> /時	換水率	m <sup>3</sup> /時	換水率
1F コンクリート水槽	方形	11	9	2.5	250	1	250	120	12	120	12
	円形	10		3	240	1	240	120	12	120	12
	方形	5	5	1	25	3	75	25	24	25	24
2FFRP 水槽	方形	6	5	1	54	2	108	60	24	60	24
	方形	5	3	1.5	21	6	126	21	24	21	24
	方形	5	2	1	9	6	54	9	24	9	24

生け簀

網	形状	水量(m <sup>3</sup> )	長径(m)	短径(m)	水深(m)	数
K-1	方形	9,000	20	30	15	1
K-2	方形	2,475	15	22	7.5	1
K-3	方形	4,950	15	22	15	1
M-1 - 4	円形	1,325	15	15	7.5	4

総水量：21,725m<sup>3</sup> 囲い網：106×38×20m

主な水槽の亚克力パネル

水槽	幅(m)	高さ(m)	厚さ(cm)
サンゴの海 曲面	18.136	2.95	18
熱帯魚の海 曲面	7.105	3.49	18
平面	6.5	3.45	18
黒潮の海 正面	22.5	8.2	60
カフェ側	2.6	7.4	20
アクアarium 曲面	7.45	10.6	38
コーナー	3.3	2.87	10
美ら海シアター	6.4	3.45	20
水上観覧デッキ (強化ガラス)	3.75	3.75	3
危険ザメの海	4.3	3	15
深層の海	10.15	3.15	16

沖縄美ら海水族館年報 第9号 平成25年12月 印刷・発行

---

発行所 一般財団法人 沖縄美ら島財団  
沖縄県国頭郡本部町字石川 888  
電話 0980-48-3645 (代)

編集兼 池田孝之  
発行人

印刷所 沖縄高速印刷株式会社  
沖縄県南風原町字兼城 577  
電話 098-889-5513 (代)

---



沖繩美ら海水族館  
Okinawa Churaumi Aquarium

一般財団法人 沖縄美ら島財団  
Okinawa Churashima Foundation